

たった30日でスペイン語の全てが分かる
スペイン語会話習得プログラム

ディアーロゴ

著者 宮崎 博
スペイン語通訳者・翻訳者



目次

はじめに.....	4
教本の活用法について.....	11
あなたには今「わくわく感」はありますか？.....	13
モチベーション・シフトについて.....	16
私が実践している六つの究極の質問.....	20
スペイン語習得の基本的な流れについて.....	25
スペイン語の四大スキルと三要素・三原則を確認しよう.....	26
スペイン語の基礎知識を覚える.....	28
実践の海（本物のスペイン語の世界）に入ること.....	30
ディアロマスター式によるスペイン語四大スキルの実践.....	31
挑戦と失敗の重要性.....	32
より詳しい文法・語彙・発音を習得.....	34
軽視してはいけないメンタルの問題.....	36
外国人に対するメンタルブロックを払拭しよう.....	39
Amigos y Desconocidos.....	42
なぜ日本人は酔うと躊躇なくスペイン語を話し始めるのか？.....	45
健全なセルフ・イメージの確率.....	47
私の外国語遍歴.....	51
中学高校時代の英語成績.....	53
地獄だった英語講師時代.....	54
ポルトガル語での挫折.....	56
英語での挫折.....	58
革新的な英語勉強法との出会い.....	59
スペイン語との出会いから現在まで.....	60
副業ではなく、本業で通訳をやると決意した夜.....	63

スペイン語を勉強する目的.....	65
試験のためのスペイン語を身につけるには（DELE に合格するには）..	67
会話のためのスペイン語力(日常・ビジネス会話)を身につけるには.....	68
どのレベルか？によってやるべきことが変わる.....	69
スペイン語会話の秘訣とは？ まず….....	72
どうすればスペイン語を話せるようになるのか？.....	75
自分が言いたいことをスペイン語にしておく.....	79
スペイン語を話せるようになった人だけが実践する方法.....	81
「ディアーロ（セリフ）」によるスペイン語会話術.....	85
スペイン語を話すもう一人の別人格を作る.....	88
ディアーロにおけるブロックとフレーム.....	90
ディアーロ（セリフ）を使つての実際のスペイン語の話し方.....	94
宮崎が実際に行なっているディアーロ（セリフ）の活用法.....	98
ディアーロ（セリフ）によるスピーキング法で注意すべき点.....	101
失敗は歓迎すべきこと？.....	111
ディアーロ（セリフ）の構築で分かることがある.....	113
ディアーロ（セリフ）によるスペイン語会話上達.....	115
ディアーロ式スピーキングの最新ノウハウとトレーニング法.....	120
なぜスペイン語を聴き取れないのか？.....	125
包括的なリスニング力の欠如.....	128
スペイン語の研究にハマらないこと.....	130
スペイン語の聴き取り方を知ろう.....	132
宮崎はどのようにスペイン語を聴き取っているのか.....	134
実際のスペイン語音声を使った説明.....	137
聴き取れた単語・ブロック（一塊の語句）から内容を推測する際のコツ.....	144
日本語と同じ感覚で聴き取ることは可能なのか？.....	147
疑心暗鬼にならないこと.....	149
高負荷・短期集中のリスニングトレーニングとその問題点.....	150

高負荷・短期集中トレーニングに不向きな人.....	153
危険な「リスニングの恐怖の法則」とは？.....	155
宮崎が推奨するリスニング・トレーニング.....	157
その他、スペイン語習得に関する情報.....	164
補足講座.....	167
おわりに.....	170

はじめに

この度は私の「たった 30 日でスペイン語の全てが分かる スペイン語会話習得プログラム ディアーロゴ」を購入頂きまして誠にありがとうございます。私はこれまでもメルマガやブログを書いてきましたが、どちらかといえば理論的なことが多かったのではないかと思います。そこで今回は特に「理論から実践へ」ということに目を向け、より【実践】を意識してスペイン語勉強法・スペイン語会話上達法を中心にご紹介したいと思います。

私はこうして初めて教本を書いているわけですが、これまでも多くのスペイン語愛好家の方達が様々な方法でスペイン語について発信されてこられました。そのどれもが本当に素晴らしい内容です。私自身も彼等の発信する内容に大いに助けられてきました。

実際にそういった日本人や外国人のスペイン語愛好家の方達のお陰で、「スペイン語を自信を持って話せるようになった！」という望み通りの結果を手にした人もいただろうと思います。

しかし一方で、未だに多くのスペイン語学習者が「全く聴き取ることが出来ない」「思うように話すことが出来ない」と悩んでいることも事実なのです。

また私自身もメルマガやブログでスペイン語学習方法を発信し「宮崎さんが教えてくれる勉強法にとっても感銘を受けています」「教えてくれた通りにやってみると上手く話せました」という喜びの声を沢山いただいている一方、他の方は一体どうなってしまったのか？という心配があるのです。

つまり私としては、メルマガやブログの読者の方、この教本を読んで頂いた方には100%内容を理解した上で実践、または実践していく中で内容を理解することで「望む結果」を手に入れて欲しいという思いがあったのです。しかし、実際に「話せるようになりました」「聴き取れるようになりました」というレスポンスをいただいたわけではありません。

もしかすると他の読者の方々は、メルマガやブログを読むだけで楽しまれています、実践までは行われていないかもしれません。または私が発信する内容が難しく、実際にトレーニングに入っていけない、何が何だか分からない、という方もいるかもしれません。言っていることは分かるけど、ではどうすればいいのか、と感じられている方だっているのかもしれません。

とはいえ、今まで頑張ってこられたのに「スペイン語が全く話せるようにならない」「ネイティブのスペイン語が聴き取れない」ということで悩まれているのだとすれば、本当に勿体無い話だと思います。

なぜかと言うと、スペイン語を話せるようになる方法や聴き取れるようになる方法というのは、思っているほど難しい話ではないからです。全部聞けば「えっ、それだけ？」というような簡単な話です。ですが、そこからの

【実践】の段階で多くの人が悩まれているわけですね。そしてこの部分が大きなネックとなっているのだと感じています。

最近では、スペイン語の人気による DELE やスペイン語技能検定を受験する人が増加し高校でも「英語プラスそれ以外の言語」としてスペイン語を選択する生徒もいるくらいです。そして何よりも「世界3大言語」として認知され、その重要性が声高に叫ばれていますが、スペイン語を話せる人が日本では少ないと言われています。確かに英語と比べれば情報量が少ないということも原因として考えられます。ですが、更に大きな原因として「**実践しているのか、していないか**」なのではないかと思います。

ここは誤解を恐れずに言わせて頂くとすれば、実際にスペイン語を伸ばしていく上では「実践」さえしていれば「方法」でさえ必要ない、と自信を持って言えます。

メルマガやブログでスペイン語勉強方法を発信している私が「実践」さえしていれば「方法」でさえ必要ない、とは一体どういうことでしょうか？

例えば、あなたが野球やサッカーを始めるとしましょう。ピアノやバレエでも構いません。これらを上達させていくには、二通りのアプローチが考えられます。一つは、スクールやアカデミーに通って、コーチや先生に基礎からきっちり教えてもらう。もう一つは、誰から習うわけでもなく見たことをそのまま真似てやってしまうこと。

確かに、スクールに通いコーチや先生から詳しく説明を貰いながら学べば、基礎力がついて上達し、中には各年代の代表になったりコンクールで優勝することだって出来るでしょう。

一方で、自分で見よう見真似でやっている人が野球やサッカーが上手くなれない、ピアノが弾けない、或いは上手くならない、ということはないのです。トップレベルまで上り詰めた人たちの中には、きちんとした指導を受けていなくても歴史に名を残した強者も少なくはありません。

このことから分かるように、そのスポーツや音楽でプロになりたい、とか専門家になりたい、という願望ではなく、個人で楽しむレベルであれば十分に周りと渡り合えるだけの実力がつくのです。

*ただし、私は決して基礎の大切さや、その過程におけるコーチや先生方の指導を軽視しているわけではありません。何においても基礎は大切です。

勿論、この教本でも「勉強方法」や「論理的な説明」に関するお話はあります。それがなければ、スペイン語の習得法や原理を上手く伝えることが出来ないからです。しかし、一番大切なことは、そのような能書きではなく、この教本を読もうと決断してくれたあなたが実際に生のスペイン語に触れることで、実際にスペイン語を話したり聴いたりする...という【実践】の方であるということを理解しておいて下さい。

そしてもう一つ、どうしても先にお伝えしておきたいことがあります。これは私の「願い」でもあるのですが....

私はこの教本を読もうと決心して下さったあなたに、絶対にスペイン語を話せるように、また聴き取れるようになって欲しいと心から願っています。

なぜなら、中学高校と英語が大好きで学校の成績も良く、語学には自信満々だった私が大学生の頃に英語講師としてアルバイトをした塾で、英語講師らしからぬ酷い発音を中学生にバカにされ、同じ歳で子供の頃から英会話教室に通っていたネイティブ並みの発音の女性講師と比べられダメ講師とレッテルを貼られ本当に恥ずかしい思いをし、社会人になってからも独学で始めた英語やポルトガル語が、一年以上経っても全く上達せず挫折した、という過去を持つ私が今はスペイン語通訳者翻訳者として活動している...という事実がありますので、せっかく好きで始めたスペイン語が思うように上達せず苦しんでいる方には、ぜひ私の習得方法を実践して頂き、スペイン語を話せることで味わえる楽しさや幸福感を知って欲しいのです。

たとえ誰が何を言おうと、スペイン語は言葉なのでやれば必ず話せるようになります。それは、今どんなに苦しんでいても、基礎的な知識が何もなくても、苦手意識があったとしても、全く関係ないのです。また、年齢を気にされる方が多いですが、始めるのに年齢は愚か、遅い早いも関係ありません。

「話せるようになりたい！」という強い気持ちにプラス、正しい方法を理解し、それを【実践】し続ける強い気持ちがあれば、必ずスペイン語を話せるようになります。

先程もお話ししましたが、以前の私はあなたが想像も出来ないくらい語学がダメな人間でした。スペイン語は愚か、英語もポルトガル語も話せないし聞き取れない、何が何だか分からない、という状況でした。外国人と楽しそうに会話している日本人がスーパーマンのように見えたものでした。

そんな落ちこぼれだった私でも、正しい勉強法を知ること、数ヶ月間集中して勉強しただけで日常会話程度であれば十分出来るようになりましたし、ナチュラルスピードのスペイン語も聞き取れるようになりました。ここで声を大にして言っておきたいのは、難しいことは一切していない、ということなのです。正しい方法を理解し、それを【実践】した、本当にそれだけなのです。故にあなたにも可能なのです。センスや優劣の差ではないのです。

最近では大きな書店に行けば、文法から会話に至るまで、スペイン語の教材が売られていますが、それらの教材の著者は殆どが凄い経歴のエリートばかりですね。・・・大学スペイン語学科卒業、・・・大学スペイン語学科教授、とかですね。でも、私にはそのような経歴はありません。そもそもが「英語もポルトガル語も、そしてスペイン語も超落ちこぼれ」でしたから(^^) 本当にダサいのなんのって、よくやっていたなと思います。

しかし、そんな「元落ちこぼれ」の自分だからこそ、思うようにスペイン語が上達せずに悩んでいる方に寄り添い、真実を伝えられるのではないかと、思うのです。元々凄い経歴を持ったスペイン語のエリートの先生方には、伸び悩んでいる落ちこぼれの気持ちなんて分かるはずがないのです。そういうスーパーマンのような人に、習得に苦労している落ちこぼれの気持ちが分かるはずはありません。

この教本では、私は常に「元語学の落ちこぼれダメ人間」という視点に立ち返り、語学ダメ人間の目線でお話するよう全力を注ぎます。私がどのようなプロセスを経てスペイン語を話せるように、また聞き取れるようになったのか、そのトレーニング方法を「隠し事をせずに」お話しさせて頂きたいと

思いますので、最後までしっかり読み、是非【実践】して頂きたいと思います(^ ^)

この教本に書いていることをしっかりと理解しありのまま受け入れ、そして無邪気な気持ちで【実践】してみてください。数ヶ月後には必ず「あれ？何だかスペイン語を話せているぞ！」「うん？スペイン語が聴き取れてる！」という最高の瞬間を味わうことが出来ます。なので、たとえどんなことがあったとしても、絶対に諦めずに続け、スペイン語を身につけましょう！あなたが望む結果を手に入れ、その中で私がお手伝い出来るのであれば本当に嬉しいことです。是非、その感動的な瞬間を味わってください。あなたからの良い報告、お待ちしております(^ ^)

スペイン語通訳者・翻訳者

宮崎 博

教本の活用法について

この「たった 30 日でスペイン語の全てが分かる スペイン語会話プログラム ディアーロゴ」では、私がこれまでに実践してきたスペイン語習得法・スペイン語会話上達法を可能な限り分かりやすく書き、またブログやメルマガには書き切れないスペイン語習得ノウハウやトレーニング法をご紹介します。ブログやメルマガだけでは分かりにくい、ということもあるかと思いますが、今回初めて「**ディアロマスター式**」に出会う方も沢山いらっしゃると思いますので、初めての方にも分かりやすいように解説しています。既にブログやメルマガで聞かれたりしてご存知の内容もあるかと思いますが、復習も兼ねて最初からしっかりと読み頂きたいと思います（先入観は抜きにして、真っさらな状態で読んで頂ければ幸いです）。

この教本では、私、宮崎が実践してきたスペイン語習得法を紹介し、詳しく解説しています。なるべく分かりやすく書いたつもりですが、堅くなりすぎないように「語り口調」も混ぜながら書いておりますので、ラフに表現している場合もあります。

なお、本書を活用して頂くにあたっては、必要であればメモを取りながら、何度も繰り返し読んで頂くことをお勧め致します。何事も定着させるには、繰り返しが大事ですし、また、一度読んだ時とはまた違う発見が二度目や三度目にはあるはずです。どんなことでもそうですが、一度読んだ、一度実践しただけで理解した気にならず、何度も繰り返し読まれることを心の底からお勧め致します。何かあれば、いつでもメールでご質問下さい＾＾

■メールサポートについて

この教本では、メールでのご質問にもお答えさせていただきます。先程も触れましたが、出来るだけ親しみを持って読んで頂きたいので「語り口調」で書かせて頂いています。時には表現がラフだったりして、稀に不快に感じられることもあるかもしれませんが、当教本の特長ということでご理解頂けましたら幸いです。先程も触れましたが、分からないこと、何かこう、喉元に引っ掛かったようでスッキリしない、というようなことがあれば遠慮なくメールにてご質問下さい。メールでの質問に関しては無期限、ということは私がリタイア（引退）しない限り（笑）お答え致しますので、お気軽にメールをお送り下さい。このスペイン語という言葉で、著者が直接アドバイスをしているなんて本はどんなに大きな書店でも売っていません。ここが、この教本の強み・特長でもありますので、是非ドンドンご質問をお送り下さい。

但し、一応以下のルールを守って頂きますようお願い致します：

1. ご質問される内容について、本書内に答えが載っていないか十分にご確認ください。
2. 本書を読まれる前にご質問されることはご遠慮下さい。
3. 内容を要約して欲しいといったご要望には対応出来かねます。
4. 他力本願的なご要望にも対応出来かねますのでご了承下さい。

お互いに気持ちよく質疑応答が出来るようルールを守って頂ければ幸いです（ご質問への回答にはお時間を頂く場合もございますのでご了承下さい）。

あなたには今「わくわく感」はありますか？

ではいよいよ、スペイン語力をしっかりと身につけていくためのお話を始めたいと思います。その前に、一つだけお聞きしたいことがあります(^^)

あなたには今「わくわく感」はありますか？

せっかくスペイン語を身につけるのですから、ワクワクしますよね(^^)
「わくわく」することはとても良いことです。

なぜ、私たちが「わくわく」するのか？ といえば、それは今後一つの基準となるようなものです。私たちがワクワクしている時、それは私たちにとってプラスのことをしているのです。つまり、最適な選択をし、正しい方向へと向かっているために「わくわく」する、ということです。

逆にもし「楽しくない」「苦痛だ」「憂鬱だ」と、「わくわく感」とは正反対の感情が湧いてくるのであれば、それはあなたにとってマイナスのことをしていることを示します。つまり、あなたの脳が間違った選択に反応し、良くない方向へ向かっていることを教えてくれているのです。

私たち日本人は「苦勞」「我慢」「忍耐」を美德としています。それ自体は

正しいことです。節制し節度のある生活をするこゝも、こゝ日本で生きていくためには必要不可欠な価値観です。

しかし、スペイン語をしっかりと身につけたいという願望があるのであれば「辛いこゝでも我慢していればいつか道は開ける」というような、前時代的な精神論は足枷となりますので、距離を取る必要があります。

スペイン語を身につけることは決して「辛いこゝ」でも「「苦しいこゝ」でもありません。「いやいや、知らない単語を覚えるのも大変だし、中学校や高校の授業でも習ってないから辛いよ...」とあなたは言われるかもしれませんが、それは間違えた先入観、と言えます。

まず始めるにあたって、あなたが「わくわく感」を感じるならば、新しい単語を覚えるこゝも、初めてスペイン語文法を学ぶこゝも、実際には全く辛いものではなく、楽しくてたまらないものであるはずでゝす。モチベーションにも関わる話となりますが、例えば、あなたが密かに想いを寄せる人がいるとしましゝう。

その相手に気に入ってもらえるなら、殆どの人は何なこゝでもするのではないでゝしょうか？ スペイン語の勉強をしている時間でも、その相手が話したいと言えゝば勉強を止めて通話に応じるかも知れませゝん。相手がどうしても会いたいと言えゝば、夜遅い時間でも会いに行くかも知れませゝん。相手のこゝが好きであればあるほど、どんな辛いこゝも、辛いと感ゝじるこゝなく、その相手のためになら喜んでしてあげることがでゝきるのゝです。

モチベーションというのは、こういう「わくわく感」によって生じるものなのです。傍から見れば「あいつ、遂に頭がおかしくなったんじゃないか？」と思われるかも知れません。

しかーし！

当の本人にしてみれば、それは「苦痛」でもなんでもなく、大きな「喜び」なのです。この違い、いかがですか？

あなたがスペイン語に対して「わくわく」しているのであれば、その方向性は正しいのです。まさにバモス！（ゴー！）です。さらに「わくわく感」を追い求めて下さい。あなたが「わくわく感」で溢れているとき、それは正しい選択をし、良い方向へ進んでいるので、確実にスペイン語力が伸びます。これは自信を持ってお約束できます。

反対に、もし「わくわく感」を感じず「苦痛」に感じるなら...少し心配したほうが良いかも知れません。少し残酷ですが、「わくわく感」を感じないという方は、かなりの確率でスペイン語習得に失敗する可能性があります。

しかし、大丈夫です！（^^）今あなたが「わくわく感」を感じられなくても、次項からお話する「モチベーション・シフト」を実践すれば、間接的にスペイン語に対する「わくわく感」を感じることが出来るようになります。

モチベーション・シフトについて

例えば、あなたが DELE を受けなければならないことになったとします。その理由は、自ら進んで、ではなく、会社からの要請によって仕方なく受験する...というような場合です。実際のところ、そんな方に「ワクワクしていますか？」なんて聞いたらブチギレられてしまうかも知れません(^^)

自分から受けようと思ったのではなく、会社から無理やり受けさせられるのに「何だかワクワクする～」なんてオメデタイ方はいませんよね。しかし...です。「ワクワクしていない」ということは、決して良い方向には進んでいない...ということなのです。むしろ悪い方向へ進んでしまっているという合図なのですから。

事実、多くの方が、受験する DELE のカテゴリーが上がるにつれてなかなか合格出来ず途中で諦めてしまう、という現実があるのは、その多くの受験生が「ワクワクしていない」ということの表れですね。実際、一発合格でしかもハイスコアを取れる人は、それこそ三度の飯より DELE が大好き！という変態（ごめんなさい！）なんですよ(^^)

なぜ、決して簡単ではないのに一発で、それも高得点で合格出来てしまうのか？ それは DELE やスペイン語自体が大好きだからです。先程も言いましたが、好きな相手のためなら、どんなことも苦痛に感じないのです。だからこそ頑張れる、暗記だって難なく出来てしまうということ、こういう、人間の原理・本質を必ず抑えておいてください。

では、DELE もスペイン語も大嫌いという人には光は見えないのでしょうか？ ここで登場するのが「モチベーション・シフト」です。

これはブログやメルマガでは殆ど触れたことがない、本当に重要なメンタル・コントロール法の一つなので、しっかり理解して頂きたいと思います。

元来このモチベーションというのは、いわば大義名分であり、考え方次第でいくらでも「関連付け」が可能なのです。多少強引でも良いのです。

例えば、会社から DELE の B2 に合格しなさいと言われたとします。現在のあなたは B1 です。1 カテゴリー違うだけなので、本気になって勉強すれば数ヶ月で達成できる目標です。しかし、スペイン語が嫌いなあなたは頑張れない。会社からは B2 に合格すれば、昇進と昇給のお墨付きを貰っている。海外赴任をさせてもらえる、最大のチャンスです。

こういう時に「モチベーション・シフト」をしてみると良いのです。つまり、会社から受けた「B2 合格」という命令を「昇進・昇給」「海外赴任させてもらえる」ということに置き換えて考えてみると良いのです。つまり、この時点であなたの目標は「DELE B2 合格」ではなく「昇進・昇給」や「海外赴任」に変わる（シフトする）ということ。

この考え方は本当に大事なのです。「昇進・昇給」「海外赴任」という目標だけではありません。例えば、「昇進・昇給」によってあなたにはどういう未来が待っているのでしょうか？ 昇進すれば、より安泰な地位を確立出来るか

も知れません。昇給すればマイホームを購入出来たり、日々の暮らしが楽になるかも知れません。あなたのお小遣いだって増えるかも知れません。

さらにシフトして考えると、昇給することで、今まで我慢していた趣味や習い事にチャレンジできるかも知れません。お子様を塾に行かせてあげたりピアノを買ってあげたりできるかも知れません。年金生活のご両親がいるならば、仕送りをしてあげることが出来るかも知れません。

このように「モチベーション・シフト」を活用すると、当初の「DELE B2 合格」という苦痛が伴う目標を、あなたがより「わくわく感」を感じる目標にシフトし、間接的にスペイン語の勉強に活力をもたらすパワーの源、として活用できるようになるというわけです。

あなたにとっては「DELE B2 合格」は会社からのどうしても良い命令だったわけですが、モチベーション・シフトによって間接的に**純粋な目標**に変わり、見事に達成出来るというわけですね。勿論これは DELE だけに限りません。

例えば、スペイン語会話であれば「話せるようになること」が一般的な目標ですが、それによって「女性にモテたい」「尊敬されたい」「海外旅行をツアーではなく個人旅行で楽しみたい」とか、いくらでも派生させることが出来るわけです。このようにモチベーション・シフトを**実践**することで、あなたを「わくわく感」が漲る状態にすることが出来るようになるわけですね。

そして何度も言いますが、この「わくわく感」については今すぐ確認して頂く必要があります。今この瞬間にスペイン語に対して「わくわく感」を感じられているのであれば問題ありません。

しかし全く「わくわく感を感じない...」というのであれば、この教本を読み進めても、スペイン語を身につけることは出来ないかも知れません。それ程「わくわく感」というのは大切な要素なのです。

その場合は「モチベーション・シフト」を**実践**し、1 週間、いや 2 週間掛かっても構いませんので、あなたが「ワクワクする」ポイントを見極め、それにスペイン語習得を「関連づける」ことで、グーンとあなたの気持ちを最高点まで高めて下さい。ここが本当に大切なポイントです。この部分を軽視すると...後に悲惨なことになります！是非、未来のことに思いを馳せ、あなたのモチベーションを爆発させて下さい(^^)



私が実践している六つの究極の質問

私はいつも、新たな物事に取り組む前は勿論ですが、取り組んでいることに行き詰まったり気分が乗らなくなった時、以下に紹介する6つのことを自分に問い掛けるようにしています。これらの問い掛けに真剣に答えることで、あなたの本当のモチベーションが明確になります。もしモチベーションが上がらない...という方は、必ずこれらの問い掛けに真剣に答え、必要であれば紙にでも書いて目に付くところに貼っておいて下さい。そうしておくことで強烈な効果をもたらしてくれます。

■究極の質問①

あなたのスペイン語の目標を書いて下さい（いくつでも良いので、なるべく具体的に書いて下さい。例：DELE C2 合格）

ここでスペイン語の目標と書きましたが、勿論、先程の「モチベーション・シフト」を用いて別の目標について書いて頂いても構いません。大事なことは、あなたが「わくわく感」を感じられる、それを達成した未来についてトキメキを感じられる、真の目標を自分で探し出すことです。

■究極の質問②

いつまでに達成する必要がありますか？理由も詳しく書いて下さい。

語学学習は期限を決めると効果的です。期限を決めることで一番最後の日が決まります。では、その最後の日までにどうなっていないといけないのか？そのために何をすべきなのか？を考えるようになります。あまりにもかけ離れた非現実的な期限は逆効果なのでそこは、あなたが「いけそうだ」と感じる期限を設定しましょう。この「期限」を設定することで、ダラダラと勉強を続けるのを防ぐことも出来ます。要は、期限を決めることであなたの心に火をつける、ということです。

■究極の質問③

その目標へ向かっていく上で障害となるものがあれば教えて下さい（例：仕事から帰るのが遅くて時間がない、やる気が湧かない、基礎力がない等）

この質問も大切です。おそらく、この教本を読んで下さっている多くの方が今までにスペイン語習得にチャレンジされたことがあるでしょう。その中で、もし習得に失敗されていたり、何らかの事情で挫折・断念されたという経験があるならば、その原因（障害となるもの）を明確にし、適切な対策を立てることが出来れば、あなたのスペイン語習得の確率はかなり高くなります。ですが、原因（障害）を炙り出しただけで特に何も対策をしないのでは意味がありませんので、明確にしたら、次はトコトン対策を立ててみて下さい。これも本当に大切なポイントです。

■究極の質問④

あなたにとってのスペイン語の必要性を教えてください（例：DELE C2 に合格しないと会社をクビになる、給料が下がる等）

これに関しては「必要性は特にない」という方もおられます。勿論、それでもスペイン語を習得したくて「ワクワクする」のであれば、必要性はなくても大丈夫です。例えば、趣味で...とか、スペイン語が大好きで...という方はそれに当てはまります。

但し、特にスペイン語が好きではなく、ワクワクもせず、必要性もない...という場合は、このまま進めるとマズイです。この場合も「モチベーション・シフト」を活用し、必要性が出てくるように関連付けをして下さい。例えば DELE の例であれば、DELE C2 に合格しないと契約を切られてしまう、クビになると生活出来なくなる、家賃が払えなくなり住む所がなくなる、等々、よりリアルに切実な問題を思い浮かべると、「必要性」が出てくるようになります。

何よりも大切なのはスペイン語習得があなたにとって、いかに重要なことなのかを、あなた自身に強く【認識】させることです。人は自分に都合の悪い現実からは目を背けようとしますので、これに向き合うことは「辛いこと」ではありますが、ここで逃げず、しっかりと問題と向き合いましょう。

この時点では辛いことですが、現実と向き合うことで必ず問題解決の突破口が開けますので、結果的にはあなたを良い方向へ導いてくれるはずです。

■究極の質問⑤

もし今回、あなたが目標を達成出来なかったら、どういう現実が待っていますか？ それはあなたにとってどのような影響がありますか？

さて、ここでなかなか強烈な質問が来ましたね^^

実はこれが、6つの質問の中で最も過酷な質問です。この質問には、丸一日掛けて考えて頂いても良いくらいです。それくらい重要なことをあなた自身に認識させる「究極の質問」というわけです。

もし目標を達成出来なかったら、どんな現実が待ち受けているのでしょうか？ 人によっては社内で降格、最悪の場合は契約打ち切り、周囲の人に馬鹿にされる等、かなりシビアな現実が待ち受けているかも知れません。一方では、別にどうってことはない...という場合もあるかも知れません。

しかし、表面上では「どうってことはない」と平静を繕っていても、よくよく考えると「また駄目だった...」「やっぱり自分には無理だったんだ...」といった現実に気が付き、あなたの中に心の傷として残る可能性もあります。実は、このメンタル的なダメージはあなたが思っている以上に深刻で、長い間あなたのセルフ・イメージ（自尊心）に悪影響を及ぼしますので注意して下さい。

*「セルフ・イメージ」に関しては、スペイン語習得にかなり影響が大きいので、後ほど詳しくお話したいと思います。

■究極の質問⑥

あなたは自分が立てた目標を達成する意思がありますか？ と言い切れるのはなぜですか？

いよいよ最後の質問です。あなたは自分が立てた目標を達成する意思があるのでしょうか？ おそらく全員の方が「ある！」と答えます。当たり前のことです。しかし、それでも全員が習得に成功してきたのか？ というとそうではありません。なぜなのでしょう？ なぜ、あなたは自分が目標を達成できると言い切れるのでしょうか？ これもトコトン考えて紙に書いてみてください。

以上の質問とそれに対する答えは、今後あなたがスペイン語習得を目指していく過程の中で大きな**道しるべ**となるものであり、落ち込んだり心が折れそうになった時に、**心の支え**となってくれる重要なものです。ここであなたが書いたことはどこにも売っていませんし、誰にも分かりません。あなただけが知っている、とても貴重なものです。つまり「究極の質問」であり「究極の答え」なのです。コピー用紙でもルーズリーフでもなんでも構いませんので、書いて、あなたの家の中の目の付くところに張り出しておきましょう。スペイン語習得の継続や、そのモチベーション維持、そして何よりもあなたの目標達成の大きな活力を与えるものなので、大切に扱ってください。

スペイン語習得の基本的な流れについて

ではいよいよ、実際の「スペイン語習得」についてのお話を始めます。学習を始める前に、まずはスペイン語習得の基本的な流れを整理して行きましょう。この教本に書いてあることはどれも「重要」で「不可欠」ですが、特に始める前に基本的な流れを知っておくことは効率化、という点でも大事なことです。最初にこの流れを整理しておかないと、結果的に回り道をする事になり、途中で心が折れてしまう確率が高くなります。人によって色々ありますが、これは私が実際に実践して「最適だ」と感じた流れなので、しっかりと理解して頂きたいと思います。

■宮崎式(ディアロマスター式)スペイン語習得の基本的な流れ

1. スペイン語の基礎知識（必要最低限の文法と語彙）を覚えること【準備】



2. 基礎知識だけを覚えたらすぐに生のスペイン語の世界へ飛び込む【実践】



3. 既にある表現（誰かが使っていた表現）をベースにした「話し」「聴き」「読み」「書き」の練習【実践】



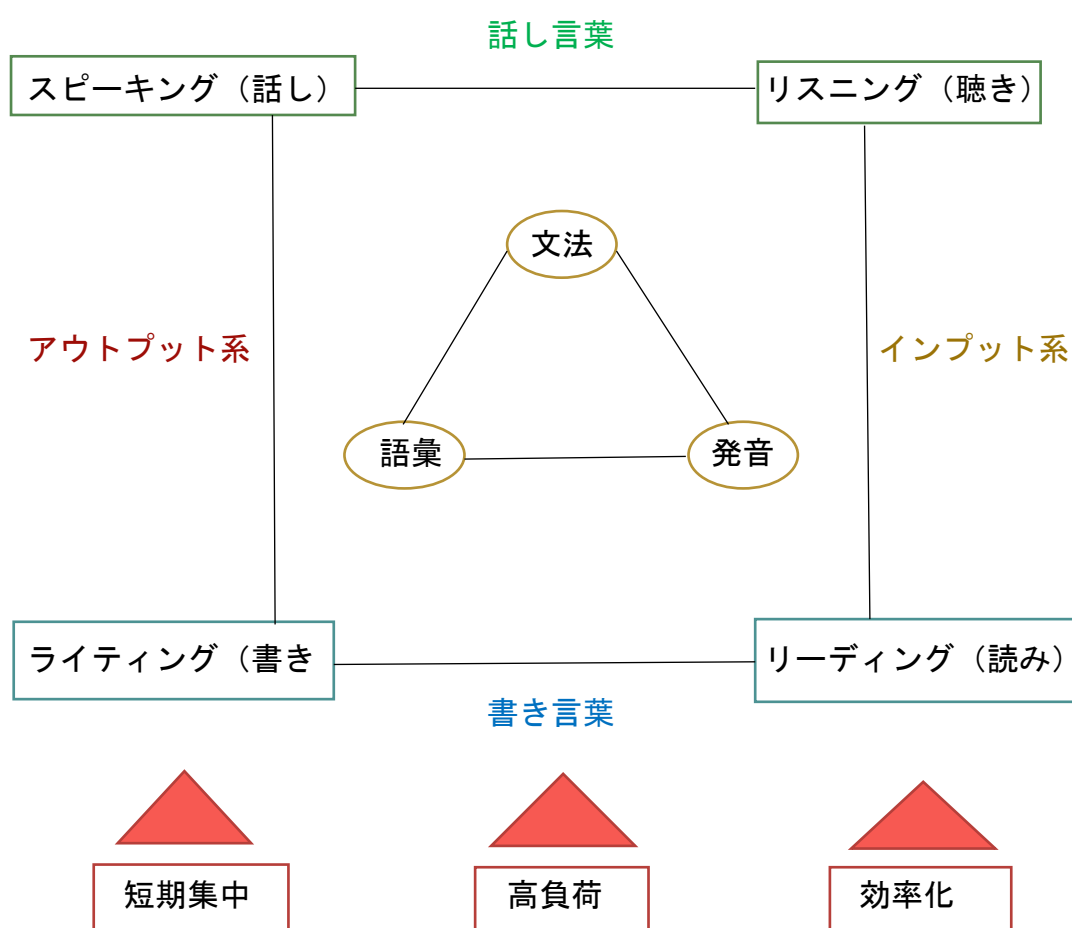
4. 挑戦&失敗を繰り返し、「あなた専用」の表現を身につけること【実践】



5. より詳しい文法・語彙・発音を習得 ➡ 継続・反復・改善・矯正【実践】

スペイン語の四大スキルと三要素・三原則を確認しよう

スペイン語学習を開始する前に、先にあげた「基本的な流れ」と共に押さえておいて欲しいのが、スペイン語の四大スキルと三要素・三原則です。既に私のメルマガやブログでも何度も触れている内容となりますので、既に知っている方もいるかも知れませんが、復習の意味も込めて下図に示しました。



【スペイン語の四大スキルと三要素・三原則】

上の図で示したように、四大スキルとは「話し：スピーキング」「聴き：リスニング」「読み：リーディング」「書き：ライティング」のことです。

「スピーキング」と「リスニング」は口語、つまり会話での「話し言葉」を扱うスキル、一方「リーディング」と「ライティング」は文語、つまり「書き言葉」を扱うスキルですね。

この四大スキルは人間の身体のようにバランスが取れており、どれか一つでも欠けるだけでスペイン語という身体は調子が悪くなります。更にその中に三要素「文法」「語彙」「発音」があります。文法は特に「書き言葉」と、語彙は全てのスキルと、発音は「話し言葉」と密接に関わる要素です。

そして、こういうスペイン語の基本的な習得を行う上での三原則が「短期集中」「高負荷」「効率化」となります。これらについてはメルマガやブログでも解説していきますので、宮崎式の習得法を体得したい方は是非メルマガやブログもお読みになってください。



バランスが大切だね！

スペイン語の基礎知識を覚える

まず、この部分で誤解が生じるといけないので、最初にきちんと説明したいと思います。私は普段からメルマガやブログで「文法なんて気にしなくて良いです」「単語を暗記しても話せるようにはなりません」といった発信をしていますので、教本でいきなり「まずはスペイン語の基礎知識を身につけましょう」…なんて言うのと「え？ どういうことですか？」と思われるかもしれません(^^)

義務教育で習う英語と違い、大学や趣味、独学でやった経験がある人以外の方にとっては、スペイン語は何もかもが初めて、という言葉です。そこでまず、何でも良いので書店で文法書を一冊購入し、「一通り」頭に入れておいてください。

なぜなら、最低限の文法知識がないと「初球から中級へ」の道が開けないから、です。つまり、今後スペイン語力を伸ばしていく上で必要不可欠なものと考えて下さい。スポーツでも仕事でも、何もない状態では試合には出られないし営業も出来ませんよね。試合に出たければ必要最低限の技術が、営業に出たければ最低限のマナーや自社製品の最低限の知識がなければ出来ないのと同じことです(^^)

ただ、ここで気を付けなければならないのは、スペイン語での会話をする上での「必要最低限」の基礎知識、ということです。この段階で受験生のように掘り下げて文法研究家のようになったり、ネイティブでも使わない難しい単語を覚える、なんて必要は全く必要ないのです。

日本人は受験英語の影響が濃く、文法が気になって先に進めない、なんて人も多いですが、この状況に陥ると全く先に進めなくなってしまうので、市販の文法書一冊でいいので購入して一通り勉強してみてください。本気で取り組めば、一ヶ月もあれば一通りは終わることが出来るはずです。大事なポイントは「拘りすぎない」ということです。

尚、スペイン語文法の学習にはあまり時間を掛け過ぎないで下さい。一通り学習し、あとは実際にスペイン語の文を読む、といった**実践**をこなしながらその都度確認する、という流れで良いです。なので一ヶ月以上だと掛け過ぎです。

もう一つ大事なことです、決して「深追い」はしないで下さい。最初の段階で深追いすると、挫折する可能性がかなり高いです。今までにそんな人をたくさん、本当にた～くさん見てきました。特に日本人は真面目な人が多いので、この落とし穴に落ちないように気を付けて下さい。適当にやるのは良くありませんが、一通り習得したら潔く文法書は閉じましょう。

なぜスペイン語文法に一ヶ月以上掛けてはいけないのか？なぜ深追いしてはいけないのか？それは、実践の海に飛び込む、つまり、実際にスペイン語を読んだり、ネイティブと会話をしたりする段階に行くまでに時間が掛かり過ぎるからです。文法や語彙を追求するのは最終段階、つまり「ある程度」スペイン語が話せるようになってからで大丈夫です。その時に、ゆっくり時間を掛けて勉強すれば良いのです。文法の詳しい追求はそれからでも遅くはありません。それよりも、基本的な知識（文法や語彙）が身についたら、「準備」はそこそこにして直ぐに【**実践の海**】、本物のスペイン語の世界に飛び込むこと、この流れを忘れないで下さい。

実践の海（本物のスペイン語の世界）に入ること

さて、必要最低限の文法と語彙を勉強したら、直ちに「スペイン語の海」に飛び込みましょう。教科書は一旦閉じてしまいます。この段階で多くの人は「さらに詳しく！」という衝動に駆られ、まるで受験生が文法を勉強するかなのような状況に陥ってしまうのです。

教科書的な文法知識にのめり込むと、今度はなかなか抜け出せなくなります。そうすると、文法を超論理的に解説したり難解な単語を知っているということに快感を感じるようになってしまいます。つまりそれは、本当のスペイン語の世界とは掛け離れてしまうわけですね。確かに大学のスペイン語学科の先生であれば必要な知識かも知れませんが、しかし、ネイティブとの実際の会話・実践的なスペイン語の世界ではあまり必要のない知識なのです。

そこで、必要最低限の知識を一通り学習したら、直ぐに「**実践の海＝本物のスペイン語の世界**」に飛び込みましょう。ここで言う「本物の世界」というのは、実際にネイティブと会話したり、スペイン語でネット検索して海外の記事や情報を読んだり、SNS でスペイン語圏の人と交流したり...という「**リアルなスペイン語**」との触れ合いです。反対に、机に向かって難しい文法知識や難解な単語をボソボソ言いながら暗記するのは「**バーチャルなスペイン語**」ですね。この教本を読んでいるあなたには、そのような空想の世界で満足するのではなく、「**実践でのスペイン語**」「**リアルなスペイン語**」にたくさん触れて頂き、真の意味でのスペイン語力をドカンと身につけて欲しいと思います。

ディアロマスター式によるスペイン語四大スキルの実践

「リアルなスペイン語」の実戦において、ディアロマスター式での「読み・書き・話し・聴く」が効果的です。詳しくは後述しますが、基本的な考えとして、スペイン語を「単語単位」でなく「セリフ単位」で捉え、より大きな表現の塊（ブロック）や構造（フレーム）で表現したり理解したりするというスペイン語習得法です。

例えば ¿Qué pasa algo? 「どうされましたか？」という定番の表現・セリフがあります。単語単位で分解すれば「Qué」「pasa」「algo」という語の集まりですが、一語一語を訳しても「どうされましたか？」という意味にはならないですね。つまり、スペイン語の表現としては「¿Qué pasa algo? 」というこのひと塊が最小の表現単位であるということです。このようなものを**ディアロ**と呼んだり、さらに**ブロック**と呼んだりします。どちらも私が勝手に付けた名称です（詳しくは後述します）。

そして実際のスペイン語（リアルなスペイン語）では、文法上の解釈や単語の意味はあまり気にせず、このような定番の表現（慣用表現）を沢山覚えることで、スペイン語を気持ちよく話したり、聴き取ったり、読んだり、書いたり出来るようになるのです。それは、まるで子供が言葉を習得するプロセスと同じであり、最も自然なスペイン語習得法と言えます。

簡単に言えば、**スペイン語を慣用的なまとまりで捉え、その単位（ディアロ/ブロック/フレーム）で理解したり表現したりしましょう…**ということです。

挑戦と失敗の重要性

実は、このステージが一番大切です。必要最低限の文法と語彙を覚え、ディアロマスター式でリアルなスペイン語に触れ「話し」「聴き」「読み」「書き」のスペイン語の四大スキルを実戦します。そしてここから先は、試行錯誤を繰り返すステージに入っていくことになります。

例えば、ディアロマスター式において、スピーキング（スペイン語を話すこと）では、あなたが話したいことをあらかじめ想定し、それをスペイン語に訳し覚えておく、ということを行います。但し多くのケースで日本人が訳したスペイン語は不完全なままです。ネイティブ・スピーカーが使っている「リアルなスペイン語」とはどこか違います。でも当然のことです。

これは、外国人が話す日本語を思い浮かべてみれば分かりやすいですね。例えば、プロ野球やJリーグの通訳は日本語を話すネイティブが担当することが多いですが、とても日本語が上手いです。それでもやはり彼らの日本語訳を聞いているとどこか違和感があります。しかし決して間違っているわけではありません。日本人が聞いても十分理解できます。

私たち日本人が話すスペイン語も、文法が間違っていたり、ネイティブからすると不自然な表現だったりするわけですが、だからといって通じないのか、と言うと決してそんなことはありません。ですから、「試行錯誤」の段階では間違いを恐れずに、いや、むしろ積極的に間違えて下さい。

あなたが話したいことをスペイン語に訳して覚え、どんどんネイティブにぶつけてみるのです。その相手が優しい人であれば、あなたのスペイン語を訂正してくれるでしょう。たとえ訂正してくれなかったとしても、あなたの表現と比較し、訂正してみましょう。これが挑戦と失敗の段階であり、スペイン語習得における一番大切なステージと言えます。

そしてもう一つ、日本人はとてもシャイな性格です。スペイン語が間違えていたらどうしよう、文法的におかしいと...変な表現だったら...笑われたらどうしよう、馬鹿にされたら...と常にオドオドして、結局は挑戦と失敗を実践出来ないのです。ここは大事なので何度も言いますが、スペイン語というのは試行錯誤、つまり挑戦と失敗の連続で完成するものです。ついでに言うと、「間違えたり」「恥をかいたり」せずにスペイン語を習得することはゼ～ッタイ無理です。本当に大切なので、何度も書きますよ(^^)

スペイン語を話せるようになりたければ、あなたは恥をかかなければならないのです！（「恥をかいた数」はそのまま「勲章になる」ということ）

自分で試しながらスペイン語を書き、それを覚え、実戦で使ってみる。その過程で恥をかいたりしながら、正しいスペイン語の表現を覚える。この繰り返しなのです。なので、恥をかけば恥をかいた分だけ、あなたのスペイン語力は伸びる、ということですね。この「挑戦と失敗」のステージはスペイン語習得の基本的な流れの中で最も重要な段階であると共に、最も challenging な段階でもあります。スペイン語で言うなら vale la pena がピッタリくるでしょう。

* vale la pena＝「やるだけの価値がある」

より詳しい文法・語彙・発音を習得

さあいよいよ最後のステージ。というか、終わりなんてありません(^ ^)
スペイン語の習得に終わりはないからです。最後のステージであることは確かですが、終わりにきラストステージ、ということですね。

この段階に突入するには「うん？スペイン語が話せるようになってる！」
「あれ？聴き取れてる～」という感動的な瞬間を超える必要があります。
しかし、その前段階の「挑戦と失敗」を繰り返しやれば、それ程遠い未来の話ではありません。早い人であれば、2、3ヶ月でかけがえのない感動を体験されています。

そして「スペイン語が話せるようになった！」「聴き取れるぞ！」と感じてからが、新たなスタートラインと言えるのです。それは、文法や語彙、発音といったスペイン語の三要素を【詳しく】勉強するスタートラインに辿り着いた、ということです。

私が提唱している「スペイン語学習の基本的な流れ」では、まずは必要最低限の文法と語彙を学習し、直ぐに「スペイン語の海」に飛び込むのでした。そこで「話し」「聴き」「読み」「書き」の練習、挑戦と失敗を繰り返す → 実践的な練習によって「話せる！」「聴き取れる！」となって、ここで初めて文法や語彙、そして発音について、より詳しく追求していくのです。重要なのは、このステージに入って初めて、重箱の隅をつつくような難しい知識の習得にも踏み込んでいく、ということです。

このステージに入ったら、**継続・反復・改善・矯正**がポイントになります。難解な知識の追求と実践で得たフィードバックを元に継続、反復、改善、矯正という、この一連のサイクルを繰り返し続けることです。

例えば、リスニングはスポーツとよく似ています。どんなスポーツでも、毎日継続して練習しないと感覚が鈍り実力が落ちていきます。それと同じでリスニングも毎日継続して練習しないと、一瞬で聞き取れなくなってしまう。身に付けるまでは大変ですが、失うのは本当に一瞬なのです。

そして反復ですね。「あなた専用のセリフ」を使ったスピーキングは即効性がありますが、覚えるのは意外と大変で、覚えても直ぐに忘れてしまいがちです。が故に何度も反復練習するのはです。ですが心配ありません。

「忘れてしまいがち」と書きましたが、忘れるからこそ、最終的に記憶に残っていくのです。つまり、「あなた専用のセリフ」を完全に自分のものにする過程では「忘れる」という行為さえも必要だということです。その反復を繰り返すことで記憶に定着していくのです。

いずれにしても、あなたの記憶にしっかりと焼き付けるには、原始的ではありますが、反復することが一番効果的というわけです。そして、

「改善」と「矯正」です。これも徹底すべきです。幸いスペイン語の発音は日本人にとってとても優しいものです。その気になって練習すれば直ぐにネイティブのような発音を手に入れることが出来ます。その分、「話し方」の改善、矯正に力を入れていきましょう。ネイティブの話し方と比べてみて、どこがおかしいのか、どうすればもっとネイティブっぽくなるのか。この最終ステージでは徹底的に改善、矯正をしてみましょう。「通じてるし、これでいいや」という妥協をはいけませんよ(^^)

軽視してはいけないメンタルの問題

さて、ここまではスペイン語習得の基本的な流れをお話ししてきました。実践的な解説は重要ですが、実はそれと同じくらいメンタル的な問題も非常に大切なので、先にお話ししましょう。メンタル的な話、いわゆる精神論やマインド編的な話になると「そんな話は要らないから、早く実践的なスペイン語習得のためになる話をして欲しいんだ!」と思われる方も多いと思いますが、ここでお話しする内容というのは、「積極的に動こう」や「ネガティブではなくポジティブに考えよう」というありきたりの精神論ではありません。日本人学習者にとって**永遠の課題**といえる話です。

日本人のスペイン語学習者の殆どがスペイン語を話すことが苦手です。恐らく9割位の方は「私は話せません」と答えるでしょう。但し、ここでは、スペイン語を話せない、ということが問題なのではありません。

真の問題は、本当はスペイン語を話すことが出来るのに、話せないと思い込んでいることです。そして「**話せない、と思い込むことで、自ら話せない自分を作り出してしまっている**」ということです。これがどれほど深刻な問題か、あなたは理解出来ますか？

これは日本人女性の美意識にも通じるところがあります。日本人女性はとても人気があり、綺麗で痩せていて小柄な人が多いですね。世界的に見ても太っている人は少ないはずですが多くの女性が太っていると錯覚し、ダイエットをしようとするのです。そしてその過酷なダイエットにより拒食症になり、或いはリバウンドで反対に太ってしまうわけです。

それに似たような感じで、多くの日本人学習者が「まだ全然話せないんです」「ちょっとだけ話せます」「スペイン語が聴き取れないんです」という答えを連発しています。もう今の時点で十分に話したり聴き取ったり出来る人までもが「いやあ、まだ話せないですよお」「全然聴き取れないんです」と発言してしまっているのです。修行不足と主張するわけです。

どんな時も謙虚な気持ちは大切です。少し話せるからって「僕はペラペラですよ」なんていう人は厭味に聞こえますよね(^^) スポーツでも、本当に上手い人は「俺上手いぜ」という雰囲気は出さないですし、自分でそういう風に言わないで黙っていますよね。これは本当に素晴らしいことです。が、スペイン語に限らず外国語全般について言わせてもらえば、少しでも話せたり聴き取れたりするのであれば、その時点で「スペイン語を話せます」「聴き取れます」と堂々と宣言してしまった方が良いです。

先程「話せない、と思い込むことで、自ら話せない自分を作り出してしまっている」と言いましたが、外国人と対等に付き合っていきたいのであれば、遠慮や謙遜は程々にした方が良いです。あなたは既に気付いていると思いますが、日本人以外の人たちは、本当に積極的で、悪い言い方をすれば厚かましい人が多いです。挨拶くらいしか出来なくても「日本語を話せます！」と胸を張って宣言するくらいです。が、世界ではそのような気質の方が普通で、日本人の謙虚さや慎ましさの方がおかしいのかも知れません。ネイティブの方からすれば **¿Habla español?**「スペイン語を話せますか？」と訊いて **No puedo hablar español.**「スペイン語を話せん。」と流暢なスペイン語で答える日本人が滑稽に見えるわけですね。日本語で言えば「日本語話せますか？」という質問に対し、流暢な日本語で「いいえ、話せん」と答えられて矛盾を感じるのと同じですね。

ですから、**¿Habla español?** と聞かれて **No puedo hablar español.** と答えられるスペイン語力があるならば、あなたは **Sí, yo hablo español.** と自信を持って言う資格があるということです。

スペイン語を話せるようになりたいと本気で思うなら、「まだ話せません」「少しだけ話せます」「まだ聴き取れません」という否定的な発言は今すぐにやめて下さい。こういったネガティブワードには恐ろしい程の影響力が秘められています。これらの言葉を発する度に、スペイン語に対するあなたの目標は着実に遠ざかっていくと思って下さい。

勿論、あなたの気持ちは良く分かります。私も日本人ですし、私自身も「まだ話せないんです」「全然聴き取れないんです」を連発していました。でも、そう言い続けている間は、全く話せるようになりませんでしたし、聴き取れるようにもなりませんでした。

しかし、大好きな海外旅行をする中で、日本人だと分かった途端に日本語で話し掛けてくる（お世辞にも流暢とは言えない...でもオドオドせずに堂々と）外国人を見ているうちに 180 度変わってしまいました。それまで「話せると宣言するのはいいけど、実際に話せなかったらどうしよう」とか「話せるって言ったくせに全然じゃないか」と思われたらどうしようと、ビクビクしていた私はいなくなりました。すると...本当に不思議なことに、堂々とスペイン語を話している自分がそこに居ました。「間違えたらどうしよう...」なんて余計なことを考えることもなくなりました。

本当かなあ？ と思う方は、騙されたと思って「私はスペイン語を話せます」「聴き取れます」と宣言してみてください。今は十分に話せたり聴き取れたり出来なくても、本当に話せたり聴き取れるようになりますから(^^)

外国人に対するメンタルブロックを払拭しよう

さて、ここから明るいお話をしていきたいところですが、追加でもう一つ、どうしてもお話しておかなければならないことがあります。それは、日本人がずっと持ち続けている、外国人に対するメンタルブロックについて、です。ここで言う「外国人」というのは、欧州のスペイン人と、国内の公用語がスペイン語になっている中南米カリブ海諸国の人のことです。

日本人にはスペイン語を話すのに十分な基礎知識があり、それでも話せない...という現実の陰には、外国人に抱き続けている想像を絶するような「劣等感」「憧れ」があります。確かに日本で人気のサッカーもスペインやアルゼンチンには敵わないですし、プロ野球だって多くの中南米出身の外国人助っ人の活躍で成り立っています。日本人男性には似合わない長髪も、彼らがやるとカッコイイです。スペインやペルー、メキシコなんかは海外旅行先としても人気ですよ。帰って来られるかも分からない北朝鮮に行きたいという人は、まずはいないでしょう。

スペイン語圏の人々への異常なまでの憧れや劣等感というのは、日本人のスペイン語学習者を見れば一目瞭然です。同じアジアの国々の人たちに対しては全く臆することなく接するのに、スペイン人や中南米の人が相手となると、途端に大人しくなるのです。遂に憧れの人と話せる、ということで「良く思われよう」と思ったり「嫌われないようにしよう」と考えたりしてしまうのです。外国人でも、アジア人に対しては全くそんな気持ちを抱かないのに、です。

で、私はそういった風潮を批判したいのでもなく、どうにかしようとしているのでもありません。何よりも私自身がそうでしたし、そんな風潮は別に今に始まったことではありません。これは日本人の国民性のようなものであり、仕方がない部分でもあるのです。

大事なことは、スペイン語圏の人々に対してそういった**憧れ**や**劣等感**を抱いている限り、あなたのスペイン語力が伸びていくことはないという事実を認識することです。あなたにも経験があると思いますが、人間は憧れている人や、自分よりも凄いと思っている人の前では、緊張したり萎縮したりしてしまうものです。普段の自分らしさが失われ、何も出来なくなってしまうのです。たとえ普段は完璧に出来ていることでさえも、です。

あなたにとってはとても辛いことで聞くに耐えないことかも知れません。ですが本当に重要なことなので、しっかりと読んで頂きたいと思います。まず、スペイン語を話し聴き取れるようになりたいと願うのであれば、**スペイン語圏の人々に抱いている憧れや劣等感を全て跳ね除けるようにして下さい。**

中には「いや、私はスペイン語圏の人たちに対しては特に劣等感なんてないですよ」という人もいるかも知れません。それはスペイン語を学習していく上では有利になります。ですが、そんな方でも一度は、同じアジア系の人たちと接する時とスペイン語圏の人たちと接する時で、どのような差があるか自問自答してみてください。もし、アジア系の人と話す方が自然体でいられる、変な意識がない、と感じるのであれば、明らかにスペイン語圏の人たちに対して何らかの**憧れ**や**劣等感**がある、ということです。

ですが、それは決して恥ずかしいことではありません。日本人であれば、むしろ当然のことなのです。なので、それを恥ずかしく感じたり思い悩んだり、自己嫌悪に陥ることはないのです。

それよりも、そのような感情を抱いているということを素直に認めることが大切です。「俺は外国人に媚びるつもりは一切ない」と言う人ほど、外国人を意識していることになります。たとえ憧れや劣等感を抱いていなくても、そのように意識しているという時点で特別な感情を抱いている、ということですね。そのような特別な感情があると、スペイン語圏の人の前に行くと普段通りでない、よそ行きの姿になってしまう恐れがあります。

そこで、外国人、特にスペイン語圏の人たちに対しては先入観を抱かず、中立的な気持ちを持つようにして下さい。憧れや劣等感も、または「誰が媚びるか！」という刺々しい気持ちも、特別な感情も持たないようにするのです。なぜなら、元を正せばスペイン語圏の人であろうとアメリカ人やイギリス人であっても、同じ人間であり、それはつまり、彼ら外国人と私たち日本人は、全て**対等、平等**なのです。

また、日本人の私たちがスペイン語を話せないからといって**卑下する必要はありません**。「日本人なのだからスペイン語話せなくて何が悪い！」

「ここは日本なのだから日本語話せよ！」くらいの気持ちで良いのです。勿論、あなたにとっては、たとえ日本の中とはいえ、彼らスペイン語圏の人たちとの会話は貴重なスペイン語のレッスンとなることは私も理解しています。なので、ドンドン話して下さい。要は「日本にいるのだから日本語で話そうぜ！」というくらいの気概を持つこと。それが**メンタルブロック**を外す鍵となるのです。

Amigos y Desconocidos

外国人に対するメンタルブロックは外さなければいけないというお話をしました。これは日本人にとっては長い年月に渡り染み付いてきたもので、すぐには克服出来ないかも知れません。ですがこのメンタルブロックを克服出来れば、ネイティブスピーカーを前にしても堂々とスペイン語を話せるようになりますので、是非頑張って頂きたいと思います。

さて、ここまで長い時間メンタル系のお話が続きましたので、これで最後にしたいと思いますが、この最後のお話も日本人特有のメンタリティの問題で、国民性とも言える問題です。そしてスペイン語を話す際には障害となって立ちのぼりますので、外国人に対するメンタルブロック同様に、これを機に綺麗さっぱり克服するようにして下さい。

それは、「知っている人」と「知らない人」への意識の違いです。ここでは Amigos y Desconocidos 「友達と見知らぬ人」と書きましたが、まさにそういう人たちへの態度の違いです。

日本人は対人関係に対しては異常なほど繊細です。例えば、私は欧州やアメリカ、中南米諸国や東アジア諸国を旅してきましたが、知らない人同士でも目が合えばニコッと笑ってオラ！と挨拶をします。これは文化の違いだから仕方ないのですが、もっと顕著な例をあげると、スーパーや電車、バス等で見知らぬ人同士がまるで以前からの知り合いのように話し出す...なんてことは海外ではよくある光景です。しかし日本で外出先で、隣にいるからといっていきなり話し始めるのでしょうか？あり得ないですね。

このように、日本人は「知っている人＝Amigos」と「知らない人＝Desconocidos」の間に計り知れないほどの隔たりを意識するのです。それほど対人関係に気を遣う国民性であるということです。

これは以前電車の中で体験したのですが、同じ車両の年配の方が体調を崩され倒れたことがあったのです。そこで近くにいた別の乗客の方が、非常ボタンの方にいる人たちに向かって「車掌さん呼んで下さい」と頼んだのですが、みんな不思議そうに見ているだけで、誰も何もしようとしませんでした。勿論、これまでに起こった大災害では知らない人に手を差し延べ助け合った、素晴らしいお話もあります。日本人にだって、情に厚く困っている人を助ける文化があるということも証明されています。でも、その時は誰も何もしようとしなかったのです。

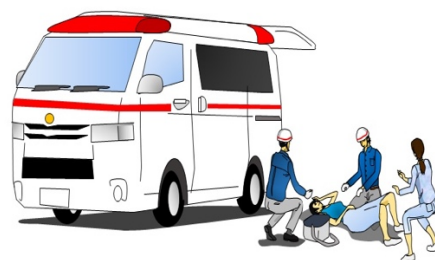
ここからは私の推測ですが、おそらく同じ車両に乗り合わせていた乗客、特に非常ボタンの近くにいた人たちの脳裏には、このような思いが駆け巡ったのではないのでしょうか。

「誰か倒れてる。助けなきゃ！でも自分が出しゃばっていいのかな？」

「自分がしゃしゃり出て、周りはどう思うかな？」

「知らない人にそんな差し出がましいことしていいのかな？」

「助けようとして拒否されてらカッコ悪いな」



その真相はわかりませんが、私が思うのは、日本人には「知り合いは OK」「知らない人なら NG」という明確な線引きがあるのではないのでしょうか。

そして、このようなメンタリティはスペイン語会話においても大きな影響を及ぼします。これはスペイン語を話せる、話せない以前の問題で、日本人は「知り合い」でないと会話が出来ない人が多いのです。「知り合い」なら話せるけど「知らない人」だと全く話せない。なぜなら「知らない人」に話し掛けるのは失礼だと教育されているからです。むしろ、いけないことだと思っているのです。

あなた自身のこれまでの人生を振り返ってみれば分かりやすいと思いますが、日本では知らない人に親しげに話し掛けると「馴れ馴れしい奴だ」

「何なのイキナリ？」と逆に警戒されてしまいますよね。ツアー旅行なんかでも、同じツアーに参加している人や別グループの人とはすぐに打ち解けて話すことは珍しいですよ。食事休憩の時間になっても最初はシーンとしていて、しばらくしてやっと話し始める、ということが多いです。

つまり、日本人が初対面の人と打ち解ける、つまり「知らない人」から「知り合い」になるまでには一定数の時間が必要ということです。ですが外国人の場合は日本人の人間関係のように、そのような明確な線引きはありません。某大使館で働いていたことがあります。ある日、採用面接に来た外国人 5 人程が待合室で待機していましたが、お互いに以前からの知り合いであるかのように話し始めていました。実は、日本人はスペイン語が話せないのではなく「知り合い」にならないと話せないだけなのです。

なぜ日本人は酔うと躊躇なくスペイン語を話し始めるのか？

日本人が本当はスペイン語を話すのに十分な力があるということは「社交の場」に行けばよく分かります。ここで言う「社交の場」というのは、成人の日本人とスペイン語圏の外国人の男女がお酒を呑みながらお話しする場、のことです。あなたにも経験があるのではないのでしょうか？お酒を飲んで少しほろ酔いになった途端、普段以上にスペイン語をベラベラと話し出す…と言う経験のことです。

これは、酔っ払ったせいでそのように感じているだけ、ということではなく、本当にスペイン語を話せるようになったり相手の言っていることが理解できるようになっているのです。既にご存知のように、お酒にはアルコールが含まれており、これを飲むことで血中のアルコール濃度が高まり、それによって「理性」で抑えられなくなるのです。だから酔うと気が大きくなり普段しないような言動をしたり行動をしたりするのですね。

これまでに話してきたように、日本人がスペイン語を話せない要因の一つが、メンタリティーの問題でしたね。既に話すための土台は十分にあるにも関わらず「話せません」「聴き取れません」と答えてしまうのは、心の中で「私はスペイン語を話せないんだ」「聴いてもわからない」というメンタルブロックによるものですね。また、外国人に「憧れ」や「劣等感」を抱いているとどうしても萎縮する、極度に緊張する...という原因も考えられます。しかし、そのような謙虚で慎み深い考え方や萎縮・緊張感は、アルコールが一瞬で消し去ってくれます。なぜなら、アルコールはそういった考えや感情をコントロールしている「理性」に大きな影響を与えるからです。

その「理性」に影響を与えることにより、日本人は急にベラベラ話し始めます。そういう「社交の場」に行くわけですから、日常会話を出来る位の力は持っているのです。なので「理性」というメンタルブロックが弱まるだけで話せるようになりますし、聞き取れるようになるというわけです。

このことから分かるのは、私たち日本人がスペイン語を話せない本当の原因は、私たちが心の奥に抱えている謙虚で控えめな気持ち、世界の常識からすると異常な対人関係的気遣いであったり、外国人に抱いている、どうすることもできない憧れや劣等感であったりする、ということです。

従って、スペイン語の学習云々の前に、こういった精神的な問題、メンタルブロックを克服する必要があります。ここではアルコールのお話をしましたが、ネイティブとの会話の場が毎回「大人の社交場」というわけにもいかないですね。そこで重要になってくるのがセルフ・イメージ、スペイン語でいう auto imagen（アウト・イマーヘン）の確立です。次項からはそのセルフ・イメージについて詳しく説明させていただきたいと思います。



健全なセルフ・イメージの確率

さて、ここからが本当に重要なお話です。セルフ・イメージと聞いてどんなことが思い浮かぶでしょうか？ セルフとは「自己」イメージは「印象」ということで「自分が自分にもつ印象」のことを言います。

例えば、あなたは自分のことをどんな人間だと思っているのでしょうか？ おとなしい人？ お喋りな人？ 気が弱い人？ 気の強い人？ 優しい人？ 冷たい人？ とまあ、色々なイメージを持たれていることだろうと思います。

一つ重要なことを言いますと、実は私たちの行動は、自分自身に対して勝手に抱いている「自己印象」に基づいて行われているのです。殆どの人は行動が先で、その行動を分析した上で「自己印象」が作られていると感じていますが、真実はその正反対なのです。逆のプロセスなのです。

全て「セルフ・イメージ」が先で、それに基づいてどういう行動をするかが決まるのです。例えば「お前は本当にカッコいいよね」と言われ続けると「自分はカッコいいんだ」というセルフ・イメージが植え付けられます。すると、その人は自身に満ちた表情、態度になったり、カッコいいということを自覚した行動を取るようになるのです。

逆に「お前は本当にダサいよね」と言われ続ければ...当然その人は「自分はダサいんだ」というセルフ・イメージが植え付けられますので、常に自信なさげでオドオドした態度を取るようになるのです。

こんな話をすると、多くの人が「そんな馬鹿な」と反論をします。先ほど書いたように、行動が先で、それを元にセルフ・イメージが出来上がると思い込んでいるのです。しかし真実はその逆で、自分はこういう人間だ...と思い込んでいる通りの行動をするようになるのです。まるで何かに取り憑かれたかのように...

自分が活発だと思える人は、実際に仕事でもプライベートでも積極的な行動を取ります。自分が引っ込み思案だと思える人は、本当に行動が消極的になります。優柔不断だというセルフ・イメージがある人はどっちつかずの行動を取るというわけです。

ここまでであなたは、一つ大事なことに気付かれたかも知れません。そうです。セルフ・イメージを活用することでスペイン語に対するメンタル的な問題点を克服出来るのではないか？ということです。

実際、私たち日本人が抱えている、スペイン語習得に悪影響を及ぼすメンタリティーの中には、世界基準からすれば異常な謙虚さ、対人的気遣い、そして外国人に対し超えることの出来ない憧れや劣等感というものがあるわけですが、「健全なセルフ・イメージ」を持つことで、しっかりと克服出来るようになります。



では「健全なセルフ・イメージ」とは一体どのようなものでしょうか？ まずは、あなたがこれまで歩んできた人生の中で感じた、自身に満ちた瞬間を思い出してみてください。

例えば、希望の高校や大学に合格した瞬間、企業の採用試験を突破し内定を勝ち取った瞬間、取り組んでいることに成功した瞬間等は、あなたが「健全なセルフ・イメージ」を抱く究極の記憶・体験となります。思いを寄せていた異性に告白して恋が成就した瞬間、プロポーズに応じてもらった瞬間、スポーツで好成績を残した瞬間、多くの人に賞賛された瞬間... 等々、どのような成功体験でも構いません。その時々記憶・瞬間を思い出し、当時のあなたはどのような気持ちになったのか、そこに集中してみると良いです。

おそらく多くの人が、そのような瞬間は自信に満ち溢れ、何をやっても上手くいく、という高揚感と充実感に包まれたことでしょう。そして堂々と胸を張って「よっしゃー！」と叫んだかも知れません。その時の気持ち、その時のイメージをよ～く思い出すのです。それが、あなたの「健全なセルフ・イメージ」となります。

そのようなセルフ・イメージを持つと、あなたは自信がつき、全てが上手くいくように感じます。なぜなら先ほども申し上げた通り、セルフ・イメージが先行して、それを元に行動や言動がなされますので、「健全なセルフ・イメージ」を持つことで必ず物事が上手くいくようになります。スペイン語を話す時も、ネイティブ相手に怯むことはありません。胸を張って笑顔で、ハキハキと受け答えが出来るようになります。

実は、このような「健全なセルフ・イメージ」を確立するだけで、多くの日本人がスペイン語力が向上することが分かっています。逆に自分に自信が持てずネガティブなセルフ・イメージを持ってしまうと、残念ながらスペイン語力はなかなか向上しません。現在、多くの駅前スクールやオンラインスクールでも、褒めて伸ばすことに注力し、メンタリティの改善に注力しているところが多いです。

そして、このメンタリティの問題を解決するだけで、多くの人が短期間でスペイン語力が伸びていくというのですから、驚きですね。これは、日本人にはスペイン語を話し聴き取る力は十分にある、ということの証でもあるのです。スペイン語習得に対して抱いている負のイメージを払拭し、自信と共に「健全なセルフ・イメージ」をしっかり確立すれば、本当にスペイン語を話せるようになるのです。

これを「たかが精神論」などといったことで軽視するのではなく、しっかりとあなた自身のセルフ・イメージを確立し、胸を張ってスペイン語を話せるようになっていただきたいと思います。



私の外国語遍歴

さて、いよいよここで、もともと語学の落ちこぼれであった私が普通にスペイン語を話せるようになった経緯や実際に行った学習法等を詳しくお話ししましょう、といきたいところなのですが、その前に、少しでも私の語学遍歴（特に大学生になってからスペイン語通訳者・翻訳者となった現在に至るまで）を知っておいて頂いた方が良いと思いますので、ちょっと恥ずかしいのですが、私のことについて書かせて頂きます。

私は昭和 53 年（1978 年）大阪府の狭山町（現在の大阪狭山市）で生まれました。父も母も平凡、むしろ貧乏人のセガレでした(^_^) 当時は今と違って生活が苦しい家庭は珍しく、それが本当にコンプレックスでした。そんな家庭でしたので、アメリカは勿論、諸外国との接点は全くありませんでした。

私の家庭は代々、阪神ファンで私もその影響で阪神ファンですが、物心がついたときからテレビでプロ野球中継を観ていました。どこのチームにも助っ人外国人がいて物凄く活躍していました（今もそうですが^_^）。

高校生の頃にサッカーの J リーグが誕生し、野球もサッカーも好きだったということもあったせいか、そこで活躍する外国人の姿を見て「日本人より外国人の方が凄いんだ」と思い込んでいました。実際、野球もサッカーも、外国人選手は日本人には出来そうもないプレーをしていたから余計にそのように感じたのかもしれませんが。

ボクシングも子供の頃から好きでしたが、世界タイトルマッチでは日本人は簡単に勝てませんでした。そんな彼等からは日本人にはない力強さを感じた気がします。私の外国人への憧れや尊敬、畏怖する気持ちには、このような影響があったのかもしれませんが。

勿論、当時はインタビューなんかを聞いていても彼等が話す言語には全く興味は湧きませんでしたし、「何て言ってるんだろう？」とさえ思っていました。この思春期の時期には、通訳になりたい、外国人と仕事がしたい、なんていう願望はまだ持ってなかったのです。

ただ、Jリーグができてサッカーのワールドカップをテレビで観るようになってからは、ブラジルやアルゼンチンのスター選手のレプリカを買って着ていました。元々は南米のサッカーが好きだったというのもあり、南米の国々への憧れは当時からあったのでしょう。また、世界中で人気の日本アニメ、キャプテン翼の影響もあり、裕福な国より貧しい国を応援する、または強い方より弱い方を応援する、そんな気質があったのかも知れません。



中学高校時代の英語成績

中学生になって勉強でワクワクしたのが英語でした。なぜなら、他の教科は小学校でも習っていましたが、当時は英語といえば中学で初めて習うものだったからです。この教本の読者である方の大半がおそらくそうだったのではないのでしょうか？ 日本語とはまた違う言語ということで、とても楽しみだったのを覚えています。

おそらく私は、外国語は嫌いではなかったのでしょう。むしろ大好きだったと思います。小学生の頃から体育以外の成績はあまり冴えなかったのですが、英語は普通より少し上、位の成績でした。

そして高校に入学してからは、英語の成績がさらに伸びました。それは、大学受験が大きかったのだろーうと思います。当時の私は、大学に行くには猛勉強しないと入れないと思っていたのです（当たり前ですが^_^）。で、元々が数学や科学といった理数系が大嫌いだったので、英語はよく勉強しました。

転機となったのは、3年生になって東進ハイスクールの衛生授業を受けるようになってからでした。当時から有名講師陣が売りの予備校でしたが、大阪生まれの大阪育ちの私には、今では超有名な英語講師の方の標準語が嫌でまともに授業を聞いていませんでしたが、気がつけばその講師の大ファンになっていたのも、本当に不思議なものです。その講師への憧れもあり、英語は本当によく勉強しましたし、何よりも好きだったので苦にもなりませんでした。

地獄だった英語講師時代

さて、東進ハイスクールの英語講師の方への憧れもあり将来は教師になりたいと漠然と考えていた私は、高校を卒業してすぐに、その地域ではそこそこ有名だった塾で英語講師としてアルバイトを始めました。そして、これが地獄の始まりだったのです。

私は中学高校時代は英語が好きで本当によく勉強しましたが、特に高校時代は成績も良く最高の気分でした。でもそれは、「話せるための英語」ではなく「受験のための英語」だったのです。そんなことはツユとも知らず期待を胸に始めた英語講師のアルバイトは、最初から滅茶苦茶でした。

まず何よりも発音が酷いのなんのって、今思えばゾーッとするような話です。当時の私の英語音声録画でもされていたら、もう本当に穴があれば入りたくらいです(^^) また運が悪いことに、私と同じ大学1回生で美人の英語講師がいたのですが、その方の発音が凄いのなんのって…で、同じ年代で同じ英語講師なので、生徒からすれば必然的に私と美人講師が比較対象になるわけです。このあとは、もうどんな感じが想像出来ますよね(^^)

思春期の生徒ですから、その美人講師のことは当然、憧れの眼差しで見るわけです。英語ペラペラで発音もネイティブ並なので至極当然の話です。で、私に対してはというと、いかにも日本人的なカタカナ発音の英語で、出川哲朗さんの英語と言えれば分かりやすいでしょうか。そんなダサい講師を多感な中学生が尊敬するはずがありません。

私が英語で読むたびに下を向いて笑う生徒たち...当時はなんて生意気なんだと思いましたが、今思えば中学生の行動は正しいのです。だって、英語講師なのに話している英語は出川哲朗さんの英語と変わらないのですから（出川さん、申し訳ありません...）。ひょっとすれば、当時の私の英語の発音であれば、塾に来ていた中学生の方がうまかった可能性はかなり高いです。スペイン語は英語に比べると、日本人には発音しやすい言語ですが、それでも私が自分のスペイン語とネイティブのスペイン語を徹底的に比較して近づけようとするのも、この英語講師時代の恥ずかしい経験があるからかも知れません。

話は逸れましたが、こうなると誰も私を講師だとは思わないのです。会社でいえば、馬鹿にされている社員と同じです。そうなると私のいうことなんて誰も聞きません。それも当然の話です。結局、私はいつの間にか教師になりたいという夢はもう持たなくなっていました。本当に駄目ですね。

このことから分かるのは、受験英語のような机に向かう勉強をいくらやっても駄目だ、ということです。



ポルトガル語での挫折

教師になることが夢ではなくなっていた私ですが、就職活動が始まるまでは英語講師のアルバイトを続けました。最低最悪な恥ずかしい経験をしましたが、教師のような仕事は好きだったのです。

大学を卒業して就職してからは、海外とは全く縁のない日々を過ごしていました。この時はまだスペイン語なんて学習しようと思っていなかったのです。そして10年程サラリーマンをしていて「自分は世の中の役に立っているのかな...」と考えるようになりました。一つくらい取り柄があったほうが良いと思っていましたし、元々は**言葉の勉強が好き**でブラジルのサッカーも好きだということもありましたので、**独学**でポルトガルの勉強を始めたのです。

某サッカー日本代表選手もそこで英語やイタリア語、ポルトガル語を身に付けたというのもあって、同じ語学スクール？の教材を購入しました。周りには「普通やるなら英語でしょ？」「ポルトガル語なんて勉強して何になるの？」「馬鹿じゃないの」と呆れられたものです(^_^) でも、新鮮さもあり勉強していてとても楽しかったです。

で、どんな勉強をしていたのかというと、この頃はまだ、正しい語学学習の手順を知らなかったんで、他にもれず私も文法と単語の暗記を中心に勉強していました。ブログやメルマガでは「単語帳なんか買ってもお金の無駄です」といっている私も、10年程前は他の学習者と同じことをしていたのですよ(^_^) 会社での休憩時間も単語帳を読んで勉強していましたね。

1年くらい文法や単語の暗記を続けて、そこからオンラインでのポルトガル語教室に参加し始めました。運が良ければ講師とマンツーマン、通常は四人一組でした。やはり最初は新鮮味があって楽しかったですね。

少し話は脱線しますが、ここで私は日本人ではあり得ないようなことを経験しました。それは、外国人学習者の厚かましいまでの積極性です。日本人なら、四人一組であれば、他の学習者への気遣いもあり、自分ばかり話してはいけない、ということで他の学習者と譲り合うのが普通だと思いますが、外国人学習者はそんなことお構いなしです。私の順番が回ってきたという瞬間でさえまだ話し続ける彼等に頭にきて、何度か語学スクールにもクレームの電話をしたことがあります。世界の常識で考えると、譲り合っていた私の方が間違っていたのです。

で、話を元に戻しますと、そうやって続けていたポルトガル語ですが、最初は楽しかったものの、だんだん不安になってきました。なぜなら、「やってる感」があるだけで、上手くなっている感覚が全然なかったのです。

そしてある時、絶望の淵に落とされるような出来事があったのです。ある日、Jリーグの中継で試合後のブラジル人監督へのインタビューがあり、「よし、聴き取ってやるぞ!」と意気込んだ私でしたが、な、なんと、殆ど何も聴き取れなかったのです。2年間も掛けて勉強したのに、その結果がこれなのかと...ほぼ独学でしたので、百万円単位でお金を費やしていたわけではありませんが、それでも決して安くはない教材代やオンラインスクール代はありましたので、本当にショックでした。でも、当たり前の結果だったのです。この時は、今私がブログやメルマガで提唱しているような学習法ではなく、**文法と単語の暗記中心の学習**だったからです。

英語での挫折

実はポルトガル語の勉強をしている間に、英語も話せた方がカッコいい、ということで同じスクールから今度は英語の教材を購入して、英語の勉強も始めたのです。私も本当に懲りない男ですね(^^)

でも、結果はポルトガル語と同じだったのです。話せるようにも聴き取れるようにもなりませんでした。それはそうですよね。だって、相変わらず文法の勉強や単語の暗記中心の原始的な勉強をしていたのですから。オンラインの英会話教室だと、受講していると何回も同じグループになる受講生がいるのですが、私よりも英語が上手くて凄く不愉快でした（何て自分勝手な奴なのでしょう 笑）

英語の場合は、ロサンゼルスにボクシングの試合を観に行った時に心が折れてしまいました。飛行機では、CAさんに欲しいジュースを伝えても全く通じない...オレンジジュースやアップルジュースさえも通じませんでした。サンディエゴからメキシコのティファナへの国境越えのツアーに参加した後、ロス市内に戻って食事をした後でタクシーでホテルへ戻ったのですが、とにかく運転手さんの英語が分からない。

私に「英語上手だね」と褒めてくれていましたが、それなりに労力を掛けて勉強していたので、全然上達していない現実にとってもショックを受けたのを覚えています。運転手さんの誉め言葉がとても虚しく響きましたね。英語もポルトガル語も、好きという以外なんの取り柄もなかったのです。あれでよく「Jリーグの通訳になりたい」なんて思っていたものですね。

革新的な英語勉強法との出会い

英語もポルトガル語も相変わらず成果が出なかったわけですが、それでも語学に対する夢を諦めることが出来ず、**根拠のない勉強法**で続けていました。先ほども書きましたが、やはり元々は言葉の勉強が好きだったのでしょう。あと、これは少し、というかりアルな話ですが、会社員としてはこれといった取り柄もなく、存在価値を見出せなかった私は（恐らく、上層部からはそのように思われていたでしょう）、せめて語学だけはトコトンやり切りたい、という思いはずっとあったのです。

そして続けながらも成果が出ずに苦しんでいた私ですが、ネットで英語の学習について検索していて、偶然、とある英語通訳者のメルマガに辿り着いたのです。これが私の運命を 180 度変えてくれたといっても過言ではありません。

この恩人とも呼べる方のメルマガを読んだり音声での説明を聞いていると、それはまさに神様からの贈り物のような感じでした。私たち英語学習者の悩みをピンポイントで指摘し、その悩みに対する理由、そして解決法をととても分かりやすく説明してくれました。多くの語学学習者がネットで高額の情報商材や講座を買わされては大した効果も得られずに苦しんでいる人が多い中、この英語通訳・翻訳者の方に行き着いて本当に運が良かったと思います。勿論わずか数日で話せるようになる、というわけはありませんでしたが「寝ている間に話せるように...」「聞き流すだけで自然に...」という胡散臭い教材とは違い、すぐに英会話での効果を感じることが出来ました。今までやめずに続けてきて良かったと思えたのです。

スペイン語との出会いから現在まで

私の場合は1年位は掛かりましたが、日常英会話や海外旅行での会話なら困らなくはなりました。大恩ある英語通訳者の先生に出会わなければ、未だに根拠のない勉強法に明け暮れていたか、諦めて今も会社員として働いていたかも知れません。

さて、そうやって気持ちよく勉強を続けていたのですが、偶然にも、スペイン語の通訳者の方のメルマガに辿り着いたのです。ポルトガル語のことは考えなくもなっていましたが、ポルトガル語が**独学**だったのに対し、スペイン語ならこの**通訳者の方に教えて貰える**、ポルトガル語とスペイン語は似ている、というのもあったので、スペイン語の勉強を始めることにしたのです。日常会話なら英語でもさほど困らなくなっていた、ということも大きかったでしょうか。

それまでは漠然と「通訳になれたらいいな」「語学で生計を立てられるようになればいいな」と思っていたのですが、スペイン語を勉強するようになってからは、より身近な目標として通訳や翻訳を意識するようになりました。

何よりも、このスペイン語の先生というのが、過去に政府の通訳を担当されたり、某スペイン語圏の国の外務省から信頼されている方で、その恩恵に授かり、どんなに語学力があっても一般の通訳者では滅多に就けない仕事を経験することも出来ました。

通常、どの言語でも通訳や翻訳は過去の実績がないと、新米の通訳翻訳者にはそう簡単に仕事はこないのです。ここでは詳しくは述べませんが、通訳翻訳会社にすれば、大事なお客様を失う危険性のある、実績のない通訳翻訳者を派遣するより、いつも依頼している信頼できる方に依頼するのは当然のことです。新米の通訳者翻訳者を育てている余裕はないのです。

通訳翻訳業界は実力よりも実績が物をいう世界なので、スペイン語の先生の前で学び、仕事まで経験出来たことは本当に恵まれていました。こうして頂いた実績のお陰で、別の仕事にも繋がっていきました。

実際、単にスペイン語を勉強してスペイン語が上手くなるだけでは、通訳や翻訳の仕事に辿り着くことはありません。自分から通訳翻訳会社に登録し、またはトライアル、分かりやすく言えば採用試験を受けたりしながらフリーランスの通訳翻訳者として採用してもらう必要があります。

そして、運よく仕事の問い合わせがあった時に、その依頼に答えることで次の案件へと繋がっていきます。ただ、いざ仕事の問い合わせが来ると、恐怖を感じたものです。「失敗してクレームが来たらどうしよう...」

でも、その時もスペイン語の恩師が背中を押してくれたお陰で、勇気を持って通訳翻訳の世界に飛び込んで行くことができ、今もスペイン語の通訳翻訳者として生きていくことが出来ています。

勿論、最初から上手く仕事として出来たわけではありません。数多く失敗し、穴があれば入りたいような恥ずかしい失敗もありました。ですが、失敗がありながらも常にその恩師に寄り添ってもらい指導して頂きながら、経験の積み重ねのおかげで今に辿り着いていると断言出来ます。

ここは大事なので強調しておきますが、最初から何の失敗もせずに順風満帆に行く人なんていないのです。今は涼しい顔をして話している人だっ
て、最初は通じなかったり聞き取れず恥をかいたりしているのです。失敗や恥は、いわば勲章なのです。なのでこれからスペイン語を学習しようというあなたも、どうか失敗を恐れず、恥をかきまくって下さい(^^) むしろ、そういう経験なくして語学力向上はない、と自信を持って言えます。



副業ではなく、本業で通訳をすると決意した夜

私は今ではスペイン語の通訳・翻訳者として、またブログやメルマガを通じてスペイン語を教える、という仕事をしていますが、先ほども書いたように決して順風満帆だったわけではありません。そして、それまでは副業として通訳や翻訳をしていた私を、副業ではなく本業でやっていくと決意するに至る出来事がありました。

と、ある大規模なイベントの通訳の仕事をする事になったのですが、大きなイベントは初めてだったので、不安とともに楽しみでもありました。絶対に成功させたかったので、事前にインタビュー内容やそれに対する答えを想定し、またそのイベントについても下調べをしたりと、努力は惜しみませんでした。通訳者ならこれくらいは当たり前のことですが(^^)

ですが、結果は見事に撃沈でした...まず何よりも、インタビューでの通訳では、あまりにも大勢のメディアや観客がいて、まるで全視線が自分に注がれているようで凄くプレッシャーを感じたのを昨日のことのよう覚えています。そして、メモを取ろうとしたのですが、これが、手が震えて書くことが出来ない...あんな経験は初めてでした。そうなるともうダメです。**精神的に余裕がなくなっている**ので、普段なら苦もなく聞き取れるようなことでさえ聞き取れないのです。

また、クライアントが言ったスペイン語を通訳するのですが、**焦って余裕がなくなっている**ので、もう本当にしどろもどろで...

通訳というのは、本来はクライアントの陰であり、決して目立ってはいけないのですが、私はものの見事に目立ってしまったのです。こうして私のビッグイベントのデビュー戦は、あえなく完敗して散ってしまいました。

イベントを終えて家に帰った後、お腹が空いているはずなのに、何も喉を通りませんでした。「無気力になるとは、こういうことを言うのか」と思いました。ですが、それでも通訳としてやっていきたくったので、泣いてばかりもいられません。その「デビュー戦」の録画で自分の通訳の場面をしっかりと確認し、2度とこのようなことにならないように、その無様な姿をしっかりと心に焼き付け、心の中で誓いを立てたのです。

「これからどうすべきなのか？」を考えました。そして「現場での経験がもっと必要だ」という結論に至りました。私は副業としてやっていましたが、まだまだヒヨコの私が既にバリバリに活躍している人たちの中に割って入っていくためには、「さらなる経験」が必要であったことは言うまでもありません。そして半年後、それまで20年間お世話になった会社を退職し、東京にやって来ました。決して人には言いたくない、見せたくない経験でしたが、その経験が私の原動力になっているというわけです。



スペイン語を勉強する目的

さて、ここまで私の半世紀のようなものを長々と書き連ねましたが（退屈だったらゴメンなさい。ただ、私のスペイン語習得法を理解して頂くためには、私のエピソードも知っておいて頂いた方が良いと思いましたので、敢えて書かせていただきました）、いよいよここからがスペイン語学習の具体的なお話になってきます。

まず、第二言語といえば英語、それに続く言語が中国語というこの日本で、わざわざスペイン語を学ぶのはなぜでしょうか？ 英語のように受験はありませんので、恐らく以下のような理由が考えられます。

1. **DELE** やスペイン語技能検定の試験対策
2. 日常会話やスペイン語圏の国への旅行といった口語のスペイン語を身につけること
3. スペイン語を活かした仕事がしたい（ビジネス向けのスペイン語）

だいたいこの三つです。どういう目的であっても、学習の進め方は大差はありません。スペイン語検定は受けたことがなく、今後も受験する予定はないので分かりませんが、**普段からの学習がそのまま DELE 対策になる**、と考えて良いでしょう。但し、試験なので、出題傾向等を**事前に把握**していないと合格は難しいでしょう。また、カテゴリーごとに頻出の語句も変わってきますので、DELE 対策用の語彙力を強化する必要があります。私なら、対策本で出てきた語句を中心に暗記します。いずれにしても合格を目指すなら、対策本を購入し徹底的に対策をすることをお勧めします。

尚、この試験のためのスペイン語とそれ以外のスペイン語、つまり日常会話やビジネス向けのスペイン語は、似て非なる部分もあります。DELE の試験には四大スキルであるスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングがあり、日常会話やビジネス向けでも共通して必要なスキルです。ただ、DELE で要求されるスキルというのは、純粋なスペイン語力という観点で比べると、もう少し打算的なものです。つまり、点数を取るためのスキルということですね。

以下に、二つの「スペイン語力」についてまとめてみました。恐らく殆どの方はどちらも必要、と答えるでしょう。ただ、特に DELE の合格を目指している方は、この違いを知っておいて下さい。

試験のためのスペイン語力（特に DELE）
■合格するための、出題傾向、パターンの徹底解析と勉強・対策 ■日常会話で頻出の語句というよりは、DELE に出る頻出の語句を覚える必要がある ■受験上のテクニク的な部分（試験の進め方・解き方）が必要

会話のためのスペイン語力（日常・ビジネス会話が目標）
■最初のうちは難しい文法・語彙にはこだわらない ■ディアロマスター式に基づく習得が最適（スピーキング） ■短期集中、高負荷のリスニング・トレーニング（試験向けも共通） ■口語で頻出の慣用表現を覚える（話し言葉のボキャブラリーを構築） ■インプット→アウトプットを繰り返し、ネイティブとの実践経験を増やす＝机に向かってではなく、実戦で鍛える

試験のためのスペイン語力を身につけるには (DELE に合格するには)

ではここからは、試験のためのスペイン語と会話のためのスペイン語についてお話ししていきたいと思います。先ほど「似て非なるもの」と書きましたが、基本的には大差はありません。DELE の試験自体が、四大スキルであるスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングがありますので、普段からのスペイン語学習がそのまま DELE 対策にもなり得ると言えるでしょう。

ただ、四大スキルとあるように、スピーキングだけが得意とか、スピーキングのトレーニングばかりしている、というような偏った学習ではやはり伸びていかないのです。この四つのスキルをバランス良く学習して伸ばす必要があります。

一方、「似て非なるもの」もあります。それは、やはり試験なので、あなたが受験するカテゴリーの出題傾向をしっかりと把握し、しっかりと対策をする必要があります。各設問でどのように読み進めていけば良いのか、どのように解いていけば良いのか、リスニングの出題パターンはどのようなか？ 時間配分はどうすれば良いのか？ ライティングではどのようなテーマが出されるのか？ 口頭試験での話題の傾向は？ これらのことを**事前に**しっかりと対策していないと、かなりの確率で不合格になります。また、各受験カテゴリーで頻出の単語もありますので、それらを暗記することも重要です。暗記と書きましたが、DELE が終われば（合格すれば）忘れても構いません。ただ、**事前に対策**すれば、その分合格率も高まるのです。

会話のためのスペイン語力（日常・ビジネス会話）を身につけるには

では「会話のためのスペイン語力」を身に付けるにはどうすれば良いのでしょうか？ 私の場合は、いきなり海外ドラマや YouTube の動画を観たり、ということではなく、まず必要最低限の文法の学習から始めました。殆どの方は大人になって初めてスペイン語に触れる、という方だと思いますので、まずは文法の学習をしながら、簡単なリーディング等から並行して行うと良いでしょう。

文法の学習ですが、大型書店であればスペイン語も販売していますので、どれでも良いので一冊購入し、一ヶ月程度でやってしまいましょう。それ以上は掛け過ぎです。ゆっくり自分のペースで良いのであれば構いませんが、早く習得したいという方は、まずは一ヶ月を目安にしましょう。そこからは、進めながら何度も復習すれば良いのです。ここで大事なのは、必要最低限の文法、ということです。文法を詳しく知ることは良いことですが、初めにそれを追求すると、実戦で生のスペイン語に触れるまでに時間が掛かり過ぎてしまいますから、まずは必要最低限の文法知識に留めておきましょう。

では、ここからは基本的な語彙や文法については身につけている、という前提でお話させていただきます。会話向けのスペイン語力の習得が目的であっても、Yo /Usted /Él /Ella や Ser 動詞、Estar 動詞くらいは知らないと話になりません(^^) 次のページより私が実践してきたノウハウを詳しくご紹介しますので、しっかりと読み、しっかりと理解した上であなたにも実践していただきたいと思います。

どのレベルか？によってやるべきことが変わる

さて、いよいよスペイン語会話力を身につけるといふ、より実践的な話に入っていきますが、まず最初にお伝えしておきたいのは「**どのレベルにいるか？によってやるべきことが変わる**」ということです。つまり、今のスペイン語会話力がどのくらいか？ で実践すべき内容が違ふということですね。

簡単に説明しましょう。基礎的な語句や文法を一通り習得した人は、この段階では初級となります。まずは細かい知識等に拘らず、スペイン語の文を読む、話す（口に出す）、音声を聴く、書く、という「実践の海」に飛び込んでいきましょう。「スペイン語に触れる」これが大事ということですね。

では中級になってからは何をすべきでしょうか？ その前に「どこからが中級なのですか？」と良く聞かれるのですが、その目安として「あれ、何だか聞き取れるようになってる」「言いたいことが言えるようになってる」と少しでも感じるようになれば中級と言って良いでしょう。そして、それを決めるのはあなた自身です。あなたが「もう中級だ」といえば中級ですし、「いやあ、自分にはまだ...」と思っている限り初級なのです。で、その中級になったら、今度はネイティブとの会話を実践していきます。これは、スペイン語圏の人たちが参加する何かの交流パーティー等のイベントでも良いですし、お住いの関係でそういうイベントへの参加が難しい、というのであればオンラインレッスンでも構いません。大事なものは、初級で実践してきた学習を続けつつ、ネイティブとの会話の機会を増やしていく、ということですね。

ここで誤解のないようにお話ししておきたいのですが、よく語学商材の販売者で「駅前留学やオンラインの会話スクールはお金の無駄だ」と言っている人がいますが、駅前留学やオンライン会話スクールが何の役にも立たない、ということはないのです。大事なのは「どの段階（レベル）で活用するか」ということなのです。

新しい言語の学習を始める人で、いきなり駅前のスクールに通ったりオンラインの会話スクールを利用したりする人がいますが、その初心者の段階では「まだ利用すべきではない」ということですね。なぜなら、会話スクールというのは、ある程度話せる人が実力を試したり、さらに伸ばしたりするために活用すべきもの、であるからです。

会話スクールのネイティブの先生はあくまで「話し相手」であって、初心者にはフレーズは教えてくれても聞き取り方や話せるようになる方法は教えたりはしないのです。それも当然ですよ。彼らはなぜ日本人が聴き取れないのか？ なぜ話せないのか？ どこで躓いて悩んでいるのか？ が分からないのですから。だから、ネイティブの先生や会話スクールに非があるわけではないのです。

話が少し逸れましたが、中級から上級レベルになるにつれて今度はより詳しい語句や文法、発音といった部分も徹底的にこだわるようにすると良いです。この原則は非常に重要で、多くの日本人学習者がこのような「力加減」をせずに、最初から全力投球でやってしまいます。なので初心者が最初からネイティブでも知らないような語句を覚えようとしたり重箱の隅をつつくかのように文法を勉強しようとしてしまいます。その結果、途中でつまらなくなり、やめてしまったり諦めてしまったりします。

■ スペイン語の会話レベルによって注力すべき点が違う

初級	中級	上級
		
基本的な語句・文法 すぐに実践に飛び込み スペイン語に触れる 細かいことは気にしない	ネイティブとの会話に よって会話力を鍛える	語句、文法や発音 をより詳しく知り 改善していく 細かいことに拘る

大事なことは、各段階ごとに注力すべき部分が異なってくるということをしっかりと理解し、初級での実践内容を継続しつつ、より実践的な会話、そしてさらに詳しい語句や文法の習得、発音の改善に入っていく、という一連の流れを理解し、実践していただきたいと思います。

尚、スペイン語の場合は日本人にとっては発音しやすい言語であり、殆ど
の場合は初級からの段階でのアウトプット系トレーニングにより改善する
ことが出来ます。また文法も、英語のような大学受験向けの超難解な文法
はありませんので、そこまで恐れなくても大丈夫です。最初の段階で一通
り学んだら、初級からの実践を通じて身につけることが出来ます。

最後に、ビジネス会話、なんて一見ハードルが高そうに感じますが、恐る
ることはありません。どの分野のビジネスかを把握し、その分野で頻出の
語句や専門用語を抑え、ビジネスでよく使われるフレーズ（セリフ）を押
さえれば大丈夫です。後はビジネスやフォーマルな場では使わない方が良
い語句や、親しい友人同士・家族間でしか使わない言葉を理解し使い分け
ることが出来れば、それほど恐れることはないのです。

スペイン語会話の秘訣とは？ まず…

スペイン語会話力を身につける方法というのは、何だか途方もないことのように想像してしまうかもしれませんが、その実態はとてもシンプルです。幼児が大人の真似をして言葉を覚えていくプロセスでスペイン語も覚えるのがベスト、ということです。これは教える側が日本人でも外国人でも、日本人に外国語を教える人は誰でも同じことを言い、日本人学習者も漠然と理解しています。

ではなぜ、何度も言われこのプロセスを理解しているはずの日本人学習者が、難しい単語を血眼になって覚えたり、重箱の隅をつつくように文法を掘り下げ詰め込もうと躍起になるのでしょうか？ 説明した時は理解した気になっても、気が付くとまた文法書や単語帳を熟読している。一体どう言うことなのでしょう？

それは大人であるが故の弊害とも言えますね。大人であるが故に、物事を素直に受け入れることが出来ないのです。先入観も懐疑心もない子供は何も考えずに物事（スペイン語の表現や発音）を疑いもせず素直に受け入れることが出来ます。「元気？」と言う表現であれば、そのまま丸ごと覚えてしまうのです。これが大人になると、そうはいきません。いくら「そのまま覚えましょう」と言っても「え？何でこの単語の組み合わせで“元気”という意味になるんだ？」と勝手に分析してしまい、素直に受け入れることが出来ません。必ず独自の解釈を間に挟んでしまうのですね。発音にも言えます。聞こえたままに受け入れる子供と違い、大人は聞こえたまま発音することをせず、聞こえた発音と全然違う発音で言うてしまうのです。本当に難儀なものです(^^)

例えば、先ほどの「元気？」＝¿Cómo estás? という定番の挨拶表現（ディアロ＝セリフ）があります。そうです。単なる挨拶のフレーズです。で、子供はこの ¿Cómo estás?（コモ エスタス？）＝「元気？」とそのまま理解します。そこに独自の解釈は存在せず、それ以上でも以下でもないのです。

しかし、これが日本人の大人の場合だと残念ながらそうはいかないのです。必ず間に独自の解釈が入ります。「Cómo で始まる疑問文だな。Cómo は“どのように”という意味だったな。うん？なぜ“どのように”という意味にならないんだ？えーっと…」という感じで、文法的な解釈を始めてしまうのです。

実は、これがスペイン語学習において負のスパイラルにはまっていく第一歩なのです。¿Cómo estás? という挨拶の定番表現（これをディアロと呼んでいます）は、それ以上細かく分解しない方が良いでしょう。これはもう「コモ エスタス？」＝「元気？」という意味であると、丸ごと覚えてしまう。それ以外のことは考えない方が良いでしょう。

上記の¿Cómo estás?「元気？」、はあくまで一例ですが、他にも例えば、「Cosechas lo que siembras.＝自業自得だね。」という定番のフレーズがあります。

そして先ほども言ったように、こういう定番の表現というのは、余計なこととは考えず、そのまま覚える（インプットする）方が楽ですし、効率的で効果的なのです。にも関わらず、日本人学習者はわざわざ辞書で一語一語それぞれの独立した意味を調べ出してしまうのです。

「cosechas の原型は cosechar で“収穫する”という意味か。lo que は“こと・もの”、siembras の原型は sembrar で“種を蒔く”という意味。だから、全体の意味は“種を蒔いた物を収穫する”じゃないかな...」

と、こんな余分な作業が入ってしまうということです。ですが、Cosechas lo que siembras. は“自業自得”という定番の表現であり、それ以外の何物でもないの、そのまま **Cosechas lo que siembras.= 自業自得**、と覚えた方が遥かに効率的で効果的なのです。

どうしても気になって仕方がないのなら、ある程度スペイン語が話せるようになった後で思う存分調べて下さい。とにかく最初の段階では、聞こえるままに、これはそういうものなんだ、と受け止めること、深追いしないことがスペイン語上達の秘訣だと理解して下さい。実際ネイティブに「何でここがこうなるの？」と聞いても「そんなもんだから...」と答えられる場合が殆どでしょう。ここは実に重要なポイントなのです。

【超重要】

どうすればスペイン語を話せるようになるのか？

では、ここで私の話に戻ります。私の半生記のようなことを書いたりしましたが、当然、私も大学ではフランス語専攻（授業は全然ついていけず、テストは友人の答えをカンニング）でしたので、社会人になってから初めてスペイン語に触れたクチです。尚、カンニングなんて書いてしまいましたが、学生の方は絶対に真似をしないで下さい。1 回生の時、前期のテストで試験中にカンニングがばれて、前期に取得できる単位を全部取り消された友人がいました。

話が脱線しましたが、社会人になって初めてスペイン語を学ぶということで、まずは文法から入りました。文法は、スペイン語の通訳の方に教えてもらったのですが、これが本当に分かり易かったです。その先生のスクール生だったので先生の講義を受けることが出来たのですが、運が良かったと思います。どの参考書よりも理解しやすかったので(^^)

そこで必要最小限の文法と語句を学んでからは、**スペイン語の海**に飛び込んでしまおうと思ったのです。これは英語での経験が生きました。そこでスペイン語の記事を読んだりドラマを観たりしてインプット → アウトプット の実践を重ね「そろそろネイティブと話してみようかな」ということで**実践の海**へ飛び出して行っただけです。実際、その決断は間違っておらず、正しい判断だったのです。

というわけで会話の機会を作ろうとしたのですが、オンライン会話では時間が限られていて物足りなく感じていました。

当時は関西に住んでいて、とある団体が主催する国際交流パーティーによく参加していました。運のいい時はスペイン語圏出身のネイティブもいましたね。ただ、そのパーティーは外国人男性による日本人女性へのナンパの趣向が強かったので（日本人女性は軽く釣れると思っている外国人は多いです）、あまり参加しなくなりました。

ただ、イギリス系のバーにはよく外国人が集まっていたので、そこには通っていました。日本では、スペイン語圏の人にスペイン語で話し掛けると結構喜んでもらえるのですよ(^^) そして、またもや運の良いことに京都のアイリッシュパブでアルバイトをしているスペイン語圏出身の店員を見つけることが出来ました。毎週金曜日にシフトに入っていたので、金曜日の夜はほぼ毎週そのお店に通っていました。

後は、大阪で毎月一回、第一土曜日にコロンビア人が経営している店で、日本人とネイティブのスペイン語交流会があったので、毎月参加していました。ここで分かったのは、スペイン語圏出身の人が経営するお店には、割とスペイン語を話すネイティブが集まって来る、ということでした。まあ、お店にもよるのでしょうか(^^)

これらは大人の社交場という感じで本当によかったです。また、いろいろなタイプの人がいるので、スペイン語の訓練にはうってつけでした。聴き取りやすい綺麗な声の人もいれば、癖があって聴き取りにくい人、すごく早口な人、と本当に色々な人がいました。これは、綺麗な声でだけ吹き込まれているリスニング教材では絶対に叶わないトレーニングでしたね。私が市販で売られているリスニング教材にあまり積極的でない理由は、こういう所にあったのです。これは、どの言語にも言えることです。

他のことにはあまり頑張れない癖に、特に外国語となると異常な意欲と集中力を発揮出来ましたが、なぜそんなに頑張れるのか？ というと、せめて外国語くらいは人並み以上に出来るようになりたい、という執念？ のようなもの、会社員としては大成せず先が見えていたこと、親しい友人には「スペイン語の通訳になるから会社は辞める」と宣言していたこともあり、逃げたくても逃げられない状況にあった、まさに「背水の陣」に身をおく形になっていたことが一番の理由だと思います。

人間というのはどうしても楽な方の道を選ぼうとしますので、もう逃げられない！という状況に自分を追い込んでしまうのも一手なのではないかと思います。ひょっとしたら、語学は後がない状況にならないと習得は難しいのかもしれませんが。「願望」や「必要性」も重要な要素ですが、それをさらに超える「強制力」とでも言いましょうか...そういう絶体絶命の大ピンチというのは意識的に作った方が良いです（特に、なかなかスイッチが入らない、行動を起こせない...という方はしっかりと心に留めておいてください）。

さて、オンラインレッスンやレストラン、バーでのネイティブとの会話で失敗と成功を重ねて行く中で、ある一つのことに気付きました。いや、再確認できた、と言った方が正しいのかも知れません。それは...**自分が言いたいこと、話したいこと又は伝えたいことをスペイン語にして覚えておくこと**です。

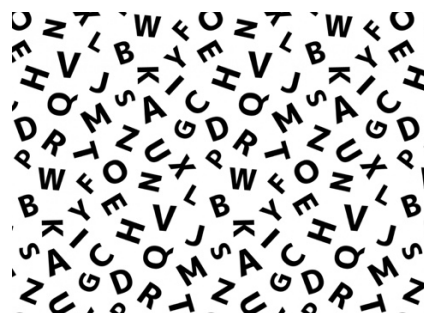
よく、書店やアマゾンなんかでスペイン語会話フレーズ集のような本を購入して覚えようとする人がいますが、この手のフレーズ集は役には立つのですが、実際に会話で使えるか、となると凄く難しいのです。

ですが、それも考えてみれば当然のことです。会話というのは相手がいて成り立つものです。その相手によって、又その時の状況で話の話題が変わってくるわけです。そんな所に、海外旅行で使うフレーズやレストランに予約するフレーズ、服を買う時のフレーズなんかを覚えて行ったところで、その話題にならなければ使いようがありません。

ただ私は書店で売っているフレーズ集自体は役に立つと思っています。海外旅行に行くときには海外旅行向け、レストランで食事をする時にはレストラン向けのフレーズ集を活用し、覚えたものを現場で使えば良いのです。それが本当の活用法ですね。

このことから分かるように、その**話題、シチュエーションごとに言いたいことをスペイン語で準備して覚え、実践で使う**、これが大事だということですね。会話というのはとてもプライベートなものであって、そこでのセリフは個人レベルに特化したものだからです。

フレーズ集や単語帳を片っ端から暗記する人がいますが、自分の状況に関係のないフレーズをいくら覚えても実戦では使い物にならないのです。つまり「あなた専用のフレーズ」を用意しなければ意味がない...ということです。



自分が言いたいことをスペイン語にしておく

では、ここからはブログやメルマガで紹介している「ディアロマスター式」の基礎となるコンセプトなので、ご存知の方も多いかも知れません。ですが、ここでは改めてこのコンセプトをより深く理解して頂きたいと思います。

多くの方が、会話というものに対し、その表現が無限大に存在するように思われていますが、実はスペイン語にしても英語にしても、私たちが普段行っている「会話」というのはパターン化され、バリエーションも限定されているのです。パターンやバリエーションと書きましたが、人によって「口癖」が決まっている、ということです。もっといえば、同じことを繰り返し話ししている、と言えます。

あなたは日々、家族や友人、会社の同僚と、それこそ数多くの話題について話していると思うかも知れませんが、実は殆どが別の人と話した同じ内容だったり挨拶であったりするのです。その中にあなたの「口癖」も多く含まれているのです。そして、こういう「口癖」＝「定番表現」が日常会話の大半を占めているのです。

つまり重要なことは、まずあなたのスペイン語会話の元となる、いつも使う表現、挨拶、口癖、お気に入りのセリフ、といった汎用性の高い会話表現をスペイン語に訳してインプットしておく、ということです。まずは、あなたのスペイン語会話の核となるお決まりのパターン、あなた専用の表現を明確にすることから始めてみると良いでしょう。

私はこの「日常会話」の本質を知ってから、市販のフレーズ集や旅行会話集を購入したり会話の参考にするのをやめ、自分が言いたいこと、普段よく口にする、その日に感じたこと等、自分が話す可能性が高い内容をスペイン語に訳してインプット→アウトプットするようにしました。私がよく「あなた専用のセリフ」とっているのはこのことなのです。

これはもう、「スペイン語で何て言うんだろう」と思うことがあれば、その場ですぐにメモを取ることをお勧めします。メモじゃなくても、いまはスマホがありますので、その日にあった出来事や感じたこと、あなたがよく使う口癖なんかを思いついた時点で記録し、帰宅してスペイン語にしておくといでしょう。出来れば、仕事用、プライベート用、旅行用等、各シチュエーション別に分けてまとめるのが理想的ですね。

勿論、市販の教材を参考にするのも悪くはありません。ですが会話というのは、いや言葉というのは生き物なので、教材のような、他人が作ったセリフを、いや、あなたが使わないセリフをいくら覚えても意味がないのです。使わなければ生気がなくなり、そのセリフは死んだも同然になってしまいます。あと、口癖が分からなければ、友人や家族に聞いてみるといいですよ。録音しておけばもっと確実ですね、それはちょっと無理かな(^^)



スペイン語を話せるようになった人だけが実践する方法

「言いたいことを事前にスペイン語で準備しインプットしておく」というシンプルなスピーキング法ですが、実践する学習者は少ないのですが、話せるようになった人の殆どが実践しているアプローチでもあるのです。

逆に、使いもしない単語まで片っ端から覚える、という勉強法や文法ばかり勉強している人は、この「事前の準備」をしていません。常にその場で考え「頭の中でスペイン語作文」をしようとします。

最初のうちはそれでも良いですが、このやり方ではいずれ追い付かなくなるのです。なぜなら、その場で考えてからスペイン語に訳して話す、というプロセスだと時間が掛かり会話のテンポが悪くなってしまうからです。

何語でもそうですが、会話というのはテンポ、リズムがとても大切です。投げたらすぐに返ってくる、という、まさにキャッチボールのようにリズムカルにポン、ポン、ポン...と進めるものなのです。日本人がスペイン語会話が苦手な原因の一つとして、この、会話中に言いたいことを頭で考え、それをスペイン語に訳してから話す、という二つのプロセスが入るため、良いリズム、テンポが保てなくなることが挙げられます。相手からすると、日本人が考え込んでいる間は待たされることになるので、だんだんと面倒に感じ、会話そのものが白けてしまうのです。

ということは、会話をテンポよく進めるためには「その場で言いたいことを考える」「頭の中でスペイン語に訳す（スペイン語作文）」この時間をどれだけ少なく出来るか、がポイントになります。どうすれば時間短縮が可能か？ 答えは簡単ですね。「言いたいことをスペイン語で訳す」という作業を事前に済ませておく、ということですね。ネイティブとの会話では、事前にインプットしていたスペイン語を丸ごと口から出せば良いということです。

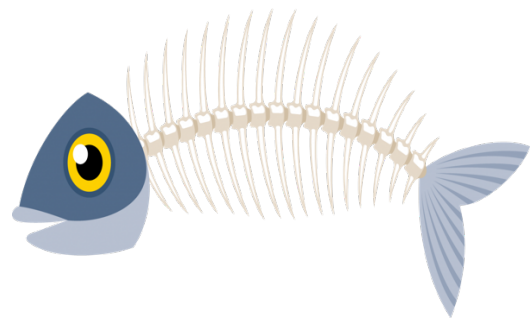
日本語で話す時も、実はプロセスは同じなのです。例えば、いきなり「日本人の曖昧な表現について意見を言ってください」といきなり指名されても、事前に準備していなければ言えないものです。「えー」「あの一」となるのが関の山です。ですが、殆どの人が**事前の準備**というステップを踏まず、その場のアドリブでやろうとしてしまうのです。

しかし、意識している、していないに関わらず、スペイン語を話せるようになった、という日本人はこのプロセスによるスピーキング法を踏まれています。彼等はみんな、自分が言いたいこと、伝えたいこと、日々感じていることを日本語で整理し、それをスペイン語に訳したものをインプットし、実戦でそのまま口から出すようにして話しているのです。このプロセスがスピーキング力向上における**不変の法則**であると理解して下さい。

勿論、事前に全てのフレーズを完璧に用意しておくことは不可能です。会話というのは相手がいて成り立つものなので、それは至極当然のことです。し、事前の準備にも限界があることは先に知っておいて下さい。

当然、会話が思わぬ方向に流れ、事前に準備したフレーズが使わないまま終わることもあるでしょう。ですが、この「事前の準備」をやるかやらないか、でネイティブとの会話が全然違う結果になるのです。あなたが凄いと思っている通訳者でさえ、事前に準備していなければスペイン語を日本語に訳すことも出来ないですし、スペイン語で話すことさえ出来ないのです。みんな、事前に準備しているから平然と話しているように見えるだけなのです。

話は少し逸れましたが、重要なのはスペイン語会話の核（基盤・骨組み）となる部分をインプットしておく、ということです。これを実践するだけで会話の土台を作ることが出来るようになります。土台を作ることが出来れば、会話のリズム、テンポが良くなり、楽しく進めることが出来るようになるのです。



「スペイン語会話習得プログラム・ディアーロゴ」（上）ここまで

たった30日でスペイン語の全てが分かる
スペイン語会話習得プログラム

ディアーロゴ

著者 宮崎 博
スペイン語通訳者・翻訳者



(下)

「ディアロ（セリフ）」によるスペイン語会話術

ではここで、これまでに度々出てきた「**ディアロ**」について詳しく説明しましょう。ディアロとは私が勝手に作り出した用語で、正確には、この教本の名前であるディアーロゴ「dialogo」のことで、スペイン語で、会話とか、セリフという意味があります。ただ、ディアーロゴだと長いので、「ディアロ」と省略させて頂きました(^^)

実は、リネア「línea」というスペイン語にもセリフという意味があります。そして、台本に書かれている役者のセリフが「線」のように見えるため、リネア＝セリフという意味にしていたわけです。ですが、「リネア式」「リネアマスター式」だと何だかしくりこなかったということと、dialogo にもセリフという意味があり、こちらの方が語呂合わせもしっくりきたので「ディアロ」「ディアロマスター式」と名称を変えたのです。

そういう経緯があり、私はこのディアロを「セリフ」という意味で使っています。かなりコジツケですが(^^)

要は、スペイン語会話フレーズ集の、そのフレーズのことなのですが、敢えてディアロ（役者のセリフ）と呼んでいるのには理由があります。

私も過去に失敗しましたが、書店で売っているようなフレーズ集を片っ端から暗記しても、殆どのフレーズは実戦では使い物になりません。なぜなら「あなた専用のフレーズ（セリフ）」ではないからです。確かに、挨拶表現や汎用性の高い表現であれば、そのまま使うことは可能です。しかし実際にネイティブと会話をする際には、あなたが話す言葉は「あなた独自」の、より個人的でプライベートな「セリフ」でなければいけないのです。もっと言えば、あなたの魂が籠ってなければいけないのです。

それで、わざわざ「ディାରロ」という言葉を使っています。ディାରロ＝役者のセリフであり、そのセリフは役者が 10 人いれば 10 通りあるという、非常に個人的なものです。ディାରロというのは、それぞれの役者専用の言葉なのです。

繰り返しになってしまいますが、本来はディアーロゴ、が正しいスペイン語ですが、私のスペイン語習得法の名前を考えた時に、「ディアーロゴマスター式」ではシックリこなかったので、「ディାରロマスター式」という風にショートカットさせて頂きました(^^)

話を戻しましょう。

また、スペイン語で会話するという行為自体が「お芝居そのもの」であるという本質があります。そもそも、日常で母国語である日本語を話している私たち日本人がスペイン語を話すということ自体、非現実的行為と言えます。つまり、一種のお芝居のようなものなのです。

私はまだスペイン語も英語も話せなかった時、海外旅行でオペラや人形劇を観ましたが、その時はただ「楽しいなあ」と感じ、現地の伝統芸能を観たことに感動していただけでした。

しかし後年、スペイン語を話せるようになってから「あ、スペイン語も結局はお芝居と同じだ」と気付いたのです。なぜなら、スペイン語を話している時の自分はどう見ても普段の自分＝日本語を話している時の自分とは違うし、まるで別の人間＝スペイン語を話す、もう一人の自分、を演じているような感覚になるのです。あなたもそのように感じたことはありませんか？



スペイン語を話すもう一人の別人格を作る

前述の通り、私たち日本人にとってスペイン語を話すということ、つまりスペイン語会話は、お芝居をするようなものです。お芝居、ということはあなたはスペイン語を話す時には**「スペイン語を話すもう一人の自分」**
「スペイン語を話す時専用の別人格の自分」を演じる、スペイン語会話中はもう一人のあなたになりきる必要がある、ということです。

たとえ普段は大人しく、無口で控えめな性格であったとしても、スペイン語を話す時にはラテン的なノリ「ヘーイ！元気かーい！？」という感じで別人格の自分を演じてみると良いのです。ここで羞恥心を感じてはいけません(^^) スペイン語を話す時は日本人であることを忘れ、外国人に成り切ってみるのです。ここで中途半端に日本人の性格が混じってはいけません。やるなら徹底的にやりましょう。決して恥ずかしがって目をそらしたりしないようにしましょう(^^)

勿論、嫌だよ、そんなの！という方は仕方ありませんが(^^) でも、より自然に、日本的スペイン語ではなくネイティブに近いスペイン語を話したいのであれば、**スペイン語で話す時専用の別人格**を作り、とことん成り切ることをお勧めします。むしろ日本語と同じテンションで話すとどこか違和感があるというか、不自然な感じがしますので、別の自分に成り切ることでより自然で、ネイティブっぽいスペイン語を話すことができるようになります。

ここで、どうしても別人格の自分になりきれない、という方に一つコツを伝授します。それは、あなたにスペイン語圏の名前を付けてみるのです。よく「カルロス」等スペイン語圏の人の名前をつける方がいますが、ネイティブのお友達がいるなら、名前をつけてもらおうと良いでしょう。

あなたが頼めば、あなたの顔から連想してスペイン語で名前を付けてくれるでしょう。実際、ネイティブにすれば発音が難しい名前があります。例えば「依子」という名前であれば「Yoriko」となりますが、スペイン語だと「ジョリコ」なので、「ヨリコ」とは呼びにくいのです。こんな理由から別名を付けている方が多いのです。

さて、スペイン語でネーミングをしたら、スペイン語を話す時は成り切って下さい。日本人があまり使わない、ゼスチャーも含めてです。だって、スペイン語を話す時は、あなたは日本人ではないのですから。大事なのでもう一度言いますが、スペイン語会話は、お芝居なのです。なので、芝居の中でいかにスペイン語話者として演じることが出来るか、そこに全精力を注ぎ込んで下さい。そしてあなた専用のディアーロ（セリフ）に集中しましょう。これがスペイン語会話力を伸ばす大きな秘訣です。

これはどんな書籍にも書いていません。私がスペイン語を学習し、ネイティブとの会話や通訳者としての仕事を通じ、研究を重ねた末に辿り着いた答えです。スペイン語会話をお芝居と捉える、故にあなたは役者であり、話すべきは「あなた専用のスペイン語のディアーロ（セリフ）」であるということ、お芝居である以上、あなたは日本人ではなく、もう一人の自分（外国人）に成り切ることが大切だということです。とても重要な秘訣なので絶対に忘れないで下さい。

ディアロ（セリフ）におけるブロックとフレーム

では実際に「ディアロ」を使ったスピーキング法の話に戻ります。ディアロは「役者のセリフ」のことでしたね。そのセリフには長いものや短いものがありますね。スペイン語を話せるようになった人は、短いディアロを沢山インプットし、他の短いディアロと組み合わせることでより長いセリフにしています。以下に例を挙げていきましょう：

【友人と会う時のディアロの例】

あなた：

Hola. ¿Cómo estás?

（やあ、元気？）

友人：

Hola. Estoy muy bien. ¿Y tú?

（やあ、元気だよ。君は？）

あなた：

Yo también muy bien. Mira, ayer fui a compras y encontré algo especial para ti.

（うん、元気だよ。あのね、昨日買い物に行ったんだけど、君にいい物見つけたんだ。）

友人：

¿En serio?

（本当？）

あなた：

Sí, aquí tiene. Esto es lo que querías, ¿correcto?

（うん、はいこれ。欲しかったやつでしょ？）

友人：

¡Oh,sí! Eso es lo que quería exactamente. Muchas gracias.

（あ！本当だ！欲しかったやつだよ。どうもありがとう。）

と、友人との会話はこんな感じで進んでいくのですが、ディアローというのはあなたと友人が話している、其々のフレーズ（セリフ）のことですね。

例えば、¿Cómo estás?（やあ、元気？）とか¿Y tú?（君は？）といった短い定番のフレーズから、ayer fui a compras y encontré algo especial para ti.（昨日買い物に行ったんだけど、君にいいものを見つけたんだ。）と言った、ちょっと長めのもの、或いは笑い話やギャグのネタなど、ストーリーごとインプットしてしまうという考え方も「ディアロー」と言えます。お芝居では「長台詞」なんて言いますね。

そして、これらのディアロー（セリフ）を形成する最少単位を「ブロック」、ディアロー（セリフ）の骨格（構造）のことを「フレーム」と呼びます。どこかでも触れましたが、私が勝手に（独自に）つけた名称です。なので、そういうものだという程度で認識していれば良いです。

例えば先程の、ayer fui a compras y encontré algo especial para ti. というディアロの中には、fui a compras「買い物に行った」や algo especial「特別なもの」といったブロック（これ以上細かく分けない/分解しない一塊りの要素）や encontré ○○ para ～「～に○○を見つけた」といった構造（スペイン語の文の骨格）となるフレームが含まれています。

このような慣用的な表現（定番表現）の最小単位（ブロック）や構造・骨格（フレーム）を沢山インプットすることで、あとは組み合わせ次第であなたが言いたいことを自由自在に表現出来るようになるのです。そこには高度な文法なんて必要ありません。これが「ディアロマスター式」スペイン語習得法の基本コンセプトです。

他にも、aquí tiene.「はい、どうぞ」、Esto es lo que querías で「これがあなたが欲しかったもの」、Eso es lo que quería exactamente. 「それがまさに私が欲しかったもの」といった意味のディアロですが、その中に Esto es lo que ～「これが～なもの」という意味のフレームがありますね。

これを応用（転用）すると esto es lo que dijiste で「これが君が言ったこと」、esto es lo que necesitaste「これが君が必要としたこと」という風に、様々な表現にアレンジすることが出来ます。この習得法でもあるディアロマスター式の優れている点は、スペイン語の口語表現の最小単位（要素）をインプットすることで、あとは言葉を組み替えるだけでバリエーションに富んだ表現を作り出し、スペイン語における会話の幅を無限に

広げることが出来るところです。この部分をしっかりと理解しておいて下さい。

つまり、「組み変えるだけ」ということは、特にフレーム（構造）の基本の形さえ押さえてしまえば、つまり、パターンさえ押さえてしまえば、単語を組み替えるだけで色々なことを表現することが出来るということなのです。

話は少し逸れてしまいましたが、「パターン」と言いましたが、これはフレーム（構造）だけでなく、スペイン語独特の動詞の活用についても言えることです。

ここでは詳しくは触れませんが、スペイン語は英語と比べて動詞の活用が多いです。要は、主語によって動詞の活用が変わる訳ですが、その活用の多さに躓く人が本当に多いですが、パターンさえ押さえれば、一瞬で解決出来るのです。

どんなことにも言えますが、パターンを押さえるととても円滑に物事が回るようになります。スペイン語会話も、動詞の活用も同じなのです。

ディアーロ（セリフ）を使つての実際のスペイン語の話し方

それでは、実際に「ディアーロ（セリフ）」によるスペイン語の話し方について詳しく説明して行きましょう。

■短いディアーロ(セリフ)

まずは、ノートやルーズリーフに、あなたが言いたいこと、伝えたいこと、表現したいことを短い言葉で、日本語でシンプルに書きます。そして日本語の下、あるいは横に今度はスペイン語に訳して書いてみましょう。この場合、パソコンでも構いません。今は紙に書く人の方が少ないかも知れませんが、最初は特に難しく感じるかも知れません。その場合は、市販で売っているフレーズ集等を参考にさせていただいて良いので、あなたが表現したいディアーロ（セリフ）のベースとなる部分を拝借し、枝の部分をあなた流にアレンジしてみましょう。

ひょっとすると、あなたは「初心者だからそこまでは出来ない」と思われるかもしれませんが、ですが、「初心者だから...」と言っているといつまでも出来るようにはなりません。私も最初は見よう見真似でした。それでも意外とネイティブには通じたものでした。当然、素人が作ったディアーロ(セリフ)なので訂正も沢山されましたが、そのことが却って私のスペイン語力向上に大いに役に立ちました。このように実践を繰り返していくうちに自然と分かるようになりますので、間違いなんか気にせず、あなたが言いたいセリフをどんどんスペイン語に訳してインプットしましょう。

■長いディアロ(セリフ)

ここで言う長いディアロ（セリフ）というのは一文が長い、という意味ではなく、ストーリーそのものの、ことです。例えば、あなたが体験した感動的な話や腹がたった話、面白いと感じたことや「マジで？」と思ったこと等々、盛り上がりそうなネタをスペイン語にして丸ごとインプットします。これはかなりの効果が期待できるスピーキング法なので、必ず実践して下さい。

あなたにもあるのではありませんか？ 昔話でも最近の話でも、何でも良いのです。コツとしては、「あなたの感情が揺れ動いた体験」がうってつけです。なぜなら、人は「感情」によって行動するからです。何も難しく考える必要はありません(^^) 笑い転げてしまいそうな話、笑い話に出来そうな失敗談、穴があったら入りたくなるような恥ずかしい話、感動的な話や憤りを感じる話...等々、色々あると思います。このようなストーリー、またはネタを、まずは日本語で書き出し、スペイン語で書いてみます。書く時の大事なポイントは、「短くシンプルに」です。長いディアロ（セリフ）の場合であっても、一つ一つのディアロは短くし、極力、簡単な単語や文法で書いて下さい。少し慣れてきたからといって難しい単語や文法を使って表現しようとする、途端にネイティブに通じにくくなります。なので、必ずシンプルで短い、分かりやすい表現を使いましょう。本当に大事なポイント（秘訣）なので、必ず頭の片隅に入れておきましょう。



尚、ディアロ（セリフ）を準備し、インプットする上で注意点があります。

① 量より質を重視：

ディアロマスター式のスピーキング法を始めると、ディアロ（セリフ）を沢山作ろうとする人が多いです。表現できることが多くなる、という点では良いのですが、多くの方が、普段自分が使わないようなディアロ（セリフ）まで作りインプットしようとします。ですが、これだと「効率化」という点から見るとお勧め出来ません。実践してみると分かりますが、ディアロ（セリフ）を作りインプットするのは意外と大変です。なので、自分が使わないようなディアロ（セリフ）までインプットするのは時間の無駄ですし、それによって挫折したりすると元も子もありません。まずは、量（数）ではなく、あなたが言いたいこと、伝えたいこと、表現したいこと、この部分に焦点を当てて重要なディアロ、あなたが使う（口にする）ディアロだけを構築しインプットするようにして下さい。

② 作るだけ、は絶対にダメ

ディアロマスター式でディアロ（セリフ）を作り始めると、気合が入るのは良いのですが、「作りっぱなし」という方がいらっしゃいます。沢山作ったけれど、何一つインプットしていない...という。確かにあなたが言いたいことをスペイン語で書く、というだけでも負荷が掛かり勉強にはなりますが（単語を知っていたり部分部分で覚えていたりするため）、この、ディアロマスター式勉強法の効果を最大限に発揮するには、作ったディアロ（セリフ）をしっかりとインプットするようにして下さい。作りっぱなしだと、宝の持ち腐れになりかねません。

③ インプットするだけでは絶対にダメ

先程の「作るだけ」という注意点に関連して、これも多いのです(^^) いや、これが一番多いでしょう。ディアロ（セリフ）を沢山作って、しっかりインプットもしている、でも実戦で使わない」というパターン。そして、これが一番勿体無いです。一体何のためにディアロ（セリフ）を一生懸命作ってインプットするのか、といえばネイティブとの会話で話すためであるわけですね。その目標に向かって、スペイン語で書く、という難しいことも乗り越えているのに、どういうわけか、実際のネイティブとの会話でディアロ（セリフ）を使って話そうとしない人が本当に多いです。それどころか実際の会話の機会さえ作ろうとしません。

ディアロ、それにブロックやフレームというディアロマスター式というのは、スペイン語を話せるようになるための手段の一つであって、実戦の機会を作り経験しなければ、絶対に話せるようにはなりません。これは本を沢山読むけど、読むだけで終わるのと同じです。知識を詰め込むだけではなく、それを出す（アウトプット）しなければ意味がないのです。ですから、ディアロ（セリフ）を作ってインプットしたら、必ず実戦の場、つまりネイティブとの会話の機会を設けるようにして下さい。ここでアウトプットすることで初めて、ディアロマスター式のスペイン語会話習得法が一つの完成を見ることが出来るのです。ここは重要なポイントなのでしっかりと理解して下さい。

尚、どうしてもネイティブとの会話の機会を設けることが出来ない、オンラインレッスンの機会も忙しくて難しい、という方は、必ず【音読】をして下さい。言葉というのは生き物なので、使わない状態が続けば死んでしまうのです。音読＝アウトプットすることで脳が活性化され、インプットしたディアロ（セリフ）を生きた状態に保つことが出来ます。

宮崎が実際に行なっているディアーロ（セリフ）の活用法

それでは、ここからは私がどのようにディアーロ（セリフ）を活用していたのか、その実践方法について詳しく説明したいと思います。

私はスペイン語の学習を始めてから、基礎的な知識を身につけた後は直ぐに**実践の海**に飛びこんだわけですが、ネイティブとの会話を通して「知っていることなら（あらかじめ用意したことなら）話せる」ということに気付きました。

そしてディアーロマスター式にさらなる確信を持ったのは、通訳の仕事をするようになってからでした。通訳というのは、その仕事内容によって話す内容が変わってきますので、どんな仕事かによって準備する内容が違ってくるのです。その仕事の中で、メディアがインタビューをする場面で通訳をする必要があったりするわけですが、私は仕事に臨むまでに、**メディアが質問するであろう内容やネイティブが答えるであろう内容を日本語で書き出し、それをスペイン語に訳しインプットする、アウトプットするという準備を入念に行いました。**この準備は最初は大変でしたが、メディアやネイティブが言ったことに対し自分が何も言えず下を向いたまま、という屈辱感を考えると、事前の準備も苦になりませんでした。何よりも、仕事なので「分かりません」では話になりませんので。

で、このメディアのインタビューというのは予め依頼元の会社から知られるのですが、インタビューは「ディアーロ」を用いた話がしやすいシチュエーションでもあるのです。最初に「テーマ」が決まっているからです。

そういう意味では、語学スクールでのスペイン語会話も同じことが言えますね。これが、友人や家族、その他の人たちとの会話となると、話の展開がどうなるかが読めないので準備することが大変です。しかし語学スクールやメディアのインタビューであれば、テーマが決まっていれば内容が想像しやすく準備さえしておけば、しっかりと対応することが出来ます。

特にメディアインタビューは仕事ですから、一日か、それ以上の時間を費やして徹底的に準備を行い、メディアが質問する内容は勿論、ネイティブが答える内容、更にその発言に対するメディアの質問等、想定出来るものは全て想定し、スペイン語で準備しました。この事前の準備をやるのとやらないのでは、雲泥の差が出ます。何よりも、精神的に安定した状態で臨むことが出来ます。

例えば「地球温暖化」や「気候変動」に関するインタビューだったとしましょう。「地球温暖化」であれば Calentamiento Global、「気候変動」であれば Cambio Climático、です。これらについては、事前に調べて【知っておかなければ】、あなたがそれについて話すことも聴き取ることも出来ないのです。よくよく考えれば当然の話ですね。知らないことは話せないし、聴き取ることも理解することも出来ないのです。

しかし、事前にテーマが分かっている、それに関する質問や意見、答えがある程度想定出来るのであれば、徹底的に考え、スペイン語に訳してインプットしておくことが何よりも重要なことなのです。

実際、メディアのインタビューでは、この「ディアロ（セリフ）」による事前の準備の威力は凄まじいものでした。何を聞き何を話したかは覚えていないのですが、全部というわけにはいきませんでした。メディアの方やネイティブの方の口から事前に準備しておいた内容が多々出てきましたので、その時はまさに「ドンピシャ」という感じでスムーズに入っていました。

もし、この時私が何の準備もせずにインタビューに帯同していれば、そのテーマの中での専門用語も分からず、グダグダになっていたでしょう。本当にそんな展開になっていたらと思うとゾッとしますし、仕事としてやっているわけですから、どうなっていたかは想像できますよね。おそらく何も言わずにもう二度と私には仕事を依頼してこなくなるでしょう。

こういう経験を通じて、事前に準備すること、つまり「ディアロ（セリフ）」を使うことでスペイン語を話せるようになるのだ、ということに気付いたのです。この時は「ディアロ」なんて名称はありませんでした。今も勿論ありません。なぜなら、私が勝手に作り出した名称なので^ ^

勿論、スペイン語での会話で凄まじい効果を期待できる「ディアロ」ですが、これで全てを解決出来るわけではありません...良いことばかりではなく欠点もある、ということなのです。次項より「ディアロの問題点と対策」について詳しくお話ししたいと思います。

ディアロ（セリフ）によるスピーキング法で注意すべき点

ディアロ（セリフ）を用意してネイティブとの会話に臨んだ人は、ディアロによって会話が成立すると、その効果に驚愕します。今まで何も話せず苦笑いをしていたのは何だったんだろう？と思われることでしょう。それぐらいディアロ（セリフ）の効果は抜群ということですね。

しかし、そんな効果抜群のディアロ（セリフ）ですが、それが「最強の武器」ではない場合があります。会話というのは相手があって成り立つものですから、あなたが想定していた話題と全く別の展開になる、なんてことがあります。家族についてのディアロ（セリフ）をいくつもインプットしていったのに、相手の好きなペットに関する話題で終わってしまった、相手の独断場だった、なんてことはよくあります。自分の思い通りの展開になれば良いのですが、ここでは、そうならなかった場合の問題点と対策について詳しくお話ししたいと思います。

■用意したディアロ（セリフ）とは別の話題に展開してしまう時の対策：
ディアロ（セリフ）を使ったスピーキング法では、この問題が一番多いです。せっかく沢山インプットしていったのに、全然違う話題になってしまったので一つも使いませんでした...となるとかなり凹みますよね。しかし先程も述べたように、会話というのは相手があって成り立つものですから、仕方がないというの也有ります。その場合、私の経験上、強引に自分の展開に持ち込むのではなく、まずは「聞き役」に徹します。まずは相手が話したいことを話させて聞いてあげる、ということ。「旅行」に関するディアロ（セリフ）を沢山インプットしていったのに、「映画」の話題になってしまった...となっても、それはそれで良いのです。

相手が旅行の話をしている時、つまり、あなたが想定していた内容と違う話題になった時は「聞き役」に徹して構いません。勿論ただ聞いているだけではなく、適度に相づちを打つことは重要ですので、そんな時のための「相づち」用ディアロ（セリフ）を用意しておきましょう。

「相づち」用ディアロ（ブロック）には以下のようなものが含まれます：

No puede ser. 「ありえない。」 「嘘でしょ。」

¿En serio? 「本当に？」 「マジで？」

¿De verdad? 「本当に？」 「え？」

Tiene razón. 「その通り」

No lo sabía. 「知らなかった。」

No lo creo. 「そうは思わない。」

¡Qué bien! 「すごい！」 「いいね！」

Sigue sigue... 「続けて、続けて」

Y ¿qué? 「で、それで？」

¡Qué punto! 「ぴったりだね！」

¡Ojalá! 「だといいね！」

¡Qué suerte! 「ラッキーだね！」

Muy bien. 「すごくいいね。」

¿Ah, sí? 「あ、そうなの？」

この他にも「相づち」用のディアロ（セリフ）は沢山ありますので、あなたがよく使いそうな「相づち」用ディアロ（セリフ）をインプットしておくの良いです。日本語でも同じですが、こういうのは口癖のようなものなので、考えて口に出すのではなく、無意識に口から出るようになるまで繰り返し音読し、体得するようにしましょう。どの「相づち」用ディアロ（セリフ）も短いので、インプットするのは難しくないはずです。

では話を戻して、話題が想定外の展開になってしまった場合は「聞き役」に徹し、**相づち**を打ちながら相手の話が終わるのを待ちます。ここが大事なのですが、途中で話題を変えるのではなく、相手が話し終えるのを待つことが大切です。相手が話し終わって満足してから、今度はあなたが用意したディアロ（セリフ）の方へ話題を展開します。

何だか打算的な感じかもしれませんが、会話とはそういうものです。お互いに話したいことを話すのが会話の楽しさでもありますので、相手の話を聞いたなら、今度はこちらの話も聞いてもらう、というのがフェアで対等な形の会話ではないかと思います。

そして先程も述べましたが、途中で話題を変えるのではなく、相手の話を聞き終わってから、その流れのまま今度は自分の話に移っていく、ということが大切です。決して途中で相手の話を遮ったりしてはいけません。最初は難しいですが、場数を増やすことで必ず出来るようになります。

重要なことは、**たとえ想定外の話題に展開したとしても、最後は自分が準備した話題に移せるように会話の流れをコントロールすること**です。

■インプットしたディアロ（セリフ）が思い出せない場合の対策：

これもよくありがちなことです。特に実践を始めて最初の頃はインプットしたディアロを忘れてしまいがちです。勿論、慣れていないこともあるのですが、それ以上に深刻な問題が「あがってしまう」ということです。つまり、過緊張や焦ったりして、インプットしたディアロが口から出てこない、全て飛んで頭が真っ白になってしまう、という状態ですね。

でも大丈夫です。ディアロ（セリフ）によるスピーキング法を実践すれば、必ず言いたいことがスペイン語で言えるようになります。ですから、まずは外国人を前にしても緊張したりあがったりしないようにしましょう。「うまく話せなかったらどうしよう...」「間違えたら笑われるんじゃないか...」という気持ちが先行するから緊張したりあがったりしてしまうのです。ですが、ディアロ（セリフ）を用意していれば、必ず話せるようになりますので、**心配ご無用**です。自信を持ってドッシリと構え、リラックスして会話に臨みましょう。余裕をかます位の気持ちで良いのです。

リラックスして緊張しなければ、インプットしたディアロ（セリフ）がパッと口から出てくるはずですが、ここがコツですが、緊張してドキドキしている状態や、頭に血が上っている状態では、スペイン語をうまく話すことは出来ません。つまり、如何に平常心に近い状態でネイティブとの会話に望むことが出来るか、が大事だということです。完全な状態は無理でも、その平常心の状態に近づけることは可能なのです。とにかく、落ち着いてリラックスした状態で、ゆったり楽しみながらスペイン語を話すようにして下さい。

■ディアロ（セリフ）の繋ぎや組み合わせがうまく出来ない場合の対策：
このスピーキング法に慣れてくると、様々なディアロ（セリフ）を組み合わせたり、自分流にアレンジする等して、様々な表現が出来るようになります。しかし、慣れるまでは、ただ単にインプットしたディアロ（セリフ）をそのまま言うので精一杯で、次にどのようなディアロ（セリフ）を口にすれば良いかわからなくなってしまう、という人が多いです。

原因として考えられるのは、ある特定のシチュエーションでしか使えないディアロを作り過ぎている、ということです。どのようなシチュエーションでも組み替えやアレンジが可能な「汎用ディアロ」と、状況に特化した「特定ディアロ」があります。この「特定ディアロ」というのは、そのシチュエーションや事柄についてのみ言及するディアロ（セリフ）であり、それ以外のシチュエーションでは使えないディアロ（セリフ）です。

上級者であれば、これらの「汎用ディアロ」と「特定ディアロ」を使い分け、その都度組み合わせを変えたりアレンジしたりして会話で使うことができますが、まだ初級や中級者の間は、あまり特定のディアロ（セリフ）に固執しない方が良いです。つまり、最初は「使い回し可能な汎用ディアロ」を中心にインプットした方が良いということです。

特定ディアロの代表的なのが「話のネタ」を丸ごとインプットしておくというものです。このようなディアロ（セリフ）はそれ以外の話題では使えず、アレンジのしようもありません。それよりも、最初は何度でも使え、アレンジや組み換えが簡単なディアロ（セリフ）を中心にインプットするようにしましょう。

■ディアロ（セリフ）で準備したことしか話せない場合の対策：

これも多いですね。準備した内容ならサッと口から出て来ますが、それ以外のことになると、途端に何も話せなくなってしまうパターンです。

私はこれまでにメルマガやブログでも、事前の準備、つまり、ディアロを活用したスピーキングを推奨してきましたが、会話全てがディアロで成立するわけではありません。ディアロ（セリフ）はいわば土台のようなものです。例えば、スペイン語での会話で、仕事について話したいとします。するとあなたは、どんな仕事なのか、なぜその仕事についたのか、将来はどうなりたいのか等々、あなたが自分の仕事について話したいことをスペイン語で準備します。それがディアロ（セリフ）ですね。

しかし、それだけで会話が成立するわけではありません。相手があつてのことなので、当然そこでは、あなたが予想だにしていなかったことを聞かれたり、話が盛り上がってさらに詳しく聞かれるかもしれません。または相手が興味を示さなかったり、話が違う話題に移ったりすることもあります。

なので、ディアロによってスペイン語会話全てをカバーできるとは考えないで下さい。ディアロは、スペイン語会話の構造を支える土台です。それ以外の部分は、ネイティブとの実際の会話での、その場の即興的な表現の付け足しやその場での臨機応変なアレンジや組み換えによって構成されます。事前に準備したディアロしか話せず、それ以外は何も話さず黙っている、というのは、スペイン語会話の土台だけは作り、それ以外の、土台に彩りを添える部分を放置しているようなものです。

では、土台に彩りを添えるにはどうすれば良いのでしょうか。そのためには、使い回しが効く汎用のブロック（一塊りの語句）、間投詞、他のディアロやフレーム（構造）の活用が有効です。

1. 汎用のブロック（一塊りの語句）

汎用のブロック（一塊りの語句）というのは、先程「相づち」の表現で紹介したような、どのようなシチュエーションでも使える、とても便利なスペイン語表現のブロック（一塊りの語句）のことをいいます。以下のような表現がこれに該当します。

un poco	「少し・ちょっと」
~, verdad?	「～だよな？」
Aunque	「～だけど」
No puede ser	「まさか」「ありえない」
En efecto	「その通り」
Tiene razón	「その通り」
Probablemente	「たぶん」
Tal vez	「たぶん」
Entonces	「それなら」

...のような感じの汎用表現をインプットしておく、ディアロ（セリフ）のつながりがスムーズになります。

2. 間投詞

間投詞というのは、その語自体には特に意味があるわけでもなく発せられるスペイン語の表現です。こういうのも意外とスペイン語会話では重要で、効果的に使うことで会話の流れを保つことができます。

Ah	「おや」「ああ」
Oh	「おや」「まあ」
Ay	「ああ」＝痛み・悲しみ
Eh	「えー」＝疑念・不信
Bravo	「素晴らしい」「凄い」
Uy	「ああ」「うーん」＝不快
Anda	「あのう...」
Buau	「ワァオ」
Madre mía	「まあ」

これも他にたくさんありますので、スペイン語会話や海外ドラマ等で耳にしたら積極的に覚えてあなたの表現に取り入れてみると良いでしょう。



3. フレーム（構造）

フレームというのは先にも説明しましたが、スペイン語の文の構造そのものを言います。汎用のフレーム（構造）というのは、構成される語句を入れ替えるだけで様々なバリエーションを作り出すことができますので、使用頻度の高いものはインプットしておくとい良いでしょう。

¿Cómo está～?	「～（の具合・調子）は如何ですか？」
Yo agradezco～	「～を感謝します」
Perdone por～	「～して申し訳ありません」
Es por eso que～	「だから～」
Seguro que～	「きっと～です」
Es natural que～	「～は無理もない・当然だ」
Siento mucho～	「～を大変残念に思う・申し訳なく思う」
Yo quiero～	「～したいです」
Quería～	「～したいです」
Yo tengo interés por～	「～に興味がある」
¿Podría～?	「～して頂けませんか？」
Yo tengo que～	「～しなければならない」
Voy a～	「～する・するつもりである」
Es mejor que～	「～した方がよい」
¿Por qué no～?	「～しませんか？」

Me gusta	「～が好きです」
Me enteré que～	「～らしい」
Déjeme～	「～させて下さい」
Me gustaría～	「～したいのですが」

こんなのも、沢山あるフレーム（構造）のうちの一つです。こういうスペイン語会話でのフレーム（構造）というのは、あなたが頻繁に使うパターンをあなたなりに厳選しインプットしておくことで、あとは語句を組み替えることで表現のバリエーションを増やすことが出来るようになります。

フレーム（構造）の良い所は、ディアロ（セリフ）のように語句が固定されていませんので、土台となる形に、適材適所に語句を入れ替えたり、組み合わせを変えることで、その都度様々なことをスペイン語で表現出来る、ということです。スペイン語での会話が得意な人は、このようなフレーム（構造）とディアロ（セリフ）を上手く組み合わせ、リアルタイムにアレンジすることでスペイン語を話しているのです。この秘密を理解すれば、あなたも変幻自在にスペイン語を話せるようになります。

尚、リアルタイムで組み合わせをアレンジするスキルは、やはり場数を踏んで伸ばすことが重要です。ディアロ（セリフ）を作り、何度も声に出してインプットするところまでは自宅で出来ますが、実戦でその場でアレンジしたり語句を組み替えたりというスキルは、実戦を繰り返すことで向上します。通訳と同じで場数です。積極的にスペイン語での会話の「実践の場」を作るようにしましょう。

失敗は歓迎すべきこと？

さて、ここまで「ディアーロ」を使ったスペイン語会話の実践法について詳しくお話してきました。ここまでのお話で、恐らく今すぐにディアーロを使ったスピーキング法を実践したくて堪らないのではないのでしょうか(^^)

ここで、ディアーロによるスペイン語会話を実践するに当たり、肝に命じておいて頂きたいことがあります。多くの日本人がネイティブとの会話で失敗することを恐れます。「これで合っているのかな...」「こんなこと言って笑われたりしないかな...」という不安から起こる気持ちですね。誰もがこういう不安感を抱えるものですが、私としては「失敗すること」をそこまで恐れる必要はないのではないかとと思うのです。

私たち日本人は生まれた時から日本語を話しており、スペイン語は母国語としていません。英語のように義務教育でさえ習っていません。つまり、間違えたり失敗したりするのは当然なのです。最初から失敗せずに何でも出来る人なんているわけがないのです。失敗したり恥をかいたりしないで上手くなった人はいないのです。ですが、日本人は真面目で完璧を求める人が多く、少し間違えただけでも恥ずかしい、失敗したらどうしよう...と思い込んでいるのですね。でも、それは心配ご無用です。もっといえば、間違えた考え方です。

そうではなく、「失敗」や「間違い」は、あなたのスペイン語表現を更にブラッシュアップするための貴重な経験であると考えるべきです。

あなたが考え、スペイン語に訳してインプットしたディアロ（セリフ）は完璧ではなく、不自然な表現であったり文法的に間違っていたりするかもしれません。しかし、それでネイティブに笑われたとしても恥ずかしいと思う必要はないのです。むしろ、その瞬間こそが【チャンス】なのです。

なぜなら、間違いを指摘されれば、なぜなのか、どこが間違っているのかを聞くことが出来るからです。そこで正しい表現に訂正してもらえば良いのです。それであなたは無料でディアロ（セリフ）を添削してもらうことが出来るということなのです(^ ^)

そういう視点で考えると、もっともっと失敗した方が良いと思いませんか？間違えたり失敗したりすればするほど、正しいスペイン語表現を体得出来るのです。そういう意味では、間違いや失敗の数だけ勲章が増える、ということですね ^ ^

私だって、未だに失敗をやらかしています ^ ^ ですが、それを放置するのではなく、それをチャンスと捉え、しっかりと対応することで大きく成長するのです。ですから、あなたもスペイン語を話せるようになるために、もっと失敗して笑われて下さい。恥をかいた分だけ、あなたのスペイン語力はドカーンと伸びていくのですから。

間違えることや失敗すること、そして恥をかくことを恐れしないで下さい。むしろ自ら進んで失敗して恥をかいて下さい。その分だけ、スペイン語を話せるようになるはずですよ。

ディアーロ（セリフ）の構築で分かることがある

さて、ディアーロを作ろう！と気合を入れて机に座って1時間...ディアーロが全然思い浮かばない人も多いのです。ディアーロとは、これまでにお話した通り、スペイン語会話であなたが話したいこと、伝えたいこと、表現したいこと、ですが、これが人によってはなかなか思い浮かばないのです。

これは、そういう人達のスペイン語力が低い、というわけではないのです。そうではなく、**日本語であっても、自分の話したいことを分かっていない**のです。つまり、自分が話したいこと、伝えたいこと、表現したいことが明確になっていないのですね。スペイン語力が不足しているのではなく、この「**言いたいことを日本語でも理解していない**」ということが問題になっているというわけですね。

こういう状態だと、いくら単語を覚えたり文法を勉強したりしてもスペイン語を話せるようにはなりません。なぜなら、スペイン語力が低いから話せないのではなく、その人自身が何を話したいのかを理解出来ていないからです。これは実際にディアーロ（セリフ）を書いてみるとよく分かります。自分が言いたいこと、伝えたいこと、表現したいことは何だろう～と考えてスラスラと日本語で書けるなら問題はありません。しかし、いくら考えても全然思い浮かばないのであれば、まずは自分が何を表現したいのかを明確にすることが先決です。これはスペイン語を習得していく過程で大事なことです。まずは普段の生活の中で「**自分の意見・考え・主張**」を明確にする習慣をつけましょう。

朝起きてから、または夜帰ってきてニュースを見たとします。その内容をただ単に「へえー、そうなんだ」と受け流すだけでなく、そのニュースに対して「どう思うか」「どう感じるか」を考える癖をつけて下さい。それは何もニュースに限ったことではありません。会社や学校、アルバイト先で同僚や友人と話したり、家で家族で話したりした際の話で「ふ～ん」「凄いね」で終わらせるのではなく、その話題に対して自分がどう思うのか、どう感じるのかを考えるようにしましょう。こういう「**能動的な姿勢**」があなたのスピーキング力を向上させます。何でも「**受け身**」で相手の話を聞くだけ、頷くだけで自分からは何も発言しない、というスタンスだと、なかなかスペイン語を話せるようにはならないからです。

どの言語の習得であっても、常に自分から積極的に発言する姿勢、自分の意見や考え、主張をしっかり持ち、それを堂々と発言する姿勢がとても大切なのです。あなたも知っている通り、外国人は日本人と違って本当によく自己主張をしますよね。日本人の感覚だと「図々しい」「厚かましい」と感じるくらい自己主張が上手です。確かに謙虚さや控えめな姿勢というのは日本人同士では長所となりますが、ネイティブと話す際にその調子ですと、殆ど相手にされなくなってしまいます。先程の「多重人格」の話ではありませんが、スペイン語専用の、別の自分になりきって、ドンドン自己主張しましょう(^^)



ディアロ（セリフ）によるスペイン語会話上達

ここまでディアロ（セリフ）を準備し、それをインプットしてネイティブとの会話で活用する方法について詳しくお話してきました。ここでは、これらのスピーキング法で実際にどういう流れで会話力が伸びて行くのか、それぞれの段階ごとの特徴（傾向）や注意点等をお話したいと思います。

① 第一段階：ディアロを試す→ある程度の表現が出来るようになる段階

まずはディアロ（セリフ）を作ります。ここで、ネイティブとの会話の内容を想定し、日本語で書いた後、それをスペイン語に訳します。大事なことは、とにかく**短くシンプル**に相手に**分かりやすく**書く、ということです。難しい単語を使ったり文法に拘り過ぎたりしないようにしましょう。難しければ、最初は単語の羅列だけでも良いのです。

例えば「昨日代官山に行って買い物をした」というディアロをスペイン語訳するのが難しければ、ayer, fui a Daikanyama, comprar だけでも十分に通じます。まずはディアロ（単語だけでも構いません）を用意してインプットし、それをネイティブに言ったら（アウトプットしたら）通じた！という喜び（小さな成功体験）を味わって下さい。このような小さな感動や成功体験の積み重ねが、あなたのモチベーション（原動力）を刺激します。単語だけでも構わないので、あなたが口にしたスペイン語がネイティブに通じたという喜びや感動的体験が、あなたの今後のスペイン語習得の糧になるのです。細かい部分の修正は、上の段階に進んでからで十分なのです。この段階では、とにかくディアロ（セリフ）を作りインプットし、それを話す（アウトプット）ということに全力を注ぎましょう(^^)

あなたが話す可能性の高いディアロ（セリフ）を準備し、実戦で話すと、殆どのディアロはネイティブに通じるでしょう。用意したスペイン語が通じた時の喜びは格別なものです。この瞬間の感動を味わうためにスペイン語を勉強しているようなものです。

しかし、この段階からあなたの会話力が伸びてくると、次の壁にぶち当たります。それは、準備したことは話せるけど、それ以外のことは話すことも質問に答えることも出来ない、という現実です。そして、それに対応するために沢山ディアロを増やそうとするのもこの段階の特徴ですね。

しかしディアロ（セリフ）というのは、あなたが話したいこと、伝えたいこと、表現したいことだけを短くシンプルに、相手に分かりやすいようにスペイン語で用意したものです。ディアロの数を増やすという考え方は間違いではありませんが、あなたが話すことがないようなディアロまで準備して、本来伝えたいディアロの質が低下しては元も子もありません。

この段階では、自分が話さない、または自分と関係のないディアロを増やしてしまう人が多いです。このようなディアロ（セリフ）はいくら作っても心がこもっておらず、せっかくインプットしてもすぐに忘れてしまうのです。実戦で自分が使わないリネアであればすぐに錆びれてしまいます。

したがってこの段階で気をつけるべきことは、何でもかんでもディアロ（セリフ）を増やすのではなく、あなたが口にする表現や口にする可能性が高い内容を吟味して、あなたが心から伝えたい、話したい、表現したいという点を重視し、数ではなく質を上げるということです。

② 第二段階：ディアロ（セリフ）の組み合わせとアレンジに悩む段階

ディアロの書き方や使い方が分かるようになってくると、ネイティブとの会話がとても楽しくなってきます。ネイティブとの会話でも、その場で頭の中でスペイン語作文をすることなく言いたいことがスラスラと口から出てくるという快感を味わうことができるのもこの段階ですね。もう楽しくて仕方がないので、ディアロ（セリフ）を増やすことも苦になりません。

しかし第二段階では、ディアロ（セリフ）の組み合わせやアレンジが思うように出来ず悩む人が多いのです。第一段階では事前に準備しインプットしたことをそのまま話せば、それで何とか通じます。しかし、あなたの会話レベルが伸びてくると、それだけでは物足りなさを感じるようになります。

外国人は論理的な話が大好きです。「昨日代官山に買い物に行った」という事実を話しているだけでは、幼稚なスペイン語になってしまうわけですね。つまり、何を買ったのか、なぜ買ったのか、なぜ代官山なのか等々、それに関連する他の内容を論理的に組み立て、話をする必要がある、というわけです。

ただ「〇〇です」と言うだけでは、ネイティブからすると「それで？」となりますので、なぜ〇〇なのか、と言う原因や理由、そして結論というのもとても重要な要素なのです。この部分をあなたのディアロ（セリフ）に組み込んでいくことで、あなたのスペイン語表現がより論理的な、洗練されたものになっていくでしょう。そして、よりスペイン語会話を楽しむことが出来るようになるということです。

ディアロ（セリフ）の組み替えやアレンジについては先にお話しましたが、「汎用のブロック（一塊の語句）」「間投詞」「他のディアロやフレーム（構造）」も意外と便利に使うことが出来ます。これらについては全部覚えるというよりは、あなたが使いやすいものや好きなものを定番として覚えておくといいでしょう。

汎用ブロック（一塊の語句）や間投詞はそれ自体には特に大した意味があるわけではないので軽視する人が多いです。ですがネイティブ同士の会話を聴いてみるとよく分かりますが、pues とか bueno 等、特に大した意味を持たないつなぎの言葉をよく使います。

このような言葉は、実際の会話の内容に直接影響があるわけではありませんが、潤滑油として活用することでスペイン語をスムーズに話したり、話の流れを自然にしたりすることが出来ます。日本人はこういう言葉をあまり使いませんが、よりネイティブのスペイン語に近づけたい、というのであれば、このような語も積極的に使ってみると良いでしょう。

尚、完全な形での組み替えやアレンジでなければいけないと思う人が多いのですが、そこはあまり気にしない方が良いでしょう。例えば「昨日代官山に行って自分の服を買った」というディアロ（セリフ）があったとします。ここで、Ayer yo fui a Daikanyama ya compré mi ropa. というところを、Ayer yo fui a Daikanyama. と Yo compré mi ropa. と分けたり、Yo compré mi ropa. Ayer yo fui a Daikanyama. という順番になってしまっても全然問題ないということです。あまり**完全な形**に囚われず、もっと自由にディアロ（セリフ）を使ってみましょう。

③ 第三段階：ディアロ（セリフ）に捉われなくなるが故に元の段階に戻ってしまう恐れがある段階

この段階になると特に意識しなくても無意識の状態で言いたいことがスムーズに口から出て来て気持ち良くスペイン語が話せるようになります。いわばこの段階がスピーキングの最終目標です。しかし、この段階においても注意すべき点があります。

それは、無意識のうちに言いたいことが口から出てくる一方で、ちょっと難しいことを言おうとした時に、その場で考え頭の中でスペイン語作文をしてから話す癖が再びついてしまう可能性があるということです。要は、最初のスピーキング法に逆戻りしてしまうということです。

ディアロ（セリフ）に拘り過ぎてもいけないし、また軽視し過ぎてもダメだということです。大事なことは、ディアロ（セリフ）によるスペイン語会話の原則は守り、慣れて来ても決してその場でスペイン語作文をしないということです。その場でスペイン語作文をするようになると、事前の準備をしなくなってしまう。確かにある程度会話力がついて上級者になると、それほど入念に事前の準備をしなくてもスペイン語を話せるようになります。

ですが事前の準備を疎かにすると、やはりスペイン語は話せなくなるのです。常に会話の内容を想定し、また周囲にアンテナを張り巡らせて新たな情報やスペイン語の表現を取り入れることが大切です。どんなに上級者になっても、決して驕り高ぶることなく、初心を忘れることなく精進し続けましょう(^^)

ディアロ式スピーキングの最新ノウハウとトレーニング法

スピーキング力向上に絶大な効果を期待できる「ディアロ（セリフ）式」についてお話してきました。ディアロ式を実践されると分かると思いますが、既にお話したように、ディアロ（セリフ）はスペイン語会話を成立させるための大まかな土台のようなものであり、準備したディアロ（セリフ）だけで会話が全て成立する、というものではありません。これを先に理解しておかないと、ディアロ式を実践されて「全然話せませんでした...」とかなり落ち込まれる方がいますので、注意が必要です。

つまり、ディアロ（セリフ）というのは会話の「きっかけ」を作る役割だとも言えます。あなたが準備したディアロをきっかけに会話が始まります。レベルが上がってくると、そこからドンドン話を広げることが出来るのですが、最初是一个のディアロ（セリフ）を発するのには精一杯で、その後の話がなかなか続きません。そんな時でも、ディアロ（セリフ）で全てが成立すると思わず、まず会話の土台を作りその中で短いディアロやブロック（一塊の語句）を付け足していくという形で会話をしていくと良いです。慣れてくると、会話を広げることが出来るようになってきて、どんなことを言えば話が盛り上がるかも分かるようになってきます。

私の場合はディアロ（セリフ）を用いた会話を始めたのが、もう四年位前になりますが、ネイティブの方と話す機会がある時には常にディアロ（セリフ）を事前に準備して、それを頼りに会話をしていました。実際に、それでスペイン語を話せるようになったと言えます。

最初は「自分専用のフレーズ」なんて思っていたんですが、今でも毎日、自分が使いそうなディアロ（セリフ）— その日に見て感じたこと、言いたいことや伝えたいこと、表現したいことを書いてはインプットしています。これはもう、私がスペイン語をやめない限りずっと続くんじゃないか、と思っています。

私は通訳者として活動していますが、専門的な内容の仕事、例えば野球やサッカー、環境や医療、デザインや化粧品等となると、尚更、この事前の準備を大切にしています。そして、この事前の準備がなければ、おそらくスムーズにスペイン語を話すことは出来ないでしょう。どんなに長く通訳としてやっても、専門的な内容でスペイン語を話す時というのは、事前にしっかりと話す内容や専門用語を確認しなければ、スペイン語を話すことは出来ないのです。この話はあなたにとっては少しショックでしたでしょうか(^^)

つまり、通訳者であろうと趣味でスペイン語をやっている人であろうと同じなのです。みんな涼しい顔で平然と話しているように見えますが、影で凄く努力している、ということですね。プロの通訳者であっても、自分が知っていることは聴き取れても、知らないことは絶対に聴き取れないのです。これはスピーキングでも同じです。知らない言葉は勝手に口から出てきたりはしないのです。だからこそ、任務を果たすために事前にしっかりと準備をするのです。プロの通訳者でもそこまで努力しているのですから、一般の方だって...もっとディアロ（セリフ）を準備し、インプットとアウトプットを実践して、しっかりと叩き込む必要がありますね。この部分をしっかりと理解しておいて下さい。

■オンラインスクールとディアロマスター式の融合トレーニング

さて、それではディアロ（セリフ）式スピーキング法でどのようにトレーニングしていけば良いのか、その方法についてお話して行きたいと思います。

最近はこの言語でもオンライン会話スクールが盛んです。実際にスペイン語会話教室やスクールに通うのではなく、自宅でスカイプ等を使ってパソコン上でレッスンを受けるサービスで、教室やスクールに通うよりも料金が安く、時間の融通が効きやすい、という利点があります。

こういうオンラインスペイン語会話には、スパニッシュオンライン、ウノドストレスやカフェトーク等があります。こういうスクールに関しては、有名どころでも講師の質に問題があったり、逆に無名なところでも評判が良かったりします。また、講師もスペイン人だけのところもあれば色々な国籍の講師がいるところもありますので、自分で気に入ったところで受講すると良いです。大抵のところでも無料でお試しが出来ます。「オンラインスペイン語会話」や「スカイプスペイン語会話」等のキーワードで検索してみてください。

私が推奨しているオンラインスペイン語会話の活用法は、まずはスペイン語会話向けのディアロ（セリフ）を準備し、それをオンラインの会話で実際に使ってみる、というトレーニングが基本となります。そして、ただ単にレッスンを消化して終わり、ではなく、レッスン中の会話を録音し、必ず後で内容を確認し、復習するようにして下さい。

スクールの規約もあると思うので録音が可能かは事前に確認は必要ですが、これを行うことで、自分が話せなかったことや聴き取れなかったことを確実に改善することが出来るようになります。ではここからは、詳細な手順をお話しますので、参考にして下さい：

①オンラインスペイン語会話に入会します。先にもお話したように、有名無名や良し悪しもありますので、「オンラインスペイン語会話」「スカイプスペイン語会話」等で検索し、自分に合いそうなスクールやサービスがあれば、無料お試しレッスンに申し込んでみると良いでしょう。

②入会手続きが終わったら、スペイン語会話のレッスンに申し込みます。が、その前にレッスン中に言いたい「ディアーロ（セリフ）」の準備を忘れないようにしましょう。ディアーロ（セリフ）に関しては既にお話した通り、自分が話したいことや伝えたいこと、表現したいことを吟味し、シンプルに短く、分かりやすいスペイン語で用意します。レッスンでパッとと言えるようにインプットし、アウトプット（音読）をするようにしましょう。

③実際にオンラインレッスンを受講します。スペイン語会話に費やすことが出来る予算や時間にもよりますが、集中的にスピーキング力を伸ばしたい場合はリスニング同様、高負荷を掛ければ掛けた分だけ上達しますので、中途半端にポツポツと受講するよりは、集中的にスペイン語を話す機会を作った方が効果的です。できれば週に一回は受講したいです。

④レッスンを録音します。ただ、先にも述べたようにスクールによっては禁止されている場合もありますので、事前に規約を確認して頂きたいと思います（自己責任でお願いします）。スカイプや ZOOM にも録音機能がありますし、それ以外にもフリーの録音ソフトもありますので、一度検索し、自分が使いやすいものを使って下さい。相手側に録音開始の表示をしたくない場合は非表示にも出来ると思いますが、盗聴のようになるといけませんので、**事前に許可を取る**等して下さい。

⑤レッスンが終わった後に、録音した内容を確認し、上手く話せなかったと感じた部分や、よく聴き取れなかった部分を、音声を確認しながら原因を分析してみましょう。そして上手く話せなかった内容は必ずその時点で（遅くともその日中または翌日中）に新たにディアーロとしてスペイン語で作り、しっかりと言えるようにインプットして下さい。この改善作業を出来るか出来ないかで、進捗状況にかなり差が出て来ます。

尚、レッスン内容を録音し復習するというトレーニングは、徹底的にやると相当な時間を要します。レッスンが 30 分程度であったとしても、実際に復習するとその都度一時停止をして調べたり聴き直したりしますので、それだけで 2～3 時間掛かることがあります。

徹底的に復習するのは良いことですが、あまり深みにハマってしまうのも考えものですので、この辺りはバランスを見ながら加減するようにしましょう。基本的には、話せなかった部分と聴き取れなかった部分の確認が出来れば十分なのです。

なぜスペイン語を聴き取れないのか？

オンラインでの会話でも実際にネイティブと直接対面しての会話でも、ディアーロを用意してインプットして口から出すことが出来れば、スペイン語を話すことは難しいことはありません。それは、「話す」という行為自体が**自分主導**であるからです。反対に、会話で相手の話を聴く、動画の内容を聴く、といった「聴き取る」という行為は**相手主導**、つまり**受け身**であるため、聴き取れたり聴き取れなかったりするものです。相手主導であるが故に、リスニング力を付けるには、それなりに時間は掛かります。

ここで、なぜ日本人はスペイン語を聴き取ることが出来ないのでしょうか？それには様々な理由が考えられます：

1. 単語や定番表現といった、ボキャブラリーの不足
2. スペイン語が雑音にしか聞こえない（言葉として認識出来ない）
3. 相手のスペイン語が早過ぎる、訛りがある、聴き取り辛い声である
4. 最初から「聴き取れない」と思い込んでいる
5. トレーニング時に掛ける負荷が絶対的に不足（聞き流しているだけ等）
6. 聴き取れても相手が話し終わると忘れていく（リテンション力の問題）
7. 集中して聴いていけない

だいたい上記のような理由からスペイン語を聴き取れないことの理由が考えられますが、それぞれについて詳しく説明していきたいと思います。

1. 単語や定番表現といった、ボキャブラリーの不足

これは、スペイン語を聴き取る力が十分にあるのですが、話のテーマに関する知識の不足や、専門用語を知らないことで生じる問題です。また、いくつかの語がひと塊になることで、個々の単語の本来の意味とは全く別の意味になる「定番表現」を知らないが故に生じる問題です。

2. スペイン語が雑音にしか聞こえない（言葉として認識出来ない）

そもそも日本語であっても、自分の知らない言葉は何度聞いても聴き取れないですし、認識も出来ないのです。故に、スペイン語を何も知らない人がいきなり聴き取りをしても聴き取れるわけがないのです。まずは、インプット→アウトプットの順番で学習することが重要です。

3. 相手のスペイン語が早過ぎる、訛りがある、聴き取り辛い声である

市販教材の音声に聴き慣れている人がネイティブのナチュラルのスペイン語を聴いた時によく起こる現象ですね。教材の音声は学習者が聴き取れるようにプロのナレーターが吹き込んでいますので、とても聴き取りやすいのです。が、実際には、ネイティブの中には早口であったり、ガラガラ声で聴き取りにくかったり、その地域特有の訛りがあったりという人がいるということですね。

4. 最初から「聴き取れない」と思い込んでいる

意外と軽視されがちなのが、この精神的な問題です。特にリスニングに関してはメンタルの状態がまともに影響しますので、出来るだけ平常心に近い状態で聴き取りを行うことが重要です。「聴き取れない」ではなく「大丈夫だ、聴き取れる」「少しくらい聴き取れなくてもいいや」という心構えで聴くと良いでしょう。

5. トレーニング時に掛ける負荷が絶対的に不足（聞き流しているだけ等）

最初のうちは市販教材の音声で良いのですが、やはりそれだけでは3番でも述べたように、実戦での聴解力を養うことは出来ません。また一時期は「聞き流すだけ教材」が流行りましたが、スペイン語を知らない人が何となく聴いているだけでは絶対に聴き取れるようにはなりません。スポーツに例えるなら筋力トレーニングと同じです。筋力に負荷のかからないことをいくらやっても筋力がアップしないように、リスニング力も「少し難しいな」と感じる内容の音声でなければ、力をつかないのです。

6. 聴き取れても相手が話し終わると忘れている（リテンション力の問題）

「全部聴き取ってやる！」という思いが強過ぎると、結局何を言っていたのか全然分からなかった、内容を忘れた、という結果になることが多いです。スペイン語は「追えば逃げる」という特性がありますので、一歩下がってリラックスして聴いてみるのも良いでしょう。

7. 集中して聴いていられない

4番のお話と重なる部分がありますが、スペイン語のリスニングはメンタルの状態が大きく影響します。疲労を感じている、不愉快なことがあって気分が悪い、そんな風に感じる時は、思い切ってスペイン語の勉強を休むのも良いでしょう。完璧に聴き取れた同じ内容を、気分が悪い別の日に聴くと全然聴き取れなかった、なんていうことはよくあることです。

以上、日本人がスペイン語の聴き取りが出来ない理由についてお話しましたが、これら7つのこと以上に大きな問題となる点について述べていきたいと思います。それは「**包括的なリスニング力の欠如**」という問題です。

包括的なリスニング力の欠如

スペイン語を聴き取れない理由は沢山あります。私たち日本人が日本語以外の言語を聴き取ることは大変なことです。しかし、だからと言って複雑に、難しく考えるのも良くありません。リスニングというのは、基本的には「掴み取り」のようなものです。

掴み取りというのは、機械に 100 円入れて操作し、中にある物を出来るだけ多く掴むゲームのようなものですね。この「出来るだけ多く」というのがポイントで、スペイン語のリスニングも同じ感覚で臨むべきなのです。

スペイン語を聴き取れない、と悩み続けている人は、「掴み取り」のゲームで中にある飴玉やぬいぐるみを全部掴みきれない...と言っているようなものです。そもそも、スペイン語でも日本語でもリスニングを行う時に「一語一句全て」を聴き取れる人なんていません。

これはどの言語であっても同じことが言えますが、私たち日本人はリスニングに際しては相手の話を一語一句全て聞き取らなければいけない、全て聞き取らなければ内容を理解できない、という、半ば強迫観念のようなものに苛まれている人が多いようです。これは本当に重要なことなのですが、相手のナチュラルなスペイン語を一語一句逃さず全て聴き取れる人はいません。というか、絶対無理ですから^^ これはベテランの通訳者でもなかなか至難の技と言えるでしょう。ネイティブスピーカーでさえ、そのような厳密な聴き取り方はしていないのです。

つまり、スペイン語を聴き取る時の原則として「掴み取り」のように、出来るだけ多くの情報（キーワード）を認識することが目的ではありますが、一方で全てを捉える必要はない、無理である、というスタンスを受け入れることが大切です。この感覚を理解出来れば、スペイン語を聴き取るということが、一語一句厳密に捉えるというのではなく、より包括的な尺度で聴き取ることであるとわかるでしょう。

「木を見て森を見ていない」と上司に言われたことがあるかも知れませんが、ニュアンスとしてはそんな感じですね。勿論「森ばかり見て木を見ない」のも困りますが、基本的にはスペイン語音声の全体的な、包括的な尺度からの聴き取りがベストだということです。そのような聴き取り方が出来れば、キーワードが聴き取れた時に、その単体の意味だけで理解するのではなく、全体の話の流れや、何についての話なのかという、話のテーマや主旨からより適切に理解することが可能になります。

スペイン語の聴き取りが苦手な人の特徴として「木」ばかり、つまり細かいことばかりに固執して微視的、局所的な捉え方しか出来ない、ということがあります。単語単体で狭い視野で捉えようとするので、ワケが分からなくなってしまうということです。

本や液晶に目を近づけ過ぎると逆に見えにくくなるのと同じで、単語単体にこだわり過ぎると、かえって何なのか分からなくなってくるのです。そんな時は、一步引いて全体を広く捉えてみてください。スペイン語音声なら、全体の話の流れや、話のテーマやその背景（バックグラウンド）、他の単語や表現との繋がり、という全体を広く捉えるように内容を推測すると良いのです。それが、包括的なリスニングということです。

スペイン語の研究にハマらないこと

またリスニングにおいては、スペイン語の「研究にハマらない」ように注意する必要があります。一体どういうことかということ、ネイティブが話すスペイン語というのは、ニュース番組や政治家たちのスピーチ、聴き取り用教材のような、あらかじめ原稿が用意されているもの以外は、殆どの場合、即興、その場のアドリブで話されているのです。ということは、文法的に間違っていたり主語動詞や前後関係が逆になったり、本来あるはずの語が省略されていたりと、定型の型では捉えることが出来ないものです。

ですが日本人は真面目な方が多いので、クソ真面目に文法に則って、これは過去形だからとか、現在完了形だからどうか、がんじがらめに厳密なルールで捉えようとします。特に頭の良い人ほど、そのようなお堅い解釈をしようとします。例えば、日本語の表現で言えば、

「今日はジムに行ってから飲みに行くんだ」

「今日はジムに行って、終わったら飲みに行くつもり」

「今日はジムが終わったら、飲みにも行く予定」

という、三通りの言い方があるとします。どの表現も「今日ジムに行った後、飲みに行く」ということが言いたいわけです。私たち日本人からすれば、どれも同じですよ？なのに、わざわざ「ジムに行ってから」と「ジムに行って」の言い方がどうだとか、「行くつもり」はその時に思ったこと、「行く予定」は元々決めていたこと等々、細かく説明するのが、スペイン語の「研究にハマる」＝研究家、ということです。

確かに、細かいことを言えば、三つの表現のニュアンスは微妙に違うでしょう。ですが、そんな細かい点を気にしながら話している人なんているでしょうか？ ^ ^

ここが、日本人が「スペイン語の研究にハマる」ことの怖いところなのです。要は「今日ジムに行った後、飲みに行く」ということが言いたいのであれば、前項の三つの表現のどれも OK ということですね。そしてそれを聴き取る時も、細かい文法の法則を必要以上に気にしなくて良い、ということなのです。

そうではなく、もっと包括的に、もっと大雑把に、大胆に聴き取るということが、日本人学習者にとってのリスニングにおける最も重要なポイントになるのではないのでしょうか。では次項からは、私がどれだけ「適当に」スペイン語を聴き取っているか、包み隠さずお話ししますので、くれぐれも驚かれないように読んで下さい(^ ^)



スペイン語の聴き取り方を知ろう

スペイン語学習者によく聞かれる定番の質問があります：

「宮崎先生はどのようにしてスペイン語を聴き取っているのですか？」

「どうすればスペイン語を聴き取れるようになりますか？」

既にお話したように、私はスペイン語の前に、英語の勉強をしている時に幸いなことに革新的な学習法に出会い、そこで聴き取り方を知ることが出来ました。これがなければ英語はおろか、スペイン語だって未だに聴き取れるようにはなっていなかったと断言出来ます。やはり、聴き取りには「リスニングの方法・コツ」というものがあるのです。

つまり、この方法・コツを知らずにいくら自宅でガムシャラに聞き取りの練習をしたところで、聴き取れるようにはならないのです。週末などの比較的時間が確保出来る日に、朝から晩までスペイン語漬けでスペイン語のドラマやDVDを繰り返し視聴し、その結果「スペイン語の音」が頭の中で自然に響き出す、という体験をされる方がいるのは事実です。

これはどういうことかと言うと、集中的に高負荷なリスニングトレーニングをやると、脳内にスペイン語を認識する回路のようなものが出来上がり、結果としてスペイン語を聴き取りやすくなったり、または聞こえたまま発音し、同じイントネーションで話すことで最高の発音を手に入れたり出来る場合があります。これをスペイン語耳の「開耳」の瞬間と呼ぶわけですが、今回は高負荷のトレーニングのお話もしますが、それだけでなく、もっと簡単でシンプルなものです。

まず、日頃からブログやメルマガで言っていることを再度確認させていただきたいと思いますが、スペイン語を聴き取るということは、一語一句逃さず厳密に聴き取り、まるで読んでいるかのように理解するのではない、ということをまず理解して下さい。

これはもう本当に何度も同じようなお話をブログやメルマガでしてきましたが、未だに読者の方に完全に理解して頂いているとは言えないのが現状です。それだけリスニングに対する苦手意識や今までの先入観が強い、ということなのでしょう。

皆、相手の話す語句を全て完全に聴き取ろうとします。確かに、間違った考え方ではありません。聴き取れる語句が少ないより多い方が、内容を推測しやすいからです。しかし、それはそういうスタンス（出来るだけ多くの語句＝情報を聴き取ろうとする姿勢）を言っているだけで、必ずしも全ての語句を逃さず厳密に聴き取る必要はないのです。というか、絶対無理ですし、ネイティブでさえそのような聴き取り方はしていないのです。

では、どのように聴き取れば良いのか、ということですが、今回は普段から私がどのようにスペイン語を聴き取っているのか、その感覚を可能な限り分かりやすく説明したいと思います。



宮崎はどのようにスペイン語を聴き取っているのか

実は、どのように聴き取っているかを説明するのは、意外と難しく、例えば「偏差値って何ですか？」と聞かれて説明するのと同じくらい難しいのです。なぜなら、スペイン語でも日本語でも、私たちは普段、言葉というのは殆ど「無意識」で聴き取っているからです。

しかし、今回は私が普段どのように聴き取っているのかを、可能な限り分かりやすく言葉にして説明しますので、スペイン語の聴き取りに悩まれている方の参考になればと思います。「なーんだ、それなら自分にも出来そうだ」と安心して頂ければ幸いです。

まず、ブログやメルマガも含めてこれまでに何度もお話しているとおり、スペイン語を聴き取れるようになった日本人は、スペイン語を聴き取る際に、一語一句逃さず厳密に聴き取っているのではありません。そうではなく、聴き取れた語句のみを拾い集め、それを元に話の内容を推測し理解しているのです。私の場合、聴き取れるのは以下のような語句です：

- ①自分が知っている単語やフレーズ（知らないものは絶対聴き取れない）
- ②強調された単語やフレーズ（キーワードは強調される傾向があります）
- ③繰り返される単語やフレーズ（繰り返し＝重要ワード）
- ④完全に理解できなくても、多分そういう意味だろうと推測できる語句
- ⑤根拠を説明出来ないが、何となく重要だと感じる語句

至極当然のことですが、あなたが知らない単語やフレーズは、音として認識出来たとしても意味を理解することは出来ません。耳から入ってきて理解出来るのは、**あなたが意味を理解しインプットされている単語やフレーズ**だけだということです。

そういう意味では、普段からなるべく多くの単語やフレーズ（ディアローセリフ）を知っておくことが大切です。ですが、ただ単に単語を知っているだけでは内容を理解することが出来ないというのもリスニングの特徴です。それは、今までも多くの学習者が片っ端からガムシャラに単語を覚えても一切聞き取れるようにはならなかったことが証明しています。

優先すべきは、**普段あなたが過ごしている環境や好きなことに関連する単語やフレーズ**である、ということですね。普段のあなたの生活環境に関わりのない単語やフレーズを苦勞して覚えたとしても、数日もすれば忘れ、何度覚えても忘れる可能性がかなり高いです。更に、単語単体で知っていることも強みになりますが、いくつかの語句がくっついた、いわゆる定番表現を知っていることも、日常会話では重要になってきます。

次に、少しテクニク的な話になりますが、ネイティブとの会話でもTVのニュース番組でも、話し手が人間であれば「**重要なキーワード**」は強く発音されます。それは、他の部分より大きな声で話したり、ゆっくり話したり、何度も繰り返し話されたりするので、すぐにキーワードだとわかるようになります。

誤解を恐れずに言わせて頂きますと、3割4割程度の重要な語句を拾い集めることが出来れば、話の全体の意味を推測することは可能です。実際ネイティブはその程度の情報で内容を把握しています。ですが、私たちが日本語を聴き取る時も、実は同じアプローチなのです。

ここは本当に重要なことなので何度でもしつこく言わせて頂くことになりますが、相手のスペイン語を全部聞き取ろうとはしないで下さい。絶対無理ですから(^^) 重要なことは、あなたの耳（頭の中）に印象に残った語句やフレーズ等です。それ以外は「大したことを言っていない」と割り切るようにした方が良いです。当然、多くの語句やフレーズを聴き取れた方が、それだけ内容を推測する為の情報が多いということではありますが、それには限界があります。なので、聴き取れなかった語句は追わない方が良いでしょう。追うのではなく、吸い寄せられたもの（聴き取れたこと）を「掴み取り」するようにしましょう(^^)

あと、④完全に理解できなくても、多分そういう意味だろうと推測できる語句、⑤根拠を説明出来ないが、何となく重要だと感じる語句なんかも意外と重要です。要は「何となく...」とか「話の流れからすると...」という感覚的に感じる事が最終的にはあなたを助けてくれるということです。

これは場数を踏むことで養われる感覚ではありますが、決して侮ってはいけません。相手の話を理解する、というのは、語句やフレーズといった言葉による情報と、相手の表情や身振り手振り、事前に下調べした話の背景といった深的な情報、そして「何となく」感じる感覚的な情報を総合的に拾い集め、内容を推測するということなのです。

実際のスペイン語音声を使った説明

では、ここで実際のスペイン語音声を使って、私がどのようにスペイン語を聴き取っているのかを説明しましょう。音声は、サッカーJリーグの、ヴィッセル神戸でプレーするスーパースター、アンドレス・イニエスタ選手の入団記者会見です。以下にYouTubeの動画URLを記載しておきますが、万が一削除されてしまった場合には「Iniesta Kobe」「Iniesta rueda de prensa Kobe」等で検索してみてください。

Rueda de prensa sobre nueva incorporación al equipo de Vissel Kobe

<https://www.youtube.com/watch?v=13ULFEre7uQ>

まずは、7:10～7:55 あたりまでだけで構いませんので聞いてみてください。

如何でしょうか？聴き取れましたか？

この入団記者会見でのスピーチは、どちらかというとスローなスペイン語なので、意味は分からなくても音だけは認識出来た、という方も多いのではないのでしょうか？

ここで、一般的な日本人であれば以下のような語句を聴き取れた、また認識出来たのではないのでしょうか：

Buenas tardes	「こんにちは」
día muy especial para mí	「私にとってとても特別な日」
muy importante…deportiva	「スポーツの…とても重要な」
para mí, para mi familia	「私と私の家族にとって」
poder estar aquí	「ここに居られるということが」
Mikitani, todo…equipo…Miura…confianza en mí	「三木谷社長、チームの皆さん、三浦スポーツダイレクター…私を信じてくださり」
proyecto…en este club y en la liga japonesa y en todo Asia	「プロジェクト…このクラブの、Jリーグそしてアジア全土に」

実際、全ての語句を聴き取れなくても、そして聴き取れたとしても語句として意味を認識出来なくても、前項の単語やパルテ（パーツ）が聴き取れば、聴き取れた情報のみで、以下のような内容を推測することは可能だと思いますか？

事前情報：アンドレス・イニエスタ選手のヴィッセル神戸入団記者会見

聴き取れた／意味を認識出来た語句から推測：

「こんにちは」「私にとってとても特別な日」

⇒ **皆さん、こんにちは。今日は私にとって、本当に特別な日となりました。**

（新しいチームへの入団記者会見での挨拶のため「こんにちは」「私にとって特別な日」というキーワードから上文を推測することは簡単ですね）

「スポーツの…とても重要な」

⇒ **スポーツ選手としての私の人生においてとても重要なことです。**

（いくつか聴き取れない、或いは意味を認識出来ない語句があったとしても、ヴィッセル神戸への入団記者会見であることを考えれば、ヴィッセル神戸に加入することが自分にとって重要なことである。というようなことを言っていることが想像できますね）

「私と私の家族にとって」「ここに居られるということが」

⇒ 私と私の家族にとって、ここ神戸に居るといことは素晴らしいことです。

（新しいチームへの入団記者会見で、ネガティブな発言はまずしませんから、これだけのことからでも、「ここに来ることが出来て嬉しい」というニュアンスのことを言っていると推測出来ますね）

「三木谷社長、チームの皆さん、三浦スポーツダイレクター…私を信じてくださり」

⇒ 私を信じてくださった三木谷社長、チームの皆さん、三浦スポーツダイレクターに感謝申し上げます。

（ここで「社長」「スポーツダイレクター」と書きましたが、これも、事前にヴィッセル神戸のことを調べれば、役職名が聴き取れなくても、また分からなくても事前の準備で補えるのです。で、ここまでの記者会見の内容から、自分を信じてオファーをくれたヴィッセル神戸の方々に感謝している、ということが推測できますね）

「プロジェクト…このクラブの、Ｊリーグそしてアジア全土に」

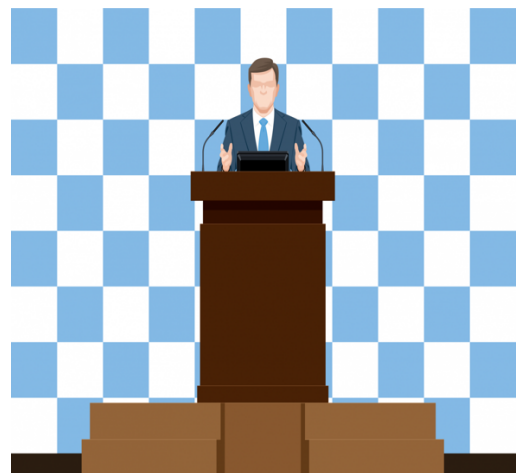
⇒ Ｊリーグ、そしてアジア全土に羽ばたいていこうという、このクラブのビジョン（プロジェクト）は素晴らしいと思っています。

（この部分も、入団会見であるということと、少し想像力を利かせれば、「クラブのビジョンに魅力を感じている」という内容が推測できますね）

如何でしょうか？ 全て聴き取れなくても、聴き取れた、または意味を認識できた語句のみで内容を推測し理解することが出来ますね。これが、自然な聴き取り方であり、まさに私が実践している（またはスペイン語を聴き取ることが出来る日本人が実践している）スペイン語のリスニング法そのものという事です。

ここで、実際に聴き取れた内容が正しいかどうか、もう一度イニエスタ選手のスピーチ音声を確認してみましょう、以下に、実際にディクテーションした内容を記載します：

Buenas tardes. Este...es un día muy especial para mí. Es un reto muy importante en mi carrera deportiva. Para mí, para mi familia, es...es algo...algo ilusionante el poder estar aquí. Quiero agradecer a míster Mikitani, a todo su equipo, a míster Miura por la confianza en mí por...por el proyecto en el que...en el que creemos y en el que queremos intentar dar un dar un paso más en este... en este club y en la liga japonesa y en todo Asia.



ここで、先ほど聴き取れた、または意味を認識できた語句のみを強調してみましょう：

Buenas tardes. Este...es un día muy especial para mí. Es un reto muy importante en mi carrera deportiva. Para mí, para mi familia, es...es algo...algo ilusionante el poder estar aquí. Quiero agradecer a míster Mikitani, a todo su equipo, a míster Miura por la confianza en mí por...por el proyecto en el que...en el que creemos y en el que queremos intentar dar un dar un paso más en este... en este club y en la liga japonesa y en todo Asia.

そして、以下が和訳です：

「こんにちは。今日は私にとって本当に特別な日となりました。サッカー選手としての私のキャリアのにおいて、とても重要な挑戦です。私と私の家族にとって、ここ神戸に居るということは本当に夢のようです。このチームを発展させ、Jリーグそしてアジア全土へ羽ばたいていこうというビジョンに向けて、私を信じてくださった三木谷社長、チームの皆さん、三浦スポーツダイレクターに感謝の意を伝えたいです。」

さて、ここで聴き取れた、または意味を認識できた語句のみから想定した内容をもう一度確かめてみましょう。

「皆さん、こんにちは。今日は私にとって、本当に特別な日となりました。スポーツ選手としての私の人生においてとても重要なことです。私と私の家族にとって、ここ神戸に居るということは素晴らしいことです。私を信じてくださった三木谷社長、チームの皆さん、三浦スポーツダイレクターに感謝申し上げます。Jリーグ、そしてアジア全土に羽ばたいていこうという、このクラブのビジョン（プロジェクト）は素晴らしいと思っています。」

如何でしょうか？ 詳しくディクテーションして和訳した内容と、聴き取れた、認識できた語句のみから推測した内容との間に大きな違いはない、ということが理解して頂けるのではないのでしょうか？

これが、リスニングの一例です。こんな感じでスペイン語を聴き取って居ることが理解頂けたでしょうか？ どの言語でもそうですが、聞き取りとなると、一語一句全て聴き取らなければ理解出来ない...という強迫観念に捉われている人が多いのですが、実際にはそのような聴き取り方をしなくても大丈夫なのです。何度も言うようですが、全て聴き取るなんて、絶対に無理なのです。ここは本当に重要なポイントなのでしっかりと理解しておいて下さい(^_^)



聴き取れた単語・ブロック（一塊の語句）から内容を推測する際の のコツ

スペイン語の聴き取りについては、これまでにブログやメルマガでも何度もお話してきましたが、聴き取り方は理解出来るけど**実際の聴き取り**が出来ない...という人がとても多いのです。

それは、何かスポーツを始めた人が、本やDVDで学んだとしても、実際にやってみて上手く出来るかと言えば、なかなかそういうわけにはいかないのと同じですね。つまり、**実戦の部分が重要**ということです。やり方を頭で理解するだけではダメだということですね。通訳と同じで、場数を踏むことがとても重要なのです。

だからこそ、私が実際に行なっている聴き取りのプロセスを紹介したわけですが、ここで難しいのは、聴き取れた単語やブロック（一塊の語句）から内容を推測する、という部分です。スペイン語の聴き取りが出来るか、出来ないのかは、ここにかかっていると言っても過言ではありません。

何よりも重要なのは「思い切った想像力」です。例えば、先ほどのアンドレス・イニエスタ選手の記者会見の一節をもう一度見てみましょう。

Para mí, para mi familia, es...es algo...algo ilusionante el poder estar aquí.

この文の中で、あなたが聞き取れた語句が Para mí, para mi familia 「私と私の家族にとって」と poder estar aquí 「ここに居られるということが」だけだったとします。ここで想像力のない人（又は推測しようとせず、聞き取れた語句のみで理解しようとする人）は、文字通り「私と私の家族にとってここに居られるということが」という意味にしか捉えることが出来ません。

しかし、少しでも想像力を働かせることが出来れば「入団記者会見」という背景から、イニエスタ選手にとっては「私と私の家族にとって、ここ神戸に居るということは本当に夢のようです」という内容を想像することが出来るわけですね。

リスニングの内容を想像／推測する上で重要な要素は以下の通りです：

- ①事前に分かっている背景（相手について知っていること等）
- ②前後の話の流れ
- ③一般常識（誰もが普通に考える、普遍的な常識）
- ④話し手のジェスチャー、表情や口調
- ⑤自分の立場に置き換えて推測すること

事前に分かっている背景（すでに知って情報）というのはとても大事です。例えばイニエスタ選手のスピーチでは「ヴィッセル神戸入団記者会見」というシチュエーションが、内容を理解する上でポイントになります。これだけでも「ヴィッセル神戸の一員になることが出来て光栄に思います」的な挨拶をするんだと推測出来ますね。

ネイティブとの会話においても、全く知らない人と話す、というシチュエーションよりは、多少相手のことを知っていたり共通の認識があったりした状況で会話が行われることが多いので、相手の言葉だけでなく、事前に手に入れた情報やこれまでの背景等から推測できることは多いです。

前後の話の流れも大切です。イニエスタ選手の「私にとって本当に重要な日となりました」という一文に関しても、これがあるからこそ「スポーツ選手としての私の人生」＝「サッカー選手としての私のキャリアにおいて重要なことです」という内容の推測が可能になる、というわけですね。

また**一般常識**も重要です。日本人は受験や学校のテスト等で「引っ掛け問題」や「意地悪問題」をこれでもか、というくらい経験しており、どうしても疑心暗鬼になってスペイン語を聴く人が多いのです。常識で考えれば、そんな訳ないのに...と思えるような奇抜な内容を想像してしまう人が多いのです。常に冷静に、一般的な常識の観点から推測して見ましょう。それだけでリスニング力はかなり伸びるはずですよ。

それと、**相手のジェスチャーや表情、口調**なんかも大きなヒントになりますね。聴き取りが得意な人は、相手のジェスチャーや表情、口調という些細な表現の違いを逃さず推測することが出来るのです。そしてそれは、常に相手の気持ちを自分に置き換えて考えているからこそ可能である、と言えます。つまり、自分ならこう言うだろう、相手はこういうことを言いたいんだろう、という、相手の立場を考える姿勢ですね。それが出来る人は聴き取りが強いのです。

日本語と同じ感覚で聴き取るとは可能なのか？

私たちは幼い頃から日本語で会話しているわけで、その母国語である日本語と同じ感覚でスペイン語を聴き取れるようになるには「毎日数分～するだけ」ではなく、さらに高負荷のトレーニングが必要です、というか、聴き取った内容を日本語と同じ理解度で理解するのは不可能です。何度も言うように、相手のスペイン語を全部聴き取るなんて 100%不可能だからです。ですが、私たちは日本語を聴き取る時でも、一語一句全て聴き取って、本でも読むかのように理解しているわけではないのです。

私たちは日本人との会話でも全て聴き取っているのではなく、脳が重要だと判断した語句の中から全体の内容を推測して理解しているのです。ただ、日本語とスペイン語の聴き取りでは「**脳が重要だと判断し聴き取った情報**」の数が違う、ということですね。であれば、日本語を聴き取るのに近い感覚でスペイン語を聴き取れるようになるには... そうです。聴き取れる「情報量」を出来るだけ多くすれば良いのです。

では、スペイン語で「聴き取れる情報」とは一体どういうもののでしょうか？それは、既にあなたが知っている語句、ということです。または、あなたが知っている単語であり、ディアロ（セリフ）であり、スペイン語のブロックやフレーム（一塊の語句や構造）でもあるのです。このようなボキャブラリーが脳にインプットされていればいるほど、聴き取れる（理解できる）情報が増えますので、スペイン語でも日本語を聴き取り理解する感覚に近づけることが出来ます。スペイン語が母国語でない以上、日本語と完全に同じ感覚で聴き取るとは不可能ですが、そこに近づくことは可能なのです。

そのためには、リスニングの練習だけでなく、他のインプット系のトレーニングも活用して、出来るだけ多くスペイン語のディアロ（セリフ）、ブロック（一塊の語句）、フレーム（構造）、そして単語を知ることです。

ここで注意したいのが、先にも述べましたが、何でもかんでも覚えるのは逆効果です。例えば、あなたがスペイン語圏の国と取引のある金融関係の仕事をしているとします。であれば、勤務中に使うスペイン語は金融関連が中心になるわけですが、そんなあなたが他の分野、例えば医学や環境に関連するスペイン語のディアロやブロック、フレームを覚えても使い物になりません。余裕があれば他の分野に手を広げて良いですが、まず第一では、**あなたに必要な分野のスペイン語から優先して取り組んで行くべきなのです。**

ニュース番組やドラマも良いですし、リーディングもそのようなスペイン語のディアロ、ブロック、フレームといった表現を身につける上では大切なトレーニングです。確かに「書き言葉」ですから、リスニング対策には役に立たない、と言われる方もいますが、決して役に立たないなんてことはありません。ニュース記事や文献なんかには、自分で調べるのが難しい、その分野の専門用語や頻出の語句の宝庫です。それに、インタビュー記事やネイティブ同士の会話がそのまま書かれているタイプの文であれば、リスニングにもスピーキングにも役に立つ口語の表現が沢山手に入ります。

かなり先にお話した四大スキルにおけるバランスが大事という話ではありませんが、リスニング力を上げたいからといって、リスニングトレーニングだけに捉われる必要はありません。リーディングやスピーキング、ライティングであっても、リスニング力向上に役立つのです。

疑心暗鬼にならないこと

先ほど少し触れましたが、私たち日本人は学校のテストや受験等で「引っ掛け問題」「わざと間違えさせる問題」を、これでもかというくらい経験してきました。そのことで、多くの学習者が、常に疑いの気持ちを抱きながらスペイン語に接しているのではないかと感じます。

「ひょっとすると、もっと重要な何かを聞き漏らしているのではないか...」
「こんな内容ではなく、全然違う内容のことを言っているのではないか...」
という感じで、常に自分が聴き取った内容を疑っているわけですね。これでは純粋な気持ちでスペイン語を聴き取れなくなってしまいます。

私たち日本人は外国語を何か凄い言葉なんじゃないかと、捉えがちですが、日本語と同じで気持ちを表現したり、必要なことを伝えたりするために使われているコミュニケーション・ツールなのです。少し落ち着いて考えれば、普通に難なく理解出来ることを「何か凄いことを言っているのでは...？」と疑いながら聴くと、内容を正確に把握出来なくなってしまうものです。

これはリーディングでも同じことが言えますね。書かれてある通りに捉えれば良いのに、それがスペイン語になると、書かれていない内容まで勝手に作り出してしまうのです。ここでも大事なことは、スペイン語に対して抱いている「特別感」「不安感」を取っ払うことです。スペイン語も日本語もコミュニケーション・ツールで何も変わりはないのです。日本語と同じスタンスで接すれば、必ず聴き取れるようになりますし、読解出来るようになります。

高負荷・短期集中のリスニング・トレーニングとその問題点

さて、この教本のはじめの方でお話したスペイン語習得の三原則を覚えていますか？**高負荷・短期集中・効率化**の三つでしたね。特にリスニング力向上のためには、この「高負荷」「短期集中」がまさに打って付けなのです。

文字だけ見ていると、なんだか難しいことをしなければならないのか？ と思われるかもしれませんが、決して難しいことをする必要はありません。週末や連休等、まとまった時間を確保できる時にスペイン語の音声を集中的に、何度も何度も繰り返し聴くという、いたってシンプルなトレーニングです。音声は、スペイン語圏の映画やドラマ、YouTube にアップされている音声等で構いません。

ここで注意して欲しいのですが、毎日少しずつ、というスタンスではなく、まとまった時間が確保できる時に、短期集中的に聴きまくる、という点です。一時期流行った「聞き流すだけ...」「毎日10分...」のような教材では、ハッキリ言うと負荷が掛からないため、ほとんど無意味なのです。そういう私も、当初は全く負荷が掛からない音声を聴いてみっちりトレーニングした気になっていましたが(^_^)

私たちは毎日朝から晩まで日本語を聞いて生活しています。そんな私たちの耳を【**スペイン語対応型**】に変えていくには、「聞き流すだけ...」「毎日10分...」のような生易しい負荷ではなく、それなりの負荷が必要というわけですね。

そんなわけで高負荷・短期集中のトレーニングを実践して頂きたいのですが、ここで、私がこれまでに実践してきた経験から言わせて頂きますと（今も変わらずトレーニングしていますが^^）、映画よりも、ドラマの DVD を使ったリスニングトレーニングの方が効果がある、ということです。

では、ドラマと映画の間に何の違いがあるのでしょうか？ それは**時間の長さ**にあるのです。つまり、ドラマの DVD であれば、一話分は一時間ものでも CM の時間等はカットされていますので正味 45 分位でしょう。一方で映画の方はドラマよりも時間は長く、2 時間とか、作品によっては 3 時間近いものもあるわけです。そして実は、この時間の違いの中に大きな謎が隠されていたのです。

これはリスニングトレーニングの題材に関する問題ですが、基本的には上映時間の長いものを次から次へと使うよりも、短いものを、それも同じものを何度も繰り返し使う方が効果があるのです。つまり、一度きりで長い映画を使うのではなく、45 分程度のドラマの一話分を何度も繰り返し視聴し、そのストーリーや役者のセリフを完全に覚えてしまうくらい聴きまくと良い、というわけです。

そもそも人間の**集中力**はそうそう長く保てるものではありません。短いドラマの方が良い、というのには**集中力**の問題も関係しているわけです。勿論、あなたが楽しみながらも集中してトレーニング出来るなら、映画でも全く問題はありません。実際、同じ映画を何度も視聴してリスニング力をアップさせている人も沢山います。

なお、スペイン語音声については、何度も繰り返し視聴することでストーリーや役者のセリフを覚えてしまう感じになると思いますので、飽きてきたら、つまり、脳に負荷が掛からなくなったと感じたら、新しい音声に移行して下さい。ただし、重要なので何度も言わせて頂きますが、それほど何度も視聴していないうちに（負荷が掛かり切っていないうちに）新しいものに取り換えるのはお勧めできません。それでは、長編映画を一度きりで使っているのと同じで効果がないからです。

重要な点は、比較的時間が短く、あなたが楽しいと感じる、また興味があるスペイン語圏のドラマを何度も繰り返し視聴する、という点です。ただ、いきなり 45 分でも長いと感じる場合は、45 分まるまる視聴する必要はありません。5 分とか 10 分でも良いので、繰り返し何度も視聴しましょう。この辺りは、あなたがやりやすい形で実践して頂ければと思います。

また、ここまでドラマや映画と言ってきましたが、そういう DVD を見つける、または手に入れるのが難しければ、YouTube にアップされている、あなたが興味を持てそうな動画でも構いません。まあ、最初は字幕がついている DVD の方が無難ではあります。

英語ほどは DVD を見つけるのが簡単ではないかも知れません。そういう場合は、Netflix なんかも良いでしょう。私も最近は Netflix のお世話になっています。是非、あなたが興味を持てる、楽しそうな題材を探して実践して頂きたいと思います。

高負荷・短期集中トレーニングに不向きな人

今からお話することも重要なポイントなので、しっかりと理解して頂きたいと思います。この高負荷・短期集中リスニング・トレーニングの目的は、スペイン語の聴解力を身につけるためであり、そのためにスペイン語圏の映画やドラマを推奨しているのですが、いざトレーニングを始めると「鑑賞」にシフトしてしまう人が意外と多いのです^^

これは「楽しみながら実践する」という観点から言えば問題ないのですが、「鑑賞」がメインになってしまうと、リスニングトレーニングの効果が薄れてしまいがちです。

リスニングのトレーニングでは、ネイティブのイントネーションを掴むことや国や地域による違いに慣れること、ネイティブが日常で使う定番の表現を手に入れることも重要なことと言えます。ですが、あまりにもストーリーにのめり込んでしまうと、スペイン語的な部分よりも、純粋な「鑑賞」になってしまい、それだけトレーニングの効果が薄れてしまうということですね。

ですから、どうしても「鑑賞」になってしまいがちであれば、まず最初は、トレーニングは関係なく「鑑賞」を楽しむことをお勧めします。もしあなたが、ストーリーを楽しみながらスペイン語のトレーニングも両立させることが出来るよ、というのであればそれでも構いません。大事なことは、スペイン語のリスニングトレーニングが疎かになってしまわないことです(^^)

それから、これはくれぐれも注意して頂きたいことなのですが、長時間パソコンで動画を観たりテレビで映画やドラマを鑑賞することで、具合が悪くなる方もいらっしゃいます。

私が推奨する高負荷・短期集中リスニング・トレーニングでは、長時間に渡りスペイン語圏のドラマや映画を視聴することになります。中には半日またはそれ以上に渡り視聴する方もいるでしょう。しかし DVD 等の冒頭に警告表示が出る通り、長時間パソコンやテレビ画面を観続けることは身体的に大きな負担となります。体調が優れない時などは、本当に具合が悪くなる可能性もありますので、特にご高齢の方などはご注意下さい。

* このリスニング・トレーニングは「自己責任」でお願いします。



危険な「リスニングの恐怖の法則」とは？

リスニング力というのは、人間の体でいう「筋肉」と非常に良く似ています。アスリートは筋肉をつけるために筋力トレーニングをやりますよね。バーベルや鉄アレイを使ったり、腕立て伏せや腹筋で筋力を鍛えます。そして強くするために**負荷**を掛けるわけです。ただ、筋肉に**負荷**が掛からないような**ゆる〜い**トレーニングでは筋力はつかないですよ。負荷を掛けて追い込んで筋肉痛になって、回復したらまた**負荷**を掛けて、ということを繰り返して強くなっていくわけです。

そしてこれって、スペイン語のリスニングトレーニングのコンセプトと同じなわけです。今でも「一日 10 分聞き流すだけ」という教材が人気がありますが、脳に**負荷**が掛からないのに力がつくはずがありません。そう、**ゆる〜い**トレーニングをいくら続けても筋力がつかないのと同じことですよね。筋肉痛になるくらい追い込むのと同じように、高い**負荷**を掛けて脳に刺激を与えない限り、スペイン語対応型の耳（脳）にはならない、ということですね。

こうしてみるとリスニングと筋力のトレーニングが似ているという点は分かりやすく良いのですが、これまた欠点というか、気を付けなければいけない点も似ているのです。それは、筋力トレーニングをサボれば筋力が落ちていくように、リスニングトレーニングをしなくなると、途端に聴解力が落ちてしまうのです。筋トレを1日や2日やったところで筋力がつかないように、リスニングも1日や2日トレーニングしたところで聴解力は向上しないのです。1ヶ月、2ヶ月と継続してやるから少しずつ筋力がアップするので、リスニング力（聴解力）もそれと同じなのです。

しかし、先ほども少し触れましたが、力がついたから、と安心してトレーニングしなくなると、一瞬にして力が落ちてしまいます。筋力も聴解力も1、2ヶ月掛けて少しずつ身につくわけですが、1、2週間トレーニングをやらなだけで瞬く間に元に戻ってしまいます。力をつけるには時間を要しますが、落ちる時は容赦なく残酷なくらい落ちてしまうのです。そして、これを**「リスニングの恐怖の法則」**と呼びます。法則と言えるくらい、誰にも共通して起こり得る恐ろしい現象です。

何が怖いのか、というと、身につけるには時間が掛かりますが、無くなるのは本当に一瞬である、という点です。よく「お金を貯めるには時間が掛かるが、無くなるのは一瞬だ」というようなことを聞きますが、それにも似ていますね。そして一度失ってしまうと、同じ力を取り戻すには、また同じくらいの時間が掛かってしまうのです。

継続してリスニングトレーニングをすると1、2ヶ月後には「あれ？ 私、聴き取れてる！」という瞬間が来ます。絶対に来ます。当然、そこまでのプロセスの中には、また聴き取れなくなったり、再度聴き取れるようになったり、という繰り返しで向上していくのですが、多くの人は「あれ、聴き取れてる！」と実感すると、その時点で安心してトレーニングを辞めてしまいがちなのです。つまり、油断してしまうのですね。

だからこそ、こういうお話をするのですが、先ほども言った通り、落ちる時は本当に一瞬で落ちてしまいます。なので、上手くいっている時ほど気を引き締めて頂きたいと思います。とにかく、あなたがスペイン語を続けている限りは、リスニングトレーニングは常に継続するようにして下さい。

宮崎が推奨するリスニング・トレーニング

ここまでは、リスニングに関するノウハウ・聴き取り方についてお話してきましたが、そのリスニング力を鍛えるのに適した、お薦めのトレーニング方法をご紹介します。

■海外ドラマや映画の DVD を使ったリスニング・トレーニング

これは、英語の学習者なら誰もがやっているトレーニング方法ですね。勿論あなたはスペイン語を学習するわけですから、スペイン語圏のドラマや映画が対象となります。ただ、これには欠点があります。英語であれば、ほとんどの作品に日本語吹き替え・日本語字幕・英語音声・英語字幕が全部ついていますが、スペイン語でこれを見つけようとしても難しいのです。殆どというか、ほぼ全てスペイン語音声・スペイン語字幕に、英語や他言語の音声と字幕がついたものになり、日本語の音声と字幕がついている作品は見当たりません。私の場合は、随分前に NHK で放送された「情熱のシーラ」というスペインのドラマの DVD を、日本でオンエアされた分と、原盤の DVD を買いました。今も使っています。スペイン語の音声と字幕は、原盤でしか手に入らなかったのも、わざわざ両方購入した、というわけです。日本版の DVD だと、内容も若干カットされていて、スペイン語の音声はありますが、スペイン語の字幕がないので原盤を輸入したのです。まずは日本版で日本語音声で鑑賞して内容を頭に入れてから、スペイン語音声とスペイン語字幕で視聴しています。上級者であれば、原盤でスペイン語音声とスペイン語字幕だけでもリスニングトレーニングは可能ですが、初心者はやはり、日本語も付いていた方がトレーニングをしやすいです。

ちなみに、以下に、スペインドラマ「情熱のシーラ」の日本版と原版的 DVD は以下となります。興味があるなら、取り寄せて使ってみて下さい。

「情熱のシーラ」－日本版 1

https://www.amazon.co.jp/情熱のシーラ-DVD-BOX-1-アドリアーナ・ウガルテ/dp/B00YP6A27Q/ref=sr_1_4?keywords=情熱のシーラ&qid=1651313219&srefix=情熱のシーラ, aps, 325&sr=8-4

「情熱のシーラ」－日本版 2

https://www.amazon.co.jp/情熱のシーラ-DVD-BOX-2-アドリアーナ・ウガルテ/dp/B00YP6S9YY/ref=sr_1_2?keywords=情熱のシーラ&qid=1651313219&srefix=情熱のシーラ, aps, 325&sr=8-2

「情熱のシーラ」－原版

https://www.amazon.co.jp/Tiempo-Costuras-Adriana-Ignacio-Mercero/dp/B00H7VRDY6/ref=sr_1_21?keywords=情熱のシーラ&qid=1651313219&srefix=情熱のシーラ, aps, 325&sr=8-21

ただ、少し値が張るということと、例えば、日本語で視聴していて、スペイン語の音声を確認したい場合は、わざわざ DVD を入れ替えるという手間が掛かりますので、今なら次項で説明する Netflix を利用した方がお得かも知れません。

■Netflix を使ったトレーニング

さて、リスニングトレーニングをするには、日本語とスペイン語の両方の音声と字幕があった方が、特に初心者には良いわけですが、その問題を解決してくれるのが、この Netflix です。知っている方も多いと思いますが、知らない方のために簡単に説明しましょう。Netflix というのは、アメリカ合衆国の定額制動画配信サービスのことです。料金プランにもよりますが、月々 ¥2,000-程でドラマや映画、アニメが見放題で、インターネットに接続しているパソコンやスマホがあれば、いつでもどこでも観ることが出来ます。このサービスを利用すれば、スペイン語圏のドラマや映画も視聴できます。おそらく無料お試し期間もあると思いますので、興味のある方は、是非一度試して見て下さい。ご自身で興味の持てる内容、会話シーンが多いものであればなんでも構いません。有料ではありますが、やってみる価値はあると思います。

Netflix が放映権を取得しているアニメやドラマ、映画であれば月額料金で見放題です。例えば、少し古いですが、アメリカの大ヒット映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」を Netflix で視聴することが出来ますが、アメリカの映画ですが、Netflix であればスペイン語でも視聴することが出来て、字幕も付いています。音声や字幕の言語の設定は簡単に出来ますので、とても楽しくリスニングの練習や、カッコいいセリフ、定番の表現を手に入れることが出来ます。

ただ、バック・トゥ・ザ・フューチャーはアメリカの映画なので、スペイン語での視聴の場合、実際のスペイン語の音声と字幕が一致していません。音声も字幕も双方正しいのですが、原版の全体の放送時間に合わす等の必要があるため、字幕通りではない、というのも止むを得ないのかも知れません。

勿論、スペイン語圏の番組を月額料金で視聴することが出来ます。例えば、メキシコのドキュメンタリー番組「タコスのすべて」を Netflix で視聴することが出来ます。メキシコの番組なので、完璧なスペイン語音声と完璧なスペイン語の字幕で視聴することが出来ます。日本語音声は付いていませんが、日本語の字幕はありますので、最初はスペイン語音声と日本語の字幕で内容を確認してから、スペイン語字幕で視聴してみると良いです。

Netflix も、放映権を取得している番組しか放送出来ないのも、スペイン語圏のアニメやドラマ、映画等が全て Netflix で視聴出来るわけではありませんが、例えば、ネットでの検索で「スペイン ドラマ」「メキシコ ドラマ」等で検索すれば、日本語でタイトルが出て来ますので、そういうのを検索して Netflix で視聴出来るか確認してみると良いです。

ちなみに、Netflix には「マイリスト」という機能があり、よく視聴する番組やお気に入りの番組を登録することが出来ます。そうすることで、Netflix へログインする度に検索する手間が省け、マイリストをクリックすれば、すぐに視聴することが出来ます。

今は私がやったようにわざわざ DVD を取り寄せるよりは、Netflix の方がリーズナブルで良いのではないかと思います。他にも、Hulu 等、Netflix と同様の動画配信サービスがありますが、Netflix が個人的には一番お勧めです。

Netflix

<https://www.netflix.com/jp/>

やり方のコツですが、まず最初は純粹にその映画やドラマを鑑賞し、内容を頭に入れてから実際にリスニングトレーニングに入っていくと良いです。

例えば、音声をスペイン語、字幕を日本語にして視聴しているとしましょう。例えば、スペイン語で役者が「Nunca voy a olvidarte.」と言い、その部分の日本語字幕で「決して君を忘れない。」となっていたとしましょう。つまり、Nunca voy a olvidarte. というスペイン語のフレーズは「決して君を忘れない。」という意味なんだ、ということで、もし、あなたが相手にそのようなセリフを言いたい時は、Nunca voy a olvidarte. と言えば良い、というわけです。

このような感じでリスニング力を高め、定番のスペイン語表現（セリフ）を抽出していく、ということなのです。

■日本のアニメを使ったトレーニング

これもなかなか楽しいリスニングトレーニングです。日本のアニメは海外でも人気が高いですが、あなたの好きなアニメを、是非、スペイン語字幕で観てみましょう。日本アニメと言いましたが、ディズニーやピクサーなんかもお勧めです。たまに「なんだ、子供向けじゃないか...」と仰られる方がいますが、内容が分かりやすいですし子供が理解しやすい言葉なので、学習者にはうってつけなのです。「今のセリフはスペイン語でなんというのだろう」というのがあれば、すかさずチェックしてインプットしましょう。私の場合は、まずは日本語音声とスペイン語字幕で視聴しています。

例えば、アニメを観ていて、その中で「世界を救うんだ！」というセリフがあったとしましょう。そのセリフでスペイン語字幕が「¡Voy a salvar al mundo!」だったとしましょう。そこで、「あ、そうか。“世界を救うんだ！”というセリフはスペイン語だと、” ¡Voy a salvar al mundo!” っていうんだ…」というふうにして、スペイン語のセリフを抽出していけば良いのです。

以下のサイトであれば、日本アニメのスペイン語版が手に入ります。購入前に確認はした方が良いでしょう。どの作品にも、日本語とスペイン語の音声と字幕がついています。ホームページには載っていないアニメでも、問い合わせをすれば手に入る場合もありますよ。こういうのは、自分が好きなアニメ、子供の頃に好きだったアニメでスペイン語版があれば、そういうのを取り寄せて使ってみると良いです。

アニメニア 日本アニメの海外正規品 DVD と BD 専門通販

<https://animenia.shop-pro.jp/>

■YouTube 動画を使ったトレーニング

これも王道の学習法と言えます。ここで、どんな動画を使ってトレーニングすればいいのか？ ということですが、最初のうちはご自身で興味関心の持てる内容の動画を使うことをお勧めします。スペイン語でキーワードを入力すれば、幾らでも検索できます。最初は、あまり長時間の動画は逆効果になる場合もありますので、1、2分～5分以内の動画を使うと良いでしょう。例えば、entrevista a Iniesta と入力すれば、イニエスタ選手のインタビュー動画やテレビ番組に出演している動画がヒットします。まずは、興味のある内容でやってみて下さい。但し、字幕を表示させることは出来ませんが、第三者が厚意で投函していますので、内容が合っていない場合も多いです。

私はメルマガでも YouTube 動画を使ったトレーニングを推奨していますが、スペイン語圏の動画はいくらでも探すことが出来ますが、日本語の音声も日本語字幕もありませんので、動画について解説してくれる講師がいれば良いトレーニングになりますが、自宅等で一人でトレーニングするとなると、どちらかと言えば上級者向けのトレーニング方法と言えます。

■Peppa Pig Español を使ったトレーニング

これも YouTube で視聴できます。いかにも子供向け、という感じですが、絵が非常に分かりやすく、スペイン語を理解できなくても映像が分かりやすいので「あ、こんな言い方をすればいいんだ」という発見が多いでしょう。始めたばかりの初心者にはうってつけですね。

Peppa Pig Español Latino - Canal Oficial

<https://www.youtube.com/channel/UCrreHSUa5rmuCVDeO8dX4eA>



その他、スペイン語習得に関する情報

ここまで私がお薦めするリスニング・トレーニング法をご紹介してきましたが、その他スペイン語習得に関する情報をご紹介します。

■プチ旅行でスペイン語学習

スペイン語を勉強する人には、海外旅行が好きな人が多いです。ただ、特にスペイン語圏の国へ旅行に行くとすると、金銭的問題やお仕事の関係で、誰もが簡単に出来ることではありませんが、スペイン語の学習という点では、かなりお薦めです。これは実際に旅行するのではなく、旅行に行くと仮定して、あなたの興味のある観光地や泊まりたいホテルや旅館について、スペイン語で閲覧する、という勉強法です。オススメのサイトはトリップアドバイザーですね。例えば、あなたが京都の嵐山に行きたいとしましょう。「京都嵐山」と検索すると、嵐山に関連するツアーがたくさん出てきます。その**お客様のレビューをスペイン語で閲覧する**、というトレーニングです。この利点は、実際にそのツアーやホテル、旅館を利用したスペイン語圏の国の旅行者が書き込んだものであり、ネイティブが普段使う生のスペイン語でレビューが書かれていますので、日常会話表現の宝庫ですし、比較的短いのでスペイン語の勉強にはちょうど良いのです。本当に旅行に行く必要はありませんので、あなたの興味関心のある日本や世界の観光地をトリップアドバイザーで検索し、色々と読んでみて下さい。「お客様のレビュー」「口コミ」でスペイン語を選択すれば、いくらでも出てきます。出来れば朗読し、そのレビューを見ずに言えるようになれば更に効果的です。

Tripadvisor

<https://www.tripadvisor.jp/>

■リアルな交流でスペイン語学習

最近は何となく行くことがなくなりましたが、以前は良く、スペイン語圏の人たちが集まるレストランやバーに通っていました。中南米やスペイン出身のオーナーが経営しているお店なら、スペイン語圏の人が飲みに来たりしていることがありますので、そういう人たちと仲良くなって話すのもいいトレーニングになります。また、イギリス系のパブやバーであれば、外国人が飲みに来ていますので、運がよければスペイン語圏の人にもいるかも知れません。または、ネットなんかで検索すれば、スペイン語圏の外国人と日本人の交流会のようなイベントがあると思いますので、そういうのに参加するのもお勧めです。ただ、あなたはスペイン語を話したくても、相手は日本語で会話したい場合もありますので、その辺りは臨機応変に対応する必要があります。

これも気を付けなければいけませんが、単に出会いを求めている人や、中にはなんらかの下心を持っているフドキ者もいますので、特に女性の方は注意が必要かと思います。日本人女性は簡単に釣れると思っている外国人男性は意外と多いですから、注意しましょう。日本人と違い、外国人は知らない人同士でも気さくに話をしますが、嫌なことを言いますが、外国人＝良い人、とは限らない、ということは肝に命じておきましょう。

■Lang-8でスペイン語学習

これは有名ですね。簡単に説明すると、あなたが外国語で書いた文章を、ネイティブが添削してくれる、そして外国人が書いた日本語を添削してあげる、という言語学習者向けの相互添削型の SNS です。ただ、なぜか現在は新規登録がストップされています。運営自体は続けているようですね。

Lang-8

<https://lang-8.com/>

上記のリンクにアクセスすると、今は新規登録を停止しており、「添削機能の利用につきましては、新サービス HiNative のご利用をお願いします」と表示されています。恐らく、対象は英語の添削のみなのだと思います。

尚、手前味噌ではありますが、私の方でも講座運営として、今後は添削も取り入れていくことになると思いますので、その際に興味があれば、ご検討ください。

■スペイン語をスペイン語で調べる

これはどういうことかという、通常は知らない単語は前後の文脈から意味を推測するか、どうしても分からなければ辞書を使います。通常、外国語の学習者であれば、日本語で単語の意味を説明している辞書で調べ理解しています。それも良いのですが、ここではもう少し負荷をあげて、スペイン語をスペイン語で説明しているサイト・アプリを使い意味を理解する、という学習方法です。これもお薦めの学習法で、毎日 30 分くらい続ければ、数ヶ月後には驚くほどスペイン語力が向上していることに気づくでしょう。どちらかというと、中級者上級者向けの学習法ですが、スペイン語の学習にマンネリ感を感じているなら、ぜひやってみて下さい。

Diccionario de la lengua española

<https://dle.rae.es/palabra>

補足講座

では、ここまでに私の語学遍歴や具体的な勉強法などについて書いてきましたが、最後に、具体的にどうやって実践するのか、ということも含め、動画の中で解説をしていますので、是非、視聴して参考にしてください。

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第1回

プチ旅行でスペイン語学習

<https://youtu.be/Hi0Y-VPSgus>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第2回

プチ旅行でスペイン語学習2

<https://youtu.be/vsa1OMGJPOE>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第3回

ニュース記事でスペイン語学習

<https://youtu.be/81X0oFbliXw>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第5回

YouTube 動画のコメントでスペイン語学習

<https://youtu.be/BGk-FHE5mwk>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第 6 回

Netflix を使ってリスニングトレーニング

https://youtu.be/A7ni4Fz3S_0

【会員専用】ネットフリックス：映画ドラマ検索追加説明

<https://youtu.be/GrSv7lmxcG4>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第 7 回

Peppa Pig を使ってリスニングトレーニング

<https://youtu.be/Ek3bYUQYB1I>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第 8 回

日本アニメを使ってリスニングトレーニング

<https://youtu.be/OErGSB3HvMk>

■【スペイン語】ディアーロゴ補足講座第 9 回

通訳者も実践するシャドーイング・リピーティング

<https://youtu.be/5gP7YZsEUBY>

■【会員専用】スペイン語アルファベット

<https://youtu.be/0ZCAYS3vSpo>

■【会員専用】スペイン語：数字と日付

<https://youtu.be/DP2nQbin8Kw>

■【会員専用】スペイン語：曜日

<https://youtu.be/PKaNwkJ2UAU>

おわりに

時代は西暦 2022 年。オリンピックイヤーの 2022 年を迎えたばかりの頃は、誰が今のような世界的危機を想像したでしょうか？ おそらく多くの日本人が「いよいよオリンピックイヤーだ！」と希望を膨らませていたことでしょう。1 年延期され開催されましたが、多くの外国人が日本を訪れるはずが、入国規制により叶わず、無観客開催。オリンピックイヤーに向けて語学学習に勤しんでいた学習者にとっては、その成果を発揮する場が奪われた形となり、本当に残念なことでした。

それでも、やはりスペイン語学習はこれからも続けていって欲しいのです。今はインターネット環境も充実し、より世界と繋がりやすい時代となっています。また、ワクチン摂取も広がり、外国人の日本への入国制限や海外への渡航、海外からの帰国時の制限が緩和される動きも出てきています。つまり、コロナとの共存（with コロナ）に向かって進み出しているのです。そうなれば、また以前のように多くの外国人観光客が日本を訪れるでしょう。そんな新しい時代に向けて、是非スペイン語を習得して頂きたいと思っています。

そしてインターネット環境の充実により便利になった時代ですから、もう以前のように語学スキルを身に付けるために高額を支払って留学する必要もなくなり「生のスペイン語」を使ったリスニングトレーニングが出来るようになりましたし、パソコンやスマートフォンがあれば、いつでもどこでもスペイン語の勉強が可能です。

語学習得といえば、駅前スクールに通ったり留学したりという選択肢しかなかった時代とは雲泥の差の環境が整っています。

それでも、ここ日本ではスペイン語を話せる人がまだまだ少ないというのが現状です。スペイン語は、英語・中国語とともに世界三大言語の一つです。こんな便利な時代になったのですから、是非、もっと多くの日本人にスペイン語を話せるようになって欲しいと、心から願っています。が、私は環境よりももっと大切なことがあると思うのです。それは多くの日本人が外国語に対して抱いている劣等感や外国人に対して抱いている強い憧れの気持ち、というメンタル的要素を超えていくことが大切だと思うのです。

実際のところ、日本人の中にも既にスペイン語の基礎はできていて、十分にスペイン語を話す力を持っている人が多くいるのです。しかし、その多くの日本人が頑なに「まだ話せない」「全然聴き取れない」と言い続けるのです。ネイティブとだって十分に楽しんで会話できる力があるのに、謙遜して「全然話せません」「ちょっとだけ」「聴き取れない」と繰り返すのです。

残念ではありますが「話せない」「聴き取れない」と言っている間は、絶対に話せるようにもならないですし、聴き取れるようにもならないのです。少しでもスペイン語を話せるのなら、極端な話、Buenos días. しか言えなくても、その時点で「私はスペイン語を話せます!」「スペイン語を聴き取れます!」と堂々と言い切るべきなのです。先に宣言してしまうことで「自分はスペイン語を話せるんだ」というセルフイメージを先に植え付けてしまうということですね。

外国人なんて、本当に挨拶しか日本語で言えなくても、なんの迷いもなく
「日本語を話せます！」堂々というのですから、あなたも遠慮なく言い切っ
てしまいましょう。

言ってしまった後で「なんだ、全然話せないじゃないか！と思われたらどう
しよう…」と心配する人がいますが、というか殆どの人がそういう心配をし
ますが、言わせておけば良いのです。そうではなく、先に「スペイン語を話
せる」と宣言することで、話せるようにならなければいけない状況を先に作
り出す、宣言した後で、それにふさわしい自分になる、ということですね。

この教本を読んで頂いたあなたには、今すぐにでも「私はスペイン語を話せ
ます！」「スペイン語を聴き取れます！」と笑顔で胸を張って言って欲しい
と思います。それがスペイン語を習得する上での正しい姿勢であり、方向性
でもあるのです。そのような前向きな、能動的な姿勢で続けていれば、必ず
スペイン語を話し、聴き取れるようになるはずです。私はいつもあなたを
応援していますので、立ち止まらずに前に進み続けましょう！

スペイン語通訳者・翻訳者

宮崎 博